

*Syllabus*

農学部  
地域創成農学科

吉備国際大学

授業科目名	吉備国際大から世界へ				履修期	2021年度 春学期		
担当者	末吉 秀二					NO.	GE-KE-1-001	
配当学科	農学部				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	吉備国際大学の教育目標「日本人としてのメンタリティと国際人としてのセンスを兼ね備え、豊かな人間性を有する、社会に優位な個性ある人材の育成」の一環として行われる授業。したがって本講義は、大学教育の序論に位置づけされており、地域とともに世界の文化や社会の多様性を学ぶことにより、地域に根差しながらグローバルに活躍できる国際人の所用を習得する。また、本学の学生として求められる知的基盤を培うことができる。							
概要	授業の前半期は、南あわじの現状と課題を知るために、地方自治、郷土史、まちづくり、農業・酪農・漁業分野など幅広い分野から外部講師を招き講義を行う。後半期は、海外経験のある学内教員および外部講師により、世界（ヨーロッパ、南北アメリカ、西アジア、東南アジアなど）の文化や社会の多様性について講義し、学生の理解を深める。							
評価方法	「本学の学生に求められる知的基盤を培うことができる」の到達目標を計るため、小レポート(50%)、授業への積極的な参加態度を合計して総合的に評価する。							
履修条件・注意事項	積極的に授業に参加すること。							
自己学習	予習として、日ごろより社会情勢に関心をもつこと。復習として、授業で習得したことを社会情勢と関連付けてみること。							
オフィスアワー	月曜日・金曜日(3限、5限)							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1.オリエンテーション 2.21世紀の大学の役割(地方と世界を結ぶ) 3.地方自治と第1次産業(南あわじの取り組み) 4.淡路の歴史 5.農村の景観と地域づくり 6.南あわじ市の農業と現状と課題 7.南あわじ市の漁業と現状と課題 8.南あわじ市の酪農と現状と課題 9.西アジア(ヨルダン)の事例 10.南米(メキシコ)の事例 11.東南アジア(ベトナム)の事例 12.東アジア(香港)の事例 13.南米(ニカラグア)の事例 14.ヨーロッパの事例 15.東南アジア(ミャンマー)の事例		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	末吉 理事長  外部講師  外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 末吉 村上 外部講師 濱島 外部講師 金沢 外部講師					
教科書 1	適宜、使用を配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名		地域学概論				履修期		2021年度 春学期					
担当者		平井 順、正井 良徳、武田 信一							NO.	GE-KE-1-002			
配当学科		農学部				年次		1					
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義			
テーマと到達目標		人びとが自然と共存しながら育んできた歴史と文化について学ぶことによって、南あわじの自然や風俗、人間性について理解を深める。これらの学習を通して自然への感謝や畏敬の念、自然との共存の大切さ、文化財産の価値や大切さについての意識の向上をめざす。――南あわじのことを知って、南あわじが大好きに――											
概要		南あわじの古代から近代にいたる歴史と、そこから生まれた文化について学び、農耕と政治・経済・民俗とのつながりについて理解する。写真や映像等によって人びとの生活や心情が実感できる授業とする。 (武田信一／6回)「古事記」の冒頭を飾る国生み神話の舞台となり、産物の豊かな御食国であった古代、武家政治のもとで生き抜いた中世、徳川幕藩体制下で阿波藩に所属した近世、明治期、近代社会と共に歩んだ南あわじの歴史について教授し、農業の発達と民俗の密接な関わりについて理解を深める。 (正井良徳／9回)近世に起こり、今も盛んな俳句や雑俳文芸、農耕生活の中で育まれた淡路人形浄瑠璃、風流踊り・盆踊りなどの民俗芸能、建造物や仏像・仏画等有形文化財、史跡・記念物・埋蔵文化財などを通して豊かに花開いた南あわじの文化について学び、人びとの生活・心情・南あわじの風土について理解を深める。											
評価方法		テストおよび課題(提出物等)、受講態度などによって総合的に評価する。 テスト80% 課題(提出物等)10% 授業態度10%											
履修条件・注意事項		必要に応じてプリントを配布するので、初回授業よりファイルを用意すること。											
自己学習		事前に指示された課題について調べ、積極的に授業に参加すること。各自授業ノートを作成し、復習すること。試験は必ず行うので、予習、復習することで講義内容への興味と理解を深めるよう努力すること。自己学修に用いる参考書を下欄に列記しておくので、指示によりその都度志知キャンパス図書室あるいは市立図書館、中央公民館図書室等を活用して、課題解決読書を積極的に行うこと。											
ワイズワ-		授業終了後教室にて。											
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
〔南あわじの歴史〕 1みはらのあけぼの 2大和政権とみはら 3武士の時代とみはら 4阿波藩の時代と三原 5三原の近代化 〔南あわじの文化〕 6南あわじの民俗行事 7南あわじの踊り 8淡路人形浄瑠璃―発祥と発達 9淡路人形浄瑠璃―広がりと特色 10淡路人形浄瑠璃―継承と鑑賞 11淡路だんじりとだんじり唄 12南あわじの文芸 13南あわじの有形文化財 14南あわじの史跡 15南あわじの遺跡・人物 16単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験		武田 武田 武田 武田 武田 武田 武田 正井 正井 正井 正井 正井 正井 正井 正井 平井								
教科書 1		毎回プリントを配布する。											
教科書 2													
参考書 1		「淡路島の民俗」(和歌森太郎) 「南あわじの民俗」(武田信一) 「伝統芸能淡路人形浄瑠璃」(淡路人形協会) 「兵庫の歴史散歩」 「みはらの文化」 「南淡町の文化財 ふるさと訪ね歩き」 「西淡の文化財」 「淡路学読本」 「淡路地域の風土資産」 「淡路の伝統芸能と文化」 「淡路島物語」(角田直美) 出版社: 吉川弘文館 神戸新聞総合出版 三原町教育委員会 山川出版社 三原町教育委員会 南淡町教育委員会 西淡町教育委員会 淡路県民局 淡路県民局 淡路県民局 国書刊行会											
参考書 2													

授業科目名		地域貢献ボランティア				履修期		2021年度 春学期							
担当者		山本 慶子						NO.		GE-KE-2-003					
配当学科		農学部				年次		2							
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義					
テーマと到達目標		テーマ:ボランティア活動が地域交流および地域貢献に果たす役割の大きさを体得 到達目標:社会の一員として地域を知り、無償の働き方から得る感謝の言葉は、ボランティア活動を通して人間形成の成長に大きな責任と役割を習得できます。ボランティア活動を通して、地域の問題や課題発見ができ、それを解決する方法を社会貢献と捉えます。仕事の基礎から応用まで範囲を拡大し、創造性につながる体験は自分の未来予想の構築に大きな財産として構築できます。													
概要		キャリア教育の一環としてボランティア活動の積極的な参加は、様々な体験から人格形成につながり、企業も好ましい人材として評価を行ないます。将来、企業・組織のなかで人を束ねリーダーシップを発揮する時、地域貢献は社会人の基礎力にもつながり、大きな成長が期待できます。 ボランティア活動は、予定表(5月～1月末まで)から活動時間、合計が20時間以上になるように選択し、活動をおこないます。 その後、ボランティア活動報告書(1,000字以上)を作成し、グループ発表を行います。													
評価方法		ボランティア活動状況60%、発表20%、活動報告書20%で評価。													
履修条件・注意事項		大学が加盟する任意保険(学生教育研究災害障害保険〔学研災〕)に加入。 ボランティア活動時は、ボランティアカードと学生証を携帯し、受入れ事業者の指示に従い、事故に注意する。ボランティア終了時には、活動時間を記入し、事業者に終了確認印を受領すること。													
自己学習		ボランティア活動に参加する前に、参加するボランティア活動の内容について、インターネットなどを活用して調べておくこと。また、ボランティア終了後にはその都度活動の内容について振り返りを行い、記録を整理しておくこと。													
オフィスワ-		授業終了後教室にて													
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
1. ボランティア活動の意義と社会的位置づけ 2. ボランティア活動の社会的役割とコミュニケーションによる人間形成 3. ボランティア活動と地域交流および地域理解 4. NPO法人などボランティア活動について 5. ボランティア活動 6. ボランティア活動 7. ボランティア活動 8. ボランティア活動				講義  講義  講義  講義  実習 実習 実習 実習		山本 慶子  山本 慶子  山本 慶子  山本 慶子  外部講師 外部講師 外部講師 外部講師		9. ボランティア活動 10. ボランティア活動 11. ボランティア活動 12. ボランティア活動 13. ボランティア活動 14. 活動報告書作成(1000字以上) 15. 活動内容発表 16. 試験				実習 実習 実習 実習 実習 AL 講義 レポート試験		外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 山本 慶子 山本 慶子 山本 慶子	
教科書 1		資料を適宜配布													
教科書 2															
参考書 1															
参考書 2															

授業科目名	キャリア開発Ⅰ					履修期	2021年度 春学期		
担当者	板倉 利治						NO.	GE-CG-1-001	
配当学科	農学部					年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・ワーク		
テーマと到達目標	「キャリア発達論」に基づいて、学生一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリア形成をしていくために必要な意欲や態度、能力を育てていく。さらには、大学生活で直面するであろう様々な課題に向き合い、対応していくことで、大学生として必要なキャリア発達課題に向き合い、卒業後に迎える社会人・職業人として自立していくことを到達目標とする。								
概要	<p>大学教育の持つ「専門的な知識・技能」に対し、当授業は将来、社会人・職業人として自立していくために必要な「基礎的・基本的な知識や技能」を講義及び、個人ワーク(個W)・グループワーク(GW)と組み合わせながら、大学生としての発達に沿って、実践的に身に付けていく講義を行う。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目</p> <p>この科目は、企業の採用担当者としての20年以上の実務経験を持つ講師が、その経験を活かし、卒業後の進路選択について実践的に役立つ授業を実施する。</p>								
評価方法	この科目での評価方法は、5つの基本項目について行う。その5つとは①傾聴力②読解力③文章表現力④会話力⑤思考力である。具体的には、個人ワークやグループワークでの参加姿勢、ミニレポート内容(70%)、期末時の筆記試験(30%)の総合で評価する。								
履修条件・注意事項	毎講義ごとにプリントを配布するので、ファイルを準備すること。欠席した場合は、その日の資料を友人などから借りてコピーを取っておくこと。								
自己学習	考えることに主眼を置いているので、講義で出てきたキーワードを考えて貰いたい。この学びは付け焼き刃的に成り立つものではなく、日々の行動による小さな積み重ねに基づいたもので、1か月後、3か月後、6か月後の自分創りを目指していくものである。								
オフィスワ	講義終了後、教室にて								

教科書 2

参考書 1

参考書 2

授業科目名	キャリア開発Ⅱ				履修期	2021年度 春学期		
担当者	板倉 利治					NO.	GE-CG-3-002	
配当学科	農学部				年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・ワーク	
テーマと到達目標	「キャリア発達論」に基づいて、学生一人一人のキャリア発達を支援する。特に、これから大学生活だけではなく、社会とこれから向き合っていく段階として、必要となる「意識」「態度」「能力」を育成していく。さらには、就職活動で直面するであろう様々な課題に向き合えるような考え方や姿勢を身につけ、社会人・職業人として自立していくことを到達目標とする。							
概要	<p>学生生活で得た経験を振り返り、これから社会と向き合っていく自身のキャリアについて考える。具体的には、社会人生活で切り離せない「人との関係性」について、社会性・協働性と共に自分のものとしていく。さらには、「雇用される能力」を理解し、就職に必要な知識と能力を身につけていく。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目</p> <p>この科目は、企業の採用担当者としての20年以上の実務経験を持つ講師が、その経験を活かし、卒業後の進路選択について実践的に役立つ授業を実施する。</p>							
評価方法	①傾聴力 ②読解力 ③文章表現力 ④会話力 ⑤思考力の5項目に基づき、講義時の参加姿勢及びミニレポート内容・筆記試験(70%)、期末筆記試験(30%)の総合評価にて行う。							
履修条件・注意事項	必要に応じ、プリント配布するので、ファイルの準備をし、個々人しっかり管理すること。(ミニレポートについても同様)							
自己学習	必要に応じて課題を提供するので、個人でもチームでも主体的に取り組むこと。特に就職活動は、一人一人のマッチング活動となるので、自身の気づきが重要となる。どれだけ自分が気づいたかが、課題の実際の成果となる。							
オフィスアワー	講義終了後、教室にて							

春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
第1回 キャリアについて考える① 今までの学生生活を考える		講義・ワーク	板倉			
第2回 キャリアについて考える② 働く目的を考える		講義・ワーク	板倉			
第3回 キャリアについて考える③ 就職について考える		講義・ワーク	板倉			
第4回 キャリアについて考える④ 成りたい自分について考える		講義・ワーク	板倉			
第5回 キャリアについて考える⑤ キャリアデザイン1		講義・ワーク	板倉			
第6回 関係性を強める① 面接を経験する		講義・ワーク	板倉			
第7回 関係性を強める② 自分を伝える1		講義・ワーク	板倉			
第8回 関係性を強める③ 自分を伝える2		講義・ワーク	板倉			
第9回 関係性を強める④ グループディスカッションを理解する		筆記試験	板倉			
第10回 関係性を強める⑤ 職業特性を理解する			板倉			
第11回 就活に向けて① 業界・企業を知る			板倉			
第12回 就活に向けて② 求人票を理解する			板倉			
第13回 就活に向けて③ 自己理解を進める			板倉			
第14回 就活に向けて④ 起業について理解する			板倉			
第15回 就活に向けて⑤ キャリアデザイン2			板倉			
第16回 筆記試験			板倉			
教科書 1	使用せず					
教科書 2						
参考書 1	講義の中で随時紹介					
参考書 2						













春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
				1. 文法 be動詞 現在形 肯定文 ・否定文・疑問文 2. Vocab Quiz・文法 形容詞と名詞 3. Vocab Quiz・文法 副詞 4. Vocab Quiz・文法 be動詞 現在形 肯定文・否定文・疑問文 5. Vocab Quiz・文法 一般動詞 肯定文 6. Vocab Quiz・文法 一般動詞 否定文 7. Vocab Quiz・文法 一般動詞 疑問文 8. Vocab Quiz・文法 疑問詞を使った 疑問文① When,Where 9. Vocab Quiz・文法 疑問詞を使った 疑問文② Who,What 10. Vocab Quiz・文法 疑問詞を使った 疑問文③ Why,How 11. Vocab Quiz・文法 疑問詞を使った 疑問文④ 長い疑問詞 What kind of 12. Vocab Quiz・文法 疑問詞を使った 疑問文⑤ 長い疑問詞 How+形容詞/ 副詞 13. Vocab Quiz・文法 be動詞、一般動 詞を使った受け答え 14. Vocab Quiz・文法 be動詞 過去形 肯定文 15. Vocab Quiz・文法 be動詞 過去 形 否定文 16. 試験	講義  講義 講義 講義  講義  講義  講義  講義  講義  講義  講義  講義  講義  講義  試験	今田  今田 今田 今田  今田  今田  今田  今田  今田  今田  今田  今田  今田  今田  今田
教科書 1	使用しない(必要に応じてプリントを配布します)					
教科書 2						
参考書 1						
参考書 2						



春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
				1. 文法 接続詞 2. Vocab Quiz・文法 名詞と形容詞 3. Vocab Quiz・文法 副詞 4. Vocab Quiz・文法 TOEIC Part V 品詞 形容詞と副詞 5. Vocab Quiz・文法 TOEIC Part V 品詞 名詞と動詞 6. Vocab Quiz・文法 比較級と原級 7. Vocab Quiz・文法 最上級 8. Vocab Quiz・文法 受動態① 動作主のあるもの 9. Vocab Quiz・文法 受動態② 動作主のないもの 10. Vocab Quiz・文法 助動詞① 許可、推量 11. Vocab Quiz・文法 助動詞② 許可・推量以外の助動詞 12. Vocab Quiz・文法 前置詞 13. Vocab Quiz・文法 slash reading 14. Vocab Quiz・文法 不定詞 15. Vocab Quiz・文法 動名詞 16. 試験	講義 講義 講義 講義  講義  講義 講義 講義  講義  講義  講義  講義 講義  講義 講義 試験	今田 今田 今田 今田  今田  今田 今田 今田  今田  今田  今田 今田  今田 今田 今田
教科書 1	使用しない(必要に応じてプリントを配布します)					
教科書 2						
参考書 1						
参考書 2						









授業科目名		中国語Ⅳ				履修期		2021年度 秋学期							
担当者		吉田 慶						NO.	GE-LC-2-004						
配当学科		農学部				年次		2							
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義					
テーマと到達目標		テーマ「発音 会話 読解」 ・発音がしっかりできるようにする ・語彙を増やす ・単語の意味、用法、文の構造を理解できるようにする													
概要		学習した基礎中国語より更に高度な文法事項及び表現等を学習します。 本クラスは、特に会話を重視、実践的な日常会話ができる中国語をマスターするよう指導します。 終了者は、1000語程度の単語をマスターさせ、中国語検定4級合格を目標に指導します。													
評価方法		試験(60%)、小テスト(20%)、授業態度(20%)													
履修条件・注意事項		ノートをしっかり取っておくこと、復習を十分にしておくこと													
自己学習		復習として、毎回の授業内容を読み、理解しておきましょう。授業中に習った漢字は書けるよう練習しましょう。 予習として、次の授業内容を読み、わからないところは意味を調べておき授業を受けること。													
オフィスアワー		授業終了後教室にて													
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
								1.第31課(旅行1)				講義		吉田慶	
								2.第31課(旅行1)第32課(旅行2)				講義		吉田慶	
								3.第32課(旅行2)				講義		吉田慶	
								4.第33課(旅行3)				講義		吉田慶	
								5.第33課(旅行3)第34課(診察を受ける)				講義		吉田慶	
								6.第34課(診察を受ける)				講義		吉田慶	
								7.第35課(見舞い)				講義		吉田慶	
								8.第35課(見舞い)第36課(お別れの挨拶)				講義		吉田慶	
								9.第36課(お別れの挨拶)				講義		吉田慶	
								10.第37課(送別会)				講義		吉田慶	
								11.第37課(送別会)第38課(託送)				講義		吉田慶	
								12.第38課(託送)				講義		吉田慶	
								13.第39課(送別1)				講義		吉田慶	
								14.第39課(送別1)、第40課(送別2)				講義		吉田慶	
								15.第40課(送別2)				講義		吉田慶	
								16.期末試験				筆記試験		吉田慶	
教科書 1		新訳第3版 中国語会話301(下) 出版社:語文研究社 ISBN:978-4931315518													
教科書 2															
参考書 1															
参考書 2															

授業科目名	日本語ⅠA				履修期	2021年度 春学期		
担当者	今田 圭介						NO.	GE-LJ-1-001
配当学科	農学部				年次	1		
必修・選択	必須	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	日本語能力試験N2レベルの聴解を習得する。							
概要	＊日本語能力試験(JLPT)N2合格を目指します。 ＊N2レベルに必要な聴解能力を取得することを目的とします。 ＊シャドーイング、ディクテーション、フォニックスなどにより、確実に発音し、聞き取れる能力を磨きます。 ＊JLPT合格とともに生活や授業で使える日本語力を涵養します。 ＊オンライン授業ではイヤホンとマイク(ヘッドホンも可)は必須です。							
評価方法	授業評価は、学習意欲・態度(50%)、単位認定試験(30%)、レポート(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行なわれる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に日本語能力試験N2に合格しなければならない。							
履修条件・注意事項	＊留学生にとって必須の科目です。 ＊日本語ⅠA、ⅠB、応用日本語ⅠA、ⅠB、日本語研究ⅠA、ⅠBの履修中にN2合格をしてください。(N2に合格するまで日本語Ⅱ、応用日本語Ⅱ、日本語研究Ⅱを履修することができません) ＊テストだけでなく、発表、学習態度(授業への参加意欲、発話、質疑、復習などの自己学習)など、多様な方法で評価を行います。 ＊オンライン授業ではイヤホンとマイク(ヘッドホンも可)は必須です。							
自己学習	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には毎週の授業を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題(N2対策を含む)に取り組む。毎日1時間以上の予習と復習に取り組むこと。							
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間							

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.オリエンテーション・考查:学習の進め方、評価方法についての説明	講義	今田			
2. ポイント理解(4)、即時理解(5-8):マラソン中継、短い会話など数種	講義	今田			
3. 概要理解(4)、即時理解(9-12): 大学講義のオリエンテーション、短い会話など数種	講義	今田			
4. ポイント理解(5)、即時理解(13-16): 学生の会話、短い会話など数種	講義	今田			
5. 概要理解(5)、即時理解(17-20):主婦の会話、短い会話など数種	講義	今田			
6. ポイント理解(6)、概要理解(6):働き方、マンション購入など	講義	今田			
7. 課題理解(7)、ポイント理解(7):結婚式の服装、レポート提出など	講義	今田			
8. 概要理解(7)、即答理解(21-24):手帳`デジタルorマニュアル、短い会話など数種	講義	今田			
9. 統合理解(1-2):電車通勤中のアクシデント、新人賞受賞式など	講義	今田			
10. 課題理解(8)、ポイント理解(8):仕事の優先順位、出張など	講義	今田			
11. 概要理解(8)、即時理解(25-28):公開講座、短い会話など数種	講義	今田			
12. 統合理解(3-4):サークルの合宿、天気予報	講義	今田			
13. ポイント理解(9)、即時理解(29-32):最近のテレビ視聴率、会社での受け答え	講義	今田			
14. 概要理解(9)、即時理解(33-36):仕事における競争主義、うちうちにして	講義	今田			
おいて	講義	今田			
15. ポイント理解(10)、即時理解(37-40):ゼミの発表を終えて、ほったらかし	講義	今田			
しておいていいの?	講義	今田			
	講義	今田			

教科書 1	授業で配布する。オンライン授業の場合は画面上に掲示する。
教科書 2	
参考書 1	
参考書 2	

授業科目名	日本語ⅠB					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	今田 圭介						NO.	GE-LJ-1-002	
配当学科	農学部					年次	1		
必修・選択	必須	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	日本語能力試験N2レベルの聴解を習得する。								
概要	＊日本語能力試験(JLPT)N2合格を目指します。 ＊N2レベルに必要な聴解能力を取得することを目的とします。 ＊シャドーイング、ディクテーション、フォニックスなどにより、確実に発音し、聞き取れる能力を磨きます。 ＊ JLPT合格とともに生活や授業で使える日本語力を涵養します。 ＊オンライン授業ではイヤホンとマイク(ヘッドホンも可)は必須です。								
評価方法	授業評価は、学習意欲・態度(50%)、単位認定試験(30%)、レポート(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行なわれる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語は必須であり、学生は、原則として本科履修中に日本語能力試験N2に合格しなければならない。								
履修条件・注意事項	＊留学生にとって必須の科目です。 ＊日本語ⅠA、ⅠB、応用日本語ⅠA、ⅠB、日本語研究ⅠA、ⅠBの履修中にN2合格をしてください。(N2に合格するまで日本語Ⅱ、応用日本語Ⅱ、日本語研究Ⅱを履修することができません) ＊テストだけでなく、発表、学習態度(授業への参加意欲、発話、質疑、復習などの自己学習)など、多様な方法で評価を行います。 ＊オンライン授業ではイヤホンとマイク(ヘッドホンも可)は必須です。								
自己学習	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には毎週の授業を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題(N2対策を含む)に取り組む。毎日1時間以上の予習と復習に取り組むこと。								
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1.オリエンテーション・考査:学習の進め方、評価方法についての説明 2. 基礎的語彙、表現などの確認:N2取得に向けての語彙、表現を確認 3. 課題理解 10,11,12:トピックのつかみ方 4. ポイント理解 7,8,9:メインポイントのつかみ方 5. 概要理解 7,8,9:概要のつかみ方 6. 即時応答 9,10,11,12,13,14:慣用句、応答内容のつかみ方 7. 課題理解 13,14,15:トピックのつかみ方 8. ポイント理解 11,12,13:メインポイントのつかみ方 9. 概要理解 10,11,12:概要のつかみ方 10. 即時応答 15,16,17,18,19,20:慣用句、応答内容のつかみ方 11. 統合理解 3,4,5:トピック、メインポイントのつかみ方 12. 課題理解 16,17,18,19:トピックのつかみ方 13. ポイント理解 14,15,16,17:メインポイントのつかみ方 14. 概要理解 13,14,15,16:概要のつかみ方 15. 課題理解 7,8,9:慣用句、応答内容のつかみ方			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	今田 今田 今田 今田 今田 今田 今田 今田 今田 今田 今田 今田 今田 今田 今田
教科書 1	授業で配布する。オンライン授業の場合は画面上に掲示する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	日本語ⅡA				履修期	2021年度 春学期		
担当者	今田 圭介					NO.	GE-LJ-2-003	
配当学科	農学部				年次	2		
必修・選択	必須	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	日本語能力試験N1レベルの聴解を習得する。							
概要	＊日本語能力試験（JLPT）N1合格・高得点を目指すことを目的とします。 ＊シャドーイング、ディクテーション、フォニックスなどにより、確実に発音し、聞き取れる能力を磨きます。 ＊検定の合格だけでなく発話や自ら学ぶ力を涵養します。 ＊オンライン授業ではイヤホンとマイク（ヘッドホンも可）は必須です。							
評価方法	授業評価は、学習意欲・態度（50%）、単位認定試験（30%）、レポート（20%）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行なわれる。より高度な大学教育を円滑に進めるためにも、積極的な受講と自宅学習が望まれる。							
履修条件・注意事項	＊N1取得を目指す講座のため、N2以上を取得した留学生のみ履修できる講座です。 （N2未取得者は日本語、日本語研究、応用日本語のそれぞれⅠA、ⅠBを履修してください） ＊他の日本語科目も履修し、総合的な力を身につけることを奨励します。 ＊テストだけでなく、発表、学習態度（授業への貢献度）、宿題の提出、レポートなど、多様な方法で評価を行います。 ＊オンライン授業にはイヤホン、マイクが必要です。							
自己学習	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には毎週の授業を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（JLPT対策を含む）に取り組む。毎日1時間以上の予習と復習に取り組むこと。							
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間							

春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. オリエンテーション・考査:学習の進め方、評価方法についての説明		講義	今田			
2. ポイント理解(4)、即時理解(5-8):マラソン中継、短い会話など数種		講義	今田			
3. 概要理解(4)、即時理解(9-12): 大学講義のオリエンテーション、短い会話など数種		講義	今田			
4. ポイント理解(5)、即時理解(13-16): 学生の会話、短い会話など数種		講義	今田			
5. 概要理解(5)、即時理解(17-20):主婦の会話、短い会話など数種		講義	今田			
6. ポイント理解(6)、概要理解(6):働き方、マンション購入など		講義	今田			
7. 課題理解(7)、ポイント理解(7):結婚式の服装、レポート提出など		講義	今田			
8. 概要理解(7)、即答理解(21-24):手帳~デジタルorマニュアル、短い会話など数種		講義	今田			
9. 統合理解(1-2):電車通勤中のアクシデント、新人賞受賞式など		講義	今田			
10. 課題理解(8)、ポイント理解(8):仕事の優先順位、出張など		講義	今田			
11. 概要理解(8)、即時理解(25-28):公開講座、短い会話など数種		講義	今田			
12. 統合理解(3-4):サークルの合宿、天気予報		講義	今田			
13. ポイント理解(9)、即時理解(29-32):最近のテレビ視聴率、会社での受け答え		講義	今田			
14. 概要理解(9)、即時理解(33-36):仕事における競争主義、うちうちにしておいて		講義	今田			
15. ポイント理解(10)、即時理解(37-40):ゼミの発表を終えて、ほったらかしておいていいの？		講義	今田			
		講義	今田			
教科書 1	授業で配布する。オンライン授業の場合は画面上に掲示する。					
教科書 2						
参考書 1						
参考書 2						

授業科目名	日本語ⅡB					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	今田 圭介						NO.	GE-LJ-2-004	
配当学科	農学部					年次	2		
必修・選択	必須	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	日本語能力試験N1レベルの聴解を習得する。								
概要	＊日本語能力試験(JLPT)N1合格・高得点を旨とするを目的とします。 ＊シャドーイング、ディクテーション、フォニックスなどにより、確実に発音し、聞き取れる能力を磨きます。 ＊検定の合格だけでなく発話や自ら学ぶ力を涵養します。 ＊オンライン授業ではイヤホンとマイク(ヘッドホンも可)は必須です。								
評価方法	授業評価は、学習意欲・態度(50%)、単位認定試験(30%)、レポート(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行なわれる。より高度な大学教育を円滑に進めるためにも、積極的な受講と自宅学習が望まれる。								
履修条件・注意事項	＊N1取得を目指す講座のため、N2以上を取得した留学生のみ履修できる講座です。 (N2未取得者は日本語、日本語研究、応用日本語のそれぞれⅠA、ⅠBを履修してください) ＊他の日本語科目も履修し、総合的な力を身につけることを奨励します。 ＊テストだけでなく、発表、学習態度(授業への貢献度)、宿題の提出、レポートなど、多様な方法で評価を行います。 ＊オンライン授業にはイヤホン、マイクが必要です。								
自己学習	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には毎週の授業を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題(JLPT対策を含む)に取り組む。毎日1時間以上の予習と復習に取り組むこと。								
オフィスワ－	授業終了後、休憩時間								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1. オリエンテーション:学習の進め方、評価方法についての説明 2. ポイント理解(11)、即時理解(41-44):引越しについて、お気兼ねなくどうぞ 3. 概要理解(10)、即時理解(45-48):アレルギーについて、お手すきですか？ 4. ポイント理解(12)、即時理解(49-52):びっくりしたことについて、そんなことが通る世の中？ 5. 概要理解(11)、即時理解(53-56):旅行会社での会話、先日の約束なかったことに… 6. ポイント理解(13)、概要理解(12):レストランの定食、匂いと記憶 7. 課題理解(9)、ポイント理解(14):料金について、会社での新企画 8. 統合理解(5-6):核家族について、その他 9. 統合理解(5-6):社内での評価、スーツケースのカタログ 10. 課題理解(10)、ポイント理解(15):どこに座る？、連休初日の出発時間について 11. 概要理解(14-15):マラソンについて、テレビ番組について 12. 統合理解(7-9)、課題理解(11):新商品ほか、仕事の指示 13. ポイント理解(16)、統合理解(10):乗り物の驚くべきところ、喫茶店 14. 概要理解(16-17)、統合理解(11):仕事に集中、大学生の就職率、入社式 15. ポイント理解(17)、統合理解(12):絵画(展覧会)について、会議の準備			講義	今田
								講義	今田
								講義	今田
								講義	今田
								講義	今田
								講義	今田
								講義	今田
								講義	今田
								講義	今田
								講義	今田
								講義	今田
								講義	今田
								講義	今田
								講義	今田
								講義	今田
教科書 1	授業で配布する。オンライン授業の場合は画面上に掲示する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名				応用日本語 I A				履修期		2021年度 春学期							
担当者				富岡 直美						NO.		GE-LJ-1-005					
配当学科				農学部				年次		1							
必修・選択				選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義					
テーマと到達目標				【テーマ】日本語能力試験N2レベルの文法を習得する。  【到達目標】 1. N2レベルの基礎的な語彙の意味や使い方がわかる。 2. 状況に応じて基礎的なN2文法表現を選択することができる。 3. JLPTでN2の合格レベルに到達する。													
概要				この授業では、日本語能力試験N2レベルの文法を中心に学習し、N2に合格することを目指します。まずN2レベルの文法を導入し、その後JLPT言語知識の実践問題の形式を理解して対応できるように進めていきます。													
評価方法				JLPT N2合格(40%)，提出物(30%)，発表・学習態度(30%)													
履修条件・注意事項				・留学生の必修科目です。他の日本語科目も履修して、総合的な力を身につけてください。（入学前にN1を取得し、面談により学科長が認めたものはこの限りではありません。） ・学習態度，課題の提出など総合的に評価を行います。ただし，この授業の目的であるN2合格が単位取得の前提条件になりますので，7月のJLPTに各自で申し込んで必ず合格できるように頑張ってください。													
自己学習				【事前学習】 テキストの新出語彙を書き出して調べてください。毎週、授業の最初に小テストを行います。 【事後学習】 まとめの問題を解いて、問題文も含めてすべて提出用紙に記述してください													
オフィスアワー				授業終了後、教室において実施する。													
春学期授業計画						授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
【第1回】オリエンテーション 学習の進め方、評価方法についての説明，プレイズメントテスト						講義		富岡									
【第2回】1 お知らせを読むスタッフ募集のお知らせ						講義		富岡									
【第3回】2 スピーチをする転任のあいさつ(1)						講義		富岡									
【第4回】2 スピーチをする転任のあいさつ(2)						講義		富岡									
【第5回】3 説明を聞くホテルの仕事						講義		富岡									
【第6回】4 ニュースを聞く台風情報						講義		富岡									
【第7回】5 友達同士の会話就職活動(1)						講義		富岡									
【第8回】5 友達同士の会話就職活動(2)						講義		富岡									
【第9回】6 友達同士の会話苦労した5年間(1)						講義		富岡									
【第10回】JLPT N2対策(1)JLPT本番形式の問題に挑戦						講義		富岡									
【第11回】JLPT N2対策(2)JLPT本番形式の問題に挑戦						講義		富岡									
【第12回】JLPT N2対策(3)JLPT本番形式の問題に挑戦						講義		富岡									
【第13回】6 友達同士の会話苦労した5年間(2)						講義		富岡									
【第14回】7 論説文を読むオオカミと生態系(1)						講義		富岡									
【第15回】7 論説文を読むオオカミと生態系(2)						講義		富岡									
						講義		富岡									
教科書 1		Try! 日本語能力試験N2文法から伸ばす日本語改訂版 著者:ABK 財団法人 アジア学生文化協会(著) 出版社:アスク出版 ISBN:978-4872179033															
教科書 2																	
参考書 1																	
参考書 2																	



[illegible]

授業科目名	応用日本語 I B				履修期	2021年度 春学期			
担当者	田村 剛志					NO.			
配当学科					年次	1			
必修・選択		単位数	2	時間数		授業形態			
テーマと到達目標									
概要									
評価方法									
履修条件・注意事項									
自己学習									
オフィスワ-									
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	応用日本語ⅡA					履修期	2021年度 春学期		
担当者	富岡 直美						NO.	GE-LJ-2-007	
配当学科	農学部					年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	【テーマ】日本語能力試験N1レベルの文法を習得する。 【到達目標】 1N1レベルの基礎的な語彙の意味や使い方がわかる。 2状況に応じて基礎的なN1文法表現を選択することができる。 3JLPTでN1の合格レベルに到達する。								
概要	この授業では、日本語能力試験N1合格を目指して、N1レベルの基礎的な文法を中心に学習します。 まずこれまでに学んだN2、N3レベルの重要文法を確認したうえでN1レベルの文法を導入します。その後、JLPTの実践問題の形式を理解して対応できるように進めていきます。								
評価方法	授業内試験(40%)，学習態度(30%)，提出物(30%)								
履修条件・注意事項	・この授業はN2合格者を対象としています。N2に合格していない人は履修できません。 ・N1未取得の留学生は、他の日本語科目も履修して、総合的な力を身につけてください。 ・試験だけでなく、学習態度、宿題の提出など総合的に評価します。								
自己学習	【事前学習】 毎週、予習を課します。これを元にして参加型学習法により授業を行いますので、準備してください。 【事後学習】 授業内で新しく学んだ語彙や文法を指示に従ってノートにまとめてください。								
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。								

春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
【第1回】オリエンテーション 学習の進め方、評価方法についての説明、プレイスメントテスト 【第2回】N2,N3の復習(1)助詞/副詞 【第3回】N2,N3の復習(2)接続詞/敬語 【第4回】N1対策 ポイント整理(1)言葉をつなぐ練習 【第5回】N1対策 ポイント整理(2)文を繋ぐ練習 【第6回】N1対策 ポイント整理(3)問題5のポイント 【第7回】N1対策 ポイント整理(4)問題6のポイント 【第8回】N1対策 ポイント整理(5)問題7のポイント 【第9回】N1直前対策(1)JLPT本番形式の問題に挑戦 【第10回】N1直前対策(2)JLPT本番形式の問題に挑戦 【第11回】N1直前対策(3)JLPT本番形式の問題に挑戦 【第12回】N1直前対策(4)JLPT本番形式の問題に挑戦 【第13回】応用日本語(1)ビジネス電話の表現 【第14回】応用日本語(2)ビジネス文書の表現 【第15回】まとめ		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡			
教科書 1	日本語能力試験N1文法 必修パターン 著者:氏原 庸子, 岡本 牧子 出版社:Jリサーチ出版 ISBN:9784863922334					
教科書 2						
参考書 1						
参考書 2						

授業科目名		応用日本語ⅡB				履修期	2021年度 秋学期		
担当者		富岡 直美						NO.	GE-LJ-2-008
配当学科		農学部				年次	2		
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標		【テーマ】日本語能力試験N1レベルの文法を定着させる。 【到達目標】 1 N1レベルの広範な語彙の意味や使い方がわかる。 2 状況に応じて的確に文法表現を選択することができる。 3 JLPTでN1の合格レベルに到達する。							
概要		この授業では、日本語能力試験N1合格を目指して、N1レベルの文法を中心に学習します。前期に学んだN1レベルの文法を整理し、どのように使われるかを理解します。その後、ビジネス日本語を題材として状況に応じて日本語を用いられるように進めていきます。							
評価方法		授業内試験(40%)，学習態度(30%)，提出物(30%)							
履修条件・注意事項		・この授業はN2合格者を対象としています。N2に合格していない人は履修できません。 ・N1未取得の留学生は、他の日本語科目も履修して、総合的な力を身につけてください。 ・試験だけでなく、学習態度、宿題の提出など総合的に評価します。							
自己学習		【事前学習】 授業内容を予習し、疑問点を洗い出してください。また、本文を声に出して読めるように準備し、新出語彙も事前に調べておいてください。 【事後学習】 間違えた個所を再度読み返し、疑問を残さないように整理してください。							
オフィスアワー		授業終了後、教室において実施する。							
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					【第1回】オリエンテーション 学習の進め方、評価方法についての説明 【第2回】第2部 文の文法2(1)1課～3課 【第3回】第3部 文章の文法(1)1課～3課 【第4回】第3部 文章の文法(2)4課～6課 【第5回】第3部 文章の文法(3)7課～9課 【第6回】第3部 文章の文法(4)10課～12課 【第7回】N1直前対策(1)JLPT本番形式の問題に挑戦 【第8回】N1直前対策(2)JLPT本番形式の問題に挑戦 【第9回】N1直前対策(3)JLPT本番形式の問題に挑戦 【第10回】応用日本語(1)ビジネス会話の基本 【第11回】応用日本語(2)ビジネス電話 【第12回】応用日本語(3)ビジネス文書 【第13回】応用日本語(4)ビジネスメール 【第14回】応用日本語(5)新聞・ニュースの表現1 【第15回】応用日本語(6)新聞・ニュースの表現2			講義  講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	富岡  富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡 富岡
教科書 1		新完全マスター文法 日本語能力試験N1 著者：友松悦子・福島佐知・中村かおり 出版社：スリーエーネットワーク ISBN：9784883195640							
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	日本語研究ⅠA					履修期	2021年度 春学期		
担当者	田村 剛志						NO.	GE-LJ-1-009	
配当学科	農学部					年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	対面講義 (問題演習)		
テーマと到達目標	JLPTN2合格を到達目標とする。N2合格に必要な文字語彙・文法の確認も行いながら、読解問題演習を通して、「どこを読めばいいのか」「なぜこの答えになるのか」といった読解ストラテジーの習得を図り、早期にN2合格実力を養成する。								
概要	読解問題は、単に文章を読めばできるというものではない。N2合格に必要な、文字語彙・文法の知識を生かして、制限時間内にいかに正解を導き出すかが合否を分けるものである。文脈の展開、接続詞、助詞によって、どのように変わっていくかなど、総合的な日本語知識が必要であり、その能力をつけることで、ひいては専門科目学習の効率的な履修にも資するものである。								
評価方法	問題演習、解説講義で授業が行われる。自身が積極的に学習することが求められる。したがって、授業への積極的態度(40%)、試験(40%)、小テスト(復習テスト)(20%)で評価する。								
履修条件・注意事項	授業で適宜、質問して答えさせるので、積極的に取り組むこと。 配布するプリントはファイルに保存すること。								
自己学習	毎回、指定した範囲を予習し、語彙ノート(配布するもの)に不明語彙、表現等を調べて記載すること。授業では適宜確認する。 また、授業で行った演習問題の復習、宿題は必ず行うこと。授業態度の評価の対象となる。								
オフィスアワー									
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1.オリエンテーション 学習の進め方、JLPTN2試験読解の概要、例題演習 2.指示詞の内容 3.事実関係 4.言葉の意味 5.人物の気持ち 6.理由や根拠 7.全体の内容 8.筆者が言いたいこと 9.JLPTN2(7/4に向け)演習問題 10.JLPTN2(7/4に向け)演習問題 11.JLPTN2(7/4に向け)演習問題 12.JLPTN2(7/4に向け)演習問題 13.連絡文 14.情報検索 15.プリント問題 16.試験			講義 (対面) 問題演習	田村					
教科書 1	日本語能力試験 N2読解 必修パターン 著者:氏原康子、清島千春、佐伯玲子 出版社:Jリサーチ出版 ISBN:ISBN978-4-86392-349-2 C2081								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名		日本語研究 I B				履修期	2021年度 秋学期			
担当者		田村 剛志					NO.	GE-LJ-1-010		
配当学科		農学部				年次	1			
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	対面講義 問題演習		
テーマと到達目標		春学期に続いて、JLPTN2合格を到達目標とする。N2合格に必要な文字語彙・文法の確認も行いながら、読解問題演習を通して、「どこを読めばいいのか」「なぜこの答えになるのか」といった読解ストラテジーの習得を図り、早期にN2合格実力を養成する。								
概要		読解問題は、単に文章を読めばできるというものではない。N2合格に必要な、文字語彙・文法の知識を生かして、制限時間内にいかに正解を導き出すかが合否を分けるものである。文脈の展開、接続詞、助詞によって、どのように変わっていくかなど、総合的な日本語知識が必要であり、その能力をつけることで、ひいては専門科目学習の効率的な履修にも資するものである。								
評価方法		問題演習,解説講義で授業が行われる。自身が積極的に学習することが求められる。したがって、授業への積極的態度(40%)、試験(40%)、小テスト(復習テスト)(20%)で評価する。								
履修条件・注意事項		授業で適宜、質問して答えさせるので、積極的に取り組むこと。 配布するプリントはファイルに保存すること。								
自己学習		毎回、指定した範囲を予習し、語彙ノート(配布するもの)に不明語彙、表現等を調べて記載すること。授業では適宜確認する。 また、授業で行った演習問題の復習、宿題は必ず行うこと。授業態度の評価の対象となる。								
オフィスワ-										
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法	担当者
							1.長文1 2..長文2 3.長文3 エッセイ 4.長文4 小説 5.長文5 紀行文 6.実戦練習 内容理解(短文) 7.実戦練習 内容理解(中文) 8.実戦練習統合理解 9.実戦練習主張理解 10.実戦練習情報検 11.総復習プリント問題 12.総復習プリント問題 13.総復習プリント問題 14.総復習プリント問題 15.総復習プリント問題 16.試験		講義 (対面) 問題 演習	田村
教科書 1		日本語能力試験 N2読解 必修パターン 著者:氏原康子、清島千春、佐伯玲子 出版社:Jリサーチ出版 ISBN:ISBN978-4-86392-349-2 C2081								
教科書 2										
参考書 1										
参考書 2										

授業科目名	日本語研究 I B				履修期	2021年度 春学期			
担当者	田村 剛志						NO.		
配当学科					年次	1			
必修・選択		単位数	2	時間数		授業形態			
テーマと到達目標									
概要									
評価方法									
履修条件・注意事項									
自己学習									
オフィスワ-									
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名		日本語研究ⅡA				履修期		2021年度 春学期			
担当者		田村 剛志						NO.	GE-LJ-2-011		
配当学科		農学部				年次		2			
必修・選択		選択必	単位数	2	時間数	30		授業形態	対面講義 （問題演習）		
テーマと到達目標		JLPTN1合格を到達目標とする。N1合格に必要な文字語彙・文法の確認、N2読解ストラテジーの再確認も行いながら、読解問題演習を通して、「どこを読めばいいのか」「なぜこの答えになるのか」といった読解ストラテジーの習得を図り、早期にN1合格実力を養成する。									
概要		読解問題は、単に文章を読めばできるというものではない。N1合格に必要な、文字語彙・文法の知識を生かして、制限時間内にいかに正解を導き出すかが合否を分けるものである。文脈の展開、接続詞、助詞によって、どのように変わっていくかなど、総合的な日本語知識習得を図る。									
評価方法		問題演習,解説講義で授業が行われる。自身が積極的に学習することが求められる。したがって、授業への積極的態度(40%)、試験(40%)、小テスト(復習テスト)(20%)で評価する。									
履修条件・注意事項		授業で適宜、質問して答えさせるので、積極的に取り組むこと。 配布するプリントはファイルに保存すること。									
自己学習		毎回、指定した範囲を予習し、語彙ノート(配布するもの)に不明語彙、表現等を調べて記載すること。授業では適宜確認する。また、授業で行った演習問題の復習、宿題は必ず行うこと。授業態度の評価の対象となる。									
オフィスアワー											
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法	担当者
1.オリエンテーション 学習の進め方、JLPTN1試験読解の概要、例題演習 2.Step1 指示語を問う 例題解説と練習問題 3.Step2 キーワード穴埋め 例題解説と練習問題 4.Step3 句や文の穴埋め 例題解説と練習問題 5.Step4 下線部の意味を問う 例題解説と練習問題 6.Step 5 下線部の理由を問う 例題解説と練習問題 Step6 全体を問う 例題解説と練習問題 7.応用編 A-1 例題解説と練習問題 8.JLPTN1(7/4に向け)演習問題 9.JLPTN1(7/4に向け)演習問題 10.JLPTN1(7/4に向け)演習問題 11.JLPTN1(7/4に向け)演習問題 12.JLPTN1(7/4に向け)演習問題 13.応用編 A-2 例題解説と練習問題 14.応用編 A-3 例題解説と練習問題 15.プリント問題 16.試験				講義 (対面) 問題演習		田村					
教科書 1		読解攻略 日本語能力試験 N1 著者:草野宗子、村澤慶昭、牛米節男 出版社:スリーエーネットワーク ISBN:ISBN978-4-88319-706-4 C0081									
教科書 2											
参考書 1											
参考書 2											



授業科目名		日本語研究ⅡB				履修期		2021年度 秋学期							
担当者		田村 剛志						NO.		GE-LJ-2-012					
配当学科		農学部				年次		2							
必修・選択		選択必	単位数	2	時間数	30		授業形態		対面講義(問題演習)					
テーマと到達目標		春学期に続いて、JLPTN1合格を到達目標とする。N1合格に必要な文字語彙・文法の確認、N2読解ストラテジーの再確認も行いながら、読解問題演習を通して、「どこを読めばいいのか」「なぜこの答えになるのか」といった読解ストラテジーの習得を図り、早期にN1合格実力を養成する。													
概要		読解問題は、単に文章を読めばできるというものではない。N1合格に必要な、文字語彙・文法の知識を生かして、制限時間内にいかに正解を導き出すかが合否を分けるものである。文脈の展開、接続詞、助詞によって、どのように変わっていくかなど、総合的な日本語知識習得を図る。													
評価方法		問題演習,解説講義で授業が行われる。自身が積極的に学習することが求められる。 したがって、授業への積極的態度(40%)、試験(40%)、小テスト(復習テスト)(20%)で評価する。													
履修条件・注意事項		授業で適宜、質問して答えさせるので、積極的に取り組むこと。 配布するプリントはファイルに保存すること。													
自己学習		毎回、指定した範囲を予習し、語彙ノート(配布するもの)に不明語彙、表現等を調べて記載すること。授業では適宜確認する。 また、授業で行った演習問題の復習、宿題は必ず行うこと。授業態度の評価の対象となる。													
オフィスワ-															
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
								1.応用編 B-1 例題解説と練習問題 2.応用編 B-2 例題解説と練習問題 3.応用編 C-1 例題解説と練習問題 4.応用編 C-2 例題解説と練習問題 5.JLPTN1(12/5に向け)演習問題 6.JLPTN1(12/5に向け)演習問題 7.JLPTN1(12/5に向け)演習問題 8.JLPTN1(12/5に向け)演習問題 9.JLPTN1(12/5に向け)演習問題 10.応用編 D-1 例題解説と練習問題 11.応用編 D-2 例題解説と練習問題 12.プリント問題 13.プリント問題 14.プリント問題 15.プリント問題 16.試験				講義 (対面) 問題 演習		田村	
教科書 1		読解攻略 日本語能力試験 N1 著者:草野宗子、村澤慶昭、牛米節男 出版社:スリーエーネットワーク ISBN:ISBN978-4-88319-706-4 C0081													
教科書 2															
参考書 1															
参考書 2															

授業科目名				文章表現入門				履修期		2021年度 秋学期						
担当者				山本 慶子						NO.		GE-CH-1-001				
配当学科				農学部				年次		1						
必修・選択				選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義				
テーマと到達目標				テーマ:レポート・小論文作成、社交文書、ビジネス文書の基礎を習得し実践する 到達目標:文章作成の基本、論理的な書き方、報告文、レポート作成の基本を習得し、社会人として学生として必要な時、必要な場面で、必要に応じて臨機応変に文章・文書作成ができることを到達目標とする。												
概要				文章作成には、起承転結、序論、本論、結論などテーマによって、書き方に違いがあり、明瞭・簡潔な文章が適切なことば表現で記述できるように説明する。社会人基礎力の考える力、文章の構成について、基礎的内容を習得する。文章は誰が読んでも同じ理解を得られる表現で書き、言葉の意味を深めた他者が理解できる内容で作成する。さらに、文章を論理的に書くこと、自分の意見・主張における根拠が明確に述べられていること、適切に構成されていること、キーワードなど、基礎力が身に付くよう説明する。講義では理論と実践を同時に行って文章の上達を目指すものである。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、企業の経営活動において実務経験のある外部講師がビジネスにおいて必要とされる文章能力について講義し、学生の理解を深める。担当者は、企業の外資系企業および日本企業の役員秘書として実務を担当し多岐にわたる文章を作成してきた実務経験を有するものであり、指導に当たる。												
評価方法				積極的な授業参加と発表 25%、レポート作成 25%、期末試験50%												
履修条件・注意事項				授業は最初から休まず積極的に参加すること。授業において簡単なレポート提出を求めることがあり、すべて評価する。その評価の積み重ねが文章上達の力になる。レポート提出は加点とする。												
自己学習				予習、復讐を積極的に行うこと、各授業計画に記載されている内容について関連する本を多く読むように心掛ける。言葉の語彙やビジネス表現用語を理解を深めること。とくに、復習は、講義内容の意味を理解、確認するためにノートの要点整理を行うこと。												
オフィスワ－				授業終了後教室にて												
春学期授業計画					授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
									1. 文章表現 わかりやすい文章 2. 力強い文章 3. 段落(paragraph) 4. センテンス(文)と推敲 5. レポート・卒論の注意点と表現について 6. レポートを作成する方法 7. 技術的なレポートの構成 8. 論理的な文章表現 9. より良いレポートに仕上げる 10. ビジネス文書作成方法 11. 報告書、稟議書、その他社会人組織で作成する文書 12. 自己PR文書作成 13. 一般的な事例の文章作成 14. 事例研究レポート作成 15. まとめ 16. 試験				講義 講義 講義 講義  講義  講義 講義 講義 講義 講義 演習 演習 演習 講義 筆記試験		山本	
教科書 1				資料を配布												
教科書 2																
参考書 1																
参考書 2																

授業科目名	文学への招待					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	正井 良徳						NO.	GE-CH-1-002	
配当学科	農学部					年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・購読		
テーマと到達目標	花に肥料を、心に栄養を、文学によって人生を豊かに！ 詩歌・小説を読み、作品中の人物の心情や生き方を味わうことで、自身の生き方・考え方を豊かにしていく。文学作品に扱われている巧みな表現に触れ、それを味わうことで、すぐれた表現力を身につける。								
概要	詩・短歌・俳句・小説を読み、作者の人生観にふれる。文学作品の優れた朗読を味わい、登場人物の心情や生き方について、感じたこと・考えたことを話し合うことによって、自己の生き方を見つめ、考えを深める。 また、古代からの日本文学の流れを学び、自然と共存する中で先人が見いだしてきた文芸の美的理念にふれ、自然の美しさに対して鋭敏で豊かな感性を養う。自然や人生を見つめて感動を詩歌に詠み、文章につづることによって、自己表現を楽しむとともに、すぐれた言語表現技術を身につける。								
評価方法	テストおよび課題、受講態度などによって総合的に評価する。 テスト・課題(提出物・レポート等)80% 発表・討論への参加10% 受講態度10%								
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するので、初回授業よりファイルを用意すること。出された課題による予習・復習は、必ず行うこと。予習・復習には、各2時間程度を要する。								
自己学習	事前に出された課題について読書し、調べてきたことをもとに積極的に授業に参加すること。課題は、大学の図書室、市立図書館、中央公民館図書室等を活用して解決し、発表・話し合いのための事前準備を行うこと。ノートを作成し、予習・復習によって講義内容に興味と理解を深め、テストに対応できるよう努めること。								
オフィスアワー	授業終了後教室にて								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1.文学とは何か 2.読書と図書館の利用(日本文学の流れ) 3.上代文学-古代人のロマン 4.-中古文学-王朝世界の優美 5.中世文学-無常観と幽玄の美 6.近世文学-庶民のバイタリティー 7.近代文学-近代的自我の目覚め 8.現代文学-民主主義下の再出発 9.文学鑑賞-比較文学の一手法(作品鑑賞) 10.夏目漱石・森鷗外 の作品 11.芥川龍之介・志賀直哉等の作品 12.太宰治・堀辰雄等の作品 13.川端康成・井伏鱒二等の作品 14.詩・俳句・短歌の鑑賞 15.まとめと発展-鑑賞から創作へ 16.単位認定試験			講義 講義  講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	正井 正井  正井 正井 正井 正井 正井 正井 正井 正井 正井 正井
教科書 1	使用しない。(必要に応じてプリントを配布する。また、志知キャンパスに備えている文学全集の中から、作者・作品を指示して課題とする。)								
教科書 2									
参考書 1	大学の志知キャンパス・市立図書館・市立中央公民館図書室の蔵書の中から適宜指示する。								
参考書 2									

授業科目名		美術の見方				履修期		2021年度 秋学期					
担当者		丹羽 三恵子						NO.		GE-CH-1-003			
配当学科		農学部				年次		1					
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義,実技			
テーマと到達目標		美術への感動と関心が、より身近なものとなり、さらに人生が豊かになることを実感する。											
概要		陶芸実習と、デッサン実習、さらに、名作の模写にとりくみ、実技を通して、より身近に芸術を感じる。 また、名作や芸術家の人生を通して、自由に鑑賞する体験と、各自自分に合った、美術へのアプローチの仕方を見いだす。											
評価方法		演習70%、試験30%											
履修条件・注意事項		授業に関連した演習に毎時取り組む。											
自己学習		演習内容は予告されるので、調査イメージ作りをして授業に望むこと。 試験の中の設問の一つは、事前に調べてまとめたものとする。											
フォロー		授業終了後											
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
							1.導入、科目の説明、授業の方針 2.日本の美術 プリミティブの時代 (陶芸実習) 3.日本の美術(陶芸実習2) 4.日本の美術(陶芸実習3) 5.西洋の美術(デッサン実習1) 6.西洋の美術(デッサン実習2) 7.西洋の美術(デッサン実習3) 8.西洋の美術(人物デッサン1) 9.西洋の美術(人物デッサン2) 10.西洋の美術(人物デッサン3) 11.西洋の美術(ピカソ1) 12.西洋の美術(ピカソ2) 13.西洋の美術(ピカソ3) 14.西洋の美術(ピカソ4) 15.芸術と人生 まとめ 16.試験			講義 実技  実技 実技 実技 実技 実技 実技 実技 実技 実技 実技 実技 実技 講義 筆記試験		丹羽三恵子 丹羽三恵子  丹羽三恵子 丹羽三恵子 丹羽三恵子 丹羽三恵子 丹羽三恵子 丹羽三恵子 丹羽三恵子 丹羽三恵子 丹羽三恵子 丹羽三恵子 丹羽三恵子 丹羽三恵子 丹羽三恵子 丹羽三恵子	
教科書 1													
教科書 2													
参考書 1													
参考書 2													

授業科目名		音楽のたのしみ				履修期	2021年度 秋学期						
担当者		太田 久美子						NO.	GE-CH-2-004				
配当学科		農学部				年次		2					
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義			
テーマと到達目標		リズム、メロディー、ハーモニーの三要素を学習し二、三声の和音が響き合う美しいハーモニーを作っていく。本講義では最終日に行うコンサートでの発表を目標とする。得意な楽器があれば、合唱とアンサンブルを組み、演奏も可能。ただし、楽器は責任をもって持ち込むこと。											
概要		歌を素材として、リズム、メロディー、ハーモニーなど音楽の構成要素を学び、発声練習から始め、アンサンブル、合唱を行います。他に、ハンドベル演奏などチームワークを高め、「生涯学習」として音楽の楽しさを味わう。											
評価方法		授業への参加態度 30% 単位認定試験(コンサート) 70%											
履修条件・注意事項		積極的に声を出し、授業に出席してください。											
自己学習		予習として、楽譜を読む授業では、配付した楽譜を読めるように事前に調べ、読めない点をまとめて授業を受け、選曲した曲の練習では、自分のパートを把握しておき事前に練習しておく。 復習としては、毎回の授業内容の反復学習を行っておくこと。											
オフィスアワー		授業終了後教室にて											
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
							1.楽譜を読む基礎学習 2.楽譜を読む基礎学習 3.合唱曲を中心にジャンルを広げ選曲した曲の練習 4.合唱曲を中心にジャンルを広げ選曲した曲の練習 5.合唱曲を中心にジャンルを広げ選曲した曲の練習 6.題材の研究(DVD鑑賞) 7.合唱曲を中心に楽器を使用し、ジャンルを広げ選曲した曲の練習 8.合唱曲を中心に楽器を使用し、ジャンルを広げ選曲した曲の練習 9.合唱曲を中心に楽器を使用し、ジャンルを広げ選曲した曲の練習 10.合唱と楽器、それぞれのパート確認と練習のまとめ 11.合唱と楽器、それぞれのパート確認と練習のまとめ 12.合唱と楽器、それぞれのパート確認と練習のまとめ 13.コンサートプログラム作成 14.コンサートプログラム作成 15.コンサートプログラム作成 16.単位認定試験			演習 演習 演習 演習  演習  演習  演習  演習  演習  演習 コンサート		太田久美子	
教科書 1		使う楽譜は都度コピーしたものをファイリング											
教科書 2													
参考書 1													
参考書 2													

授業科目名			生涯スポーツ論				履修期		2021年度 春学期						
担当者			宇都宮 敏晴						NO.		GE-CH-1-005				
配当学科			農学部				年次		1						
必修・選択			選択	単位数	2	時間数	30	授業形態		実技・講義					
テーマと到達目標			「生涯スポーツ」をテーマとし、健康寿命を延ばす工夫をどのようにすればよいのかを考える。右脳と左脳の活性化を普段の生活の中に取り入れ脳細胞を生き生きさせ、頭の体操や脳トレ等のトレーニングをすることにより脳細胞の使えるポケットを1つでも多くし、「健康寿命を延ばす為のスポーツ」を作ることを目的とする。												
概要			頭の体操や脳トレ等のトレーニングによって脳細胞を刺激して、使えることのできる脳細胞のポケットを多く増やす、また簡単な実技で右脳と左脳の活性化を図る。												
評価方法			1)実技(40%)2)筆記テスト(40%)3)授業中の態度や発言、トレーニングに取り組む姿勢により(20%)												
履修条件・注意事項			試験は必ず試験は必ず行うので、授業だけ出席していただだけでは単位が取れないので、必ず試験を受けること。												
自己学習			授業中の実技・頭の体操・さまざまなトレーニング等をできる限り努力する事。												
Wi-Fi			必要に応じてプリントを配布するので、初回授業よりファイルを用意する事。												
春学期授業計画					授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
第1回、「生涯スポーツ」とは？ 第2回、大切にしている物、自分の素晴らしさ。 第3回、誰かに伝えたい言葉、バランスの大切さ。 第4回、人間の死に方、家族計画を考える。 第5回、スポーツマンシップとは？フェアプレーとは？ 第6回、トレーニングとは、脳を育てる運動とは？ 第7回、スポーツと経済を考える、ドーピングとは？ 第8回、安楽死、脳死とドナー提供、健康寿命とは？ 第9回、ストレスについて考える。 第10回、人間の成長に必要なものは何か？脱皮とは？ 第11回、休養・運動・食事・睡眠と健康について？ 第12回、高齢者の健康課題とその支援。 第13回、高齢者と寿命・認知症の関係。 第14回、人間のギア・ONとOFF・飴と鞭とは？ 第15回、健康寿命を延ばす為のスポーツとは？					講義・実技		宇都宮敏晴								
教科書 1															
教科書 2															
参考書 1															
参考書 2															

授業科目名	生涯スポーツ実習					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	宇都宮 敏晴						NO.	GE-CH-1-006	
配当学科	農学部					年次	1		
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	実技		
テーマと到達目標	「生涯スポーツ」をテーマとして、70歳を過ぎてでもできるスポーツを考える。18歳の脳を刺激して、この若さにしかできない筋力・体力・知力を付け、スポーツをする楽しさや意欲を掻き立て、脳を活性化させさせ、運動をする脳細胞をたくさん増やし、高齢者になっても、椅子に座ったままでも身体を動かし「健康寿命を延ばすためのスポーツ」を作る。								
概要	右脳と左脳を刺激して、脳機能を活性化させ、身体を動かす脳細胞のポケットをおおくつくる。								
評価方法	1)実技テスト(体操20%・テニス25%・バスケット25%) 2)授業中の態度や発言、試合での意欲や貢献度(30%)								
履修条件・注意事項	試験は必ず行うので授業だけ出席していただだけでは単位は取れないので、必ず受ける事。								
自己学習	授業に参加し積極的に活動して汗をかき、ともに協力してチームの一員として努力する事								
オフィスアワー									
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1) バスケットボールと授業説明 2) テニスと授業説明 3) バスケットボール、ボール体操 4) テニス、ラケットとボールに慣れる 5) バスケットボール、2個でドリブル等 6) テニス、サーブ等 7) バスケットボール、3対3等 8) テニス、ゲーム 9) バスケットボール、3対3等 10) テニス、ゲーム 11) バスケットボール、3対3等 12) テニス、ゲーム 13) バスケットボール、3対3等 14) テニス、ゲーム 15) バスケットボール、3対3等			実技	宇都宮敏晴
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名		哲学				履修期		2021年度 春学期							
担当者		樋口 雄哉							NO.	GE-GA-1-001					
配当学科		農学部				年次		1							
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義					
テーマと到達目標		「哲学の基本的な問題を理解し、自分なりに考える」がテーマです。到達目標は以下の二つです。 1)哲学の基礎的な諸問題を理解したうえで、それぞれの哲学者たちのアプローチや考え方を正確に理解する。 2)世界や自分自身に関する問題について、自分はどうか考えるかを自問し、また自分の考えを表現できるようになる。													
概要		「自分」や「世界」、あるいは「自分」と「世界」の関わり方に関する私たちの見方は、自分ではそうと気づかなくても、なんらかの思考の「型」を前提にしていることがあります。この授業では、古代から現代までの哲学を中心とする西洋思想を対象に、そうした思考の「型」のいくつかを見てゆきます。 第11回までの授業は主に教科書に従いつつ西洋思想史のあらましを学びます。第12回以降は、教科書を参照しつつ、「経験」の問題を軸に実際に哲学者のテキストを読んでゆきます。授業形式は講義を中心としますが、簡単な文章作成の作業などもしてもらいます。													
評価方法		評価は以下の観点から行います。 1)授業内提出物の内容、授業への参加態度 (40%) 2)学期末試験 (60%)													
履修条件・注意事項															
自己学習		1)毎回授業の最後に予習内容を指示します。次の授業までに教科書の指定した箇所や配布資料に目を通すようにしてください。 また、教科書や配布資料は毎回持参してください。 2)講義内容をノートにとり、授業が終われば復習するようにしてください。  なお、毎回の予習復習には2時間程度の時間を要します。													
オフィスアワー		水曜日昼休み、講師控室にて。													
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
1. 西洋思想の二つの源流 2. 古代ギリシアの文化 3. プラトンの思想 4. アリストテレスの思想 5. プラトン、アリストテレスのまとめ 6. 聖書の神と無からの創造 7. キリスト教 8. デカルトと「我思う」 9. デカルトと心身二元論 10. 経験論 11. カントと認識問題 12. 「経験」をどう説明するか 13. 主体と客体 14. 思考と物 15. 思考と感覚 16. 試験  なお、第1回-第15回の各授業のテーマは、参加者の理解や関心などを考慮して変更することがある。				講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験											
教科書 1		ヨーロッパ思想入門 著者:岩田 靖夫 出版社:岩波書店(岩波ジュニア新書) ISBN:9.78401E+12													
教科書 2		上記教科書以外に、プリントを配布します。													
参考書 1															
参考書 2															



授業科目名			宗教学				履修期		2021年度 春学期					
担当者			日種 晃嗣						NO.	GE-GA-1-002				
配当学科			農学部				年次		1					
必修・選択			選択	単位数	2	時間数	30		授業形態	講義				
テーマと到達目標			信仰の別、無宗教に関係なく、私たちの日常に溶け込み知らずに受容している宗教的要素を学問的素材とし、多面的見地より分析する。そのためには、様々な宗教についての基礎的教養を身につけ、歴史的背景や現代的問題とも向き合わなければならない。この授業をとおして、他文化理解や宗教的寛容の精神を養うことを目指す。											
概要			信仰としての宗教とは切り離し、世の中に現れている宗教的事象を学問的素材とし、歴史、社会、芸術・文化など多面的観点から分析し、考察していく。本やネットや講義の知識にとらわれず、自分なりの世界観や宗教観を養う機会となるように授業を工夫していく。											
評価方法			試験(課題レポート提出)を70%、小テスト(1日の終わりに授業内容を発展させたクイズ形式の記述式問題。計3回)の結果を15%、平常点(授業の出席率と授業態度)を15%として、総合評価する。											
履修条件・注意事項			必要に応じて資料を配付する。また、UNIVERSAL PASSPORTから授業資料をダウンロードできるようにもしていく。											
自己学習			新潮社 BUNCH COMICSの漫画『死役所』(あずみきし作)は、様々な宗教観が混交しているので、これを読んでおけばテーマ学習の視点形成に役立つと思われる。											
オフィスアワー														
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
1.宗教学概論～何を学ぶのか？ 2.宗教概説①～ユダヤ教(宗教絵画から旧約聖書の世界を覗く) 3.宗教概説②～キリスト教(宗教絵画から新約聖書の世界を覗く) 4.宗教概説③～イスラム教(日本との意外な関係を中心に) 5.宗教概説④～仏教(ブッダの生涯を通じて仏教の基本的な考え方を学ぶ) 6.宗教概説⑤～仏教の伝播と、大乘小乗 7.宗教概説⑥～日本における仏教の伝来と展開 8.宗教概説⑦～日本の仏教の主要各宗の概略を知る 9.宗教テーマ①～各宗教の死後の世界観 10.宗教テーマ②～善悪、業、輪廻 11.宗教テーマ③～仏教における成仏とは 12..宗教テーマ④～死についての考察、自殺、安楽死、尊厳死など 13.現代における宗教①～カルト宗教、マインドコントロールの実態 14.現代における宗教②～信教の自由、政教分離 15.現代における宗教③～LGBTなど新しい問題や、宇宙観など 16.試験				講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 試験		日種 日種 日種 日種 日種 日種 日種 日種 日種 日種 日種 日種 日種 日種 日種								
教科書 1														
教科書 2														
参考書 1														
参考書 2														

授業科目名	倫理学				履修期	2021年度 春学期		
担当者	樋口 雄哉					NO.	GE-GA-2-003	
配当学科	農学部				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	倫理的な観点から、環境問題を捉えることがテーマです。到達目標は以下の三つです。 1)人間が「自然」に対してとるいくつかの態度の特徴と、それに対応する「自然」の捉え方を理解する。 2)環境問題へのアプローチの仕方と「自然」の捉え方とのあいだのつながりを理解する。 3)環境問題の解決のために、自分を含めた人間が「自然」に対しどのような態度をとるべきかについて、自ら考え、それを表現することができる。							
概要	私たちは今日、地球環境の破壊という危機に直面しており、この危機の解消が重要な課題だというのは、ほとんどの人が共通して認識していることです。ところが、何を、どの様な状態にし、どのような状態で維持することが解決なのか、という問題については、議論が十分だとはいえないのも事実です。この授業では倫理的な観点から、「自然」という言葉をキーワードに、＜私たちは今後どのような「自然」を維持していくのか＞を考えることを通じて、この問題にアプローチしてゆきます。							
評価方法	評価は以下の観点から行います。 1)授業内提出物の内容、授業への参加態度 (40%) 2)学期末試験 (60%)							
履修条件・注意事項								
自己学習	1)講義内容をノートにとり、授業が終われば復習するようにしてください。 2)毎回予習内容を指示します。しっかり予習をして授業に臨むようにしてください。 3)試験の準備には配布プリントやノートが必要となるので、ファイルにまとめるなどして、各自整理して保管するようにしてください。  なお、毎回の予習復習には2時間程度の時間を要します。							
オフィスアワー	水曜日昼休み、講師控室にて。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者	
1. 環境問題と「自然」 2. 「持続可能性」 3. 自然の「保全」と自然の「保護」 4. 環境倫理がくの諸問題 5. 「自然の終焉」 6. 「人新世」 7. 「自然」という言葉の意味 8. 文化／自然の区別: 古代～中世 9. 文化／自然の区別: 近代 10. 文化／自然の区別: 現代 11. 文化／自然の区別は悪者か？ 12. 「技術的自然」 13. 資源としての自然 14. 文化の他者としての自然 15. 授業のまとめ 16. 試験  なお、第1回-第15回の各授業のテーマは、参加者の理解や関心などを考慮して変更することがある。		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験						
教科書 1	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。							
教科書 2								
参考書 1	新・環境倫理学【増補新版】 著者: 加藤尚武 出版社: 丸善出版 ISBN: 978-4-621-05373-7							
参考書 2								

授業科目名	心理学				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	松下 徹					NO.	GE-GA-1-004	
配当学科	農学部				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・実験・実習	
テーマと到達目標	<p>テーマと到達目標;「なぜ人は幽霊を見るのか?」「なぜ人は金縛りにあうのか?」「記憶は嘘をつくか?」「血液型で人の性格は決まるのか?」など、日常的・非日常的な行動を取り上げながら、感覚・知覚を含めた人の行動の特性、さらに人の発達について理解を促進し、自己理解や他者理解を深める。</p> <p>到達目標;① 感覚・知覚・記憶・知能・学習・性格の各領域について基礎的知識を得る。 ② 自他の行動を客観的に捉えられるようになる。</p>							
概要	<p>講義・実験・体験を通して、人の感覚・知覚・記憶・知能・学習・性格についての理解を深める。また、日常的に経験する事柄から、滅多にない不思議な体験談や奇妙な行動までを事例で示しながら、人間の行動の特性について考察する。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、カウンセラーの実務者である外部講師が、心理学の基礎的知識や対人能力について講義し学生のコミュニケーションに関する理解を深める。</p>							
評価方法	到達目標①に関しては、試験で到達度を評価する。到達目標②に関しては、試験とレポートで到達度を評価する。なお、レポートは毎回、授業内に実施する。総合的な評価は、試験(50%)、授業態度(10%)、レポート(40%)で行う。							
履修条件・注意事項	授業は配布資料を中心に行うため、復習が重要となる。 初回の授業では、到達目標・授業内容・評価方法について、詳しく説明する。							
自己学習								
ファイナル	授業終了後							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
				1 心理学とはどういう学問か 2 感覚と知覚 3 感覚と知覚の不思議 4 記憶～嘘をつく記憶 5 記憶～実験 6 知能とは何か 7 知能の測定 8 性格とは何か 9 性格の測定 10 学習理論 11 生涯発達 12 定型発達と非定型発達 13 行動経済学 14 心の病と心理療法 15 カウンセリング～理論と技法 16 試験 講義			講義 講義・実験 講義 講義・実験 講義・実験 講義・実習 講義・実習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	松下徹 松下徹 松下徹 松下徹 松下徹 松下徹 松下徹 松下徹 松下徹 松下徹 松下徹 松下徹 松下徹 松下徹 松下徹 松下徹
教科書 1								
教科書 2								
参考書 1	心理学[カレッジ版] 著者:山村 豊 / 高橋 一公 出版社:医学書院 ISBN:978-4-260-02870-7							
参考書 2	心理学  著者:鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃一編 出版社:東京大学出版会 ISBN:978-4-13-012105-7							

授業科目名	多文化理解					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	末吉 秀二						NO.	GE-GA-1-005	
配当学科	農学部					年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味もてるようになる。								
概要	世界の多文化を理解するためには、文化相対主義 (Cultural relativism) の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなくそれぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。								
評価方法	到達目標を計るため、試験 (60%)、授業態度/積極性 (20%)、課題レポート (20%) により総合的に評価する。								
履修条件・注意事項									
自己学習	予習として、日ごろからアラブ社会に関する情報に関心をもつこと。復習として、授業中分からないことはその都度質問し、分からないことをそのままにしないこと。								
オフィスアワー	月曜日・金曜日 (3限、5限)								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1 オリエンテーション 2 古代オリエント 3 アラブ・イスラーム世界の形成 4 オスマン帝国とアラブ 5 近・現代のアラブ社会 6 アラビア語の基礎 (文字と発音) 7 アラビア語の基礎 (文法) 8 預言者ムハンマド 9 コーラン 10 イスラーム法 (シャリーア) 11 イスラーム文化 (衣・食・住) 12 イスラーム文化 (首都/メディア) 13 パレスチナ問題 14 事例研究 (ヨルダン) 15 多文化理解 16 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	末吉秀二 末吉秀二 末吉秀二 末吉秀二 末吉秀二 末吉秀二 末吉秀二 末吉秀二 末吉秀二 末吉秀二 末吉秀二 末吉秀二 末吉秀二 末吉秀二 末吉秀二
教科書 1	使用しない (毎回プリントを配布する)								
教科書 2									
参考書 1	イスラーム文化 著者: 井筒俊彦 出版社: 岩波文庫 ISBN: 4-00-331851-X								
参考書 2	イスラーム世界の論じ方 著者: 池内 恵 出版社: 中央公論社 ISBN: 978-412-003990-4								

授業科目名	日本国憲法				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	生駒 正文						NO.	GE-SI-1-001
配当学科	農学部				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>「憲法力を身につけよう」  2015年6月、18歳選挙権がついに実現しました。憲法改正の動きも活発化している現代は、まさに憲法についての知識と問題意識が必要不可欠な時代と言えます。</p> <p>受講生の皆さんには、本講義を、日本国憲法の求めるものが現実社会の中でいかに生かされているか、またいかに生かされるべきであるのかを考えるきっかけの一つとしてほしいと思います。国の最高法規として存在する日本国憲法を学び、法的なものの考え方に親しんだ経験は、この先の就職や各種試験などの下準備や社会生活において大いに役立つはずです。</p> <p>本講義を通して、生活上の諸問題や社会の動向に関して興味関心を持ち、何が正しいのかと言う価値判断が求められる局面において、“自分の頭で考えて選ぶ”ための“憲法力”を獲得されることを望みます。</p>							
概要	日本国憲法に関する基礎知識や考え方を講義します。身近な話題から最高裁判例まで、具体的な事例(下記授業計画に記載の※他)を多く取り上げながら、憲法の規定や価値体系をひも解いていきます。皆さんには、国の最高法規である憲法が、実は自分たちの生活に縁遠いものではないことを実感してもらいながら理解を深めてもらいます。							
評価方法	筆記試験(60%)、授業の参加態度(40%)により評価します。							
履修条件・注意事項	特にありません。							
自己学習	日常生活においても、ニュース等で頻繁に取り上げられる日本国憲法に関する話題に関心を持つことを心がけましょう。							
オフィスアワー	講義終了後、教室にて実施します。							

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			1.イントロダクション 憲法とは何か 民主主義着と立憲主義 日本国憲法の成り立ち	講義	生駒 正文
			2.基本的人権 権力の主体 公共の福祉 私人間効力	講義	生駒 正文
			3.幸福追求権 自己決定権 ※アイドルの恋愛禁止	講義	生駒 正文
			4.法の下の平等 ※一票の格差 国籍法 再婚禁止期 無国籍者問題	講義	生駒 正文
			5.精神自由論① 思想・良心の自由 学問の自由 ※政治活動と就職活動	講義	生駒 正文
			6.精神的自由② 表現の自由 知る権利 プライバシー ※ヘイトスピーチ	講義	生駒 正文
			7.経済的自由 職業選択の自由 財産権の保障	講義	生駒 正文
			8.法定手続きの保障・人身の自由	講義	生駒 正文
			9.社会権 生存権 教育を受ける権利 勤労の権利 労働基本権	講義	生駒 正文
			10.参政権 国務請求権	講義	生駒 正文
			11.立法 国会	講義	生駒 正文
			12.行政 内閣	講義	生駒 正文
			13.司法 裁判所 違憲審査会	講義	生駒 正文
			14.天皇 象徴天皇制 天皇の退位	講義	生駒 正文
			15.財政、地方自治、憲法改正	講義	生駒 正文
			16.試験	試験	生駒 正文

教科書 1	必要な資料は配布します。講義の中で、適宜、参考図書を紹介します。
教科書 2	
参考書 1	六法
参考書 2	

授業科目名		民法				履修期		2021年度 春学期						
担当者		生駒 正文						NO.	GE-SI-1-002					
配当学科		農学部				年次		1						
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義				
テーマと到達目標		民法は、皆さんが社会生活をする上でのトラブルを解決するルールを定めていますので、民法を学習することにより、社会生活に役立つ実用的な知識が身に付きます。また、公務員試験や資格試験などの多くに試験科目として採用されていますので、これらの試験を目指す人にとっては、必修の科目といえます。従って、この授業では、次のステップとしての公務員試験や資格試験の勉強に円滑に移行できることも念頭に置いて、民法の基礎を理解し記憶することを目指します。												
概要		民法の基礎を理解するために、平易な概説書を使用し、具体的な事例を折り込み、分かりやすく説明します。予習、復習に活用してください。また、復習用に教科書に準拠した問題集を作成しますので、これを活用して知識を整理してください。あわせて、随時、資格試験（試験問題が公表されている行政書士試験を使用）の問題を取り入れ実践的なトレーニングを行います。この科目は大阪簡易裁判所民事調停委員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。												
評価方法		試験 70点 授業態度・意欲 30点 で評価												
履修条件・注意事項		①(予習)別途作成の上配布する補助教材を事前に一読し、授業にて学習する部分の概要を把握するとともに、わからない箇所や疑問に思う箇所などについてチェックしておくこと。 ②(復習)別途作成する問題集により、当日学習した部分について、問題を解き、正解を確認することにより、復習しておくこと。 ③遅刻、無断途中退出と私語は禁止します。 ④ポータブルな六法を携帯すること。												
自己学習		授業計画ごとに教科書を予習・復習しておくこと。												
オフィスアワー		12:00～13:00(生駒研究室)												
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
1. 民法概説 2. 人の能力 3. 制限能力者 4. 物 5. 法律行為と意思表示(意思も欠缺) 6. 法律行為と意思表示(瑕疵ある意思表示) 7. 代理 8. 無権代理 9. 無効と取り消し 10. 条件・期限・期間 11. 時効 12. 団体 13. 物権序論 14. 物権変動(不動産) 15. 物権変動(動産) 16. まとめ(定期試験)				講義		生駒正文								
教科書 1		法学講義案(第2章、第3章、第4章利用) 著者:生駒正文 出版社:ビジネス実務法研究所												
教科書 2														
参考書 1														
参考書 2														

授業科目名		経済学				履修期		2021年度 春学期						
担当者		濱島 敦博							NO.	GE-SI-1-003				
配当学科		地域創成農				年次		1						
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30	授業形態		講義					
テーマと到達目標		経済学の理論的枠組み及び用語を理解し、農業を国民経済を構成する産業部門の一つとして捉え、農家・農村経済を経済・経営的側面から考察でき基礎スキルを身に付けることを到達目標とする。												
概要		本講義は、2年次以降に開講される農業経済及び農業経営の専門科目を学ぶための基礎科目として位置づけられ、経済学の基本的な考え方や基礎理論を修得し、農業に関する諸問題を経済学的に捉えるために必要な能力を養うことを目的とする。内容としては、ミクロ経済学及びマクロ経済学の基礎的な内容を全般にわたって講義する。ミクロ経済学及びマクロ経済学から構成されるが、ミクロ経済学に多くの比重を置いて講義を行う。												
評価方法		定期試験(100%)によって評価する。												
履修条件・注意事項														
自己学習		予復習として、講義が始まる前に前回のレジュメ資料に目を通しておくこと。												
オフィスアワー		火曜日4限 木曜日3限												
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
1ガイダンス 2需要の話 3供給の話 4市場メカニズム 5弾力性 6余剰分析 7独占・寡占 8効用の話 9無差別曲線 10所得効果と価格効果 11GDPと国民経済計算 12貨幣、利子、為替レート 13総需要と総供給 14経済成長 15総括 16単位認定試験				講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験		濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島								
教科書 1														
教科書 2														
参考書 1		『入門経済学』（第4版）伊藤元重 出版社：日本評論社												
参考書 2														

授業科目名		社会学				履修期	2021年度 春学期			
担当者		平井 順					NO.	GE-SI-2-004		
配当学科		農学部				年次	2			
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標		この科目の到達目標は、社会学の学説の幅広さと奥深さを知り、自らが社会現象を理解するための視野を広げることである。								
概要		社会学は単一的なモノの見方を強制する学問でなく、複眼的なモノの見方をひらく学問である。それは社会学の概念と理論の幅広さ・奥深さにもあらわれている。社会がいかんにして成立しているのかについては、意味づけ論、相互行為論、システム論などの視点によってさまざまな学説がある。この科目はこれまでの社会学者が考察してきた集団、家族、地域、国家などの集合行為を理解するための学説紹介を通して、社会学の基本的な概念と理論を解説する。								
評価方法		課題およびテスト(45%)と授業姿勢(55%)を組み合わせる評価する。評価は厳格におこなう。								
履修条件・注意事項										
自己学習		授業の進行に合わせて随時課題およびテストをおこなう。くれぐれも復習を怠らないこと。								
オフィスアワー		A棟407研究室において、毎週水曜日2限目(11:10-12:40)をオフィスアワーの時間とする。ただし第3水曜日を除く。								
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法	担当者
01. オリエンテーション 02. 行為論(1)-基礎 03. 相互作用論(1)-基礎 04. 構造論(1)-基礎 05. 若者論(1)-理論 06. 若者論(2)-事例 07. マスコミ(1)-理論 08. マスコミ(2)-事例 09. 準拠集団(1)-理論 10. 準拠集団(2)-事例 11. イデオロギー(1)-理論 12. イデオロギー(2)-事例 13. 行為論(2)-発展 14. 相互作用論(2)-発展 15. 構造論(2)-発展 16. 試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験		平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井					
教科書 1		統計データ資料やレジュメを適宜配布する。								
教科書 2										
参考書 1										
参考書 2										



授業科目名		人権と政治				履修期		2021年度 秋学期							
担当者		内藤 智秋							NO.		GE-SI-2-005				
配当学科		農学部				年次		2							
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義					
テーマと到達目標		人類史において、人権という法的・政治的概念が、いかなる経緯を経て誕生したのか。また国際社会にどのように受容され、浸透して行ったのか考察を行う。そこには様々な課題が山積している事を知ってもらいたい。到達目標としては基本的な知識を習得し、自らの言葉で説明できることから始まり、最終的には現代社会を生きる我々の生活と人権概念や人権問題の関わりや意味について主体的に考え、単に直感や経験のみに依る事無く論理的に表現することが出来るといったレベルを目指す。													
概要		まずはヨーロッパにおける人権概念の成立過程とその意義について歴史的に検証を行い、それらが普遍的理念として国際的に受容されて行くプロセスを学ぶ。それら知識をもとに、我々の身の回り、さらには世界に存在する様々な人権にまつわる問題について時事問題等も盛り込みながら各論として考察したい。													
評価方法		評価のポイントは以下の通り ・授業での発言や質問、受講態度(20%) ・レポートなど課題提出(30%) ・単位認定試験(レポート試験)(50%)													
履修条件・注意事項		社会の変化と政治的課題、特に人権にまつわる国内外の諸問題について常に関心を持ち、ニュース等をチェックする習慣をつける。 授業中の議論(発言・質問)や課題(小テストやレポート)に対する積極的な姿勢も重視する。 当該分野への強い関心を持ち、積極的に授業に取り組む意志のある学生の履修を望みます。													
自己学習		レポートとは別に適宜、宿題や小課題を課すが、学習内容の自主的な予習・復習も期待したい。重要な評価対象であるレポート課題作成に向けた関連項目のリサーチは、特に日常から心がけてもらう。													
オフィスアワー		授業終了後教室にて													
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
								1 現代における人権にまつわる問題 2 人権概念の国際化:総論 3 人権概念の国際化:第2次大戦後 4 人権にまつわる国際的な取り組み 5 国際人権章典とはなにか 6 世界における人権問題:人身の自由 7 世界における人権問題:少数民族・先住民族 8 世界における人権問題:女性の権利 9 世界における人権問題:子どもの権利 10 世界における人権問題:難民・移民 11 世界における人権問題:障がい者 12 経済発展と人権 13 国際人道法 14 国際紛争と人権問題 人間の安全保障、人権と介入 15 民主主義と人権:公共性の新たなかたち 16 単位認定試験				講義  講義 講義  講義  講義 講義  講義  講義 講義 講義  講義及びブ レゼン レポート試験		内藤智秋  内藤智秋 内藤智秋  内藤智秋  内藤智秋 内藤智秋  内藤智秋  内藤智秋 内藤智秋 内藤智秋  内藤智秋 内藤智秋 内藤智秋	
教科書 1		授業は特定のテキストに依拠しないが、参考となる文献や必要な資料等は授業時間に配布または紹介する。													
教科書 2															
参考書 1															
参考書 2															

授業科目名	社会と統計					履修期	2021年度 秋学期				
担当者	平井 順							NO.	GE-SI-1-006		
配当学科	農学部					年次	1				
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義				
テーマと到達目標	この科目の到達目標は、統計データが示す社会現象の趨勢と現状を知り、社会を把握するモノの見方を習得することである。取り扱う事項は、自殺、人工妊娠中絶、いじめの3つである。										
概要	「社会とは何か」、この問いの答えは簡単のように見えて実はとても難しい。人は自らが生きてきた経験によって独自の社会観を持ち、その観念を通して社会をとらえようとする。もちろん、各人の社会観は必ずしも客観的なものでない。とはいえ、客観が正しく主観が正しくないということでもない。私たちに求められるのは、客観的な事実をもとに適切な主観的判断を下せるようになることである。この科目はその客観的事実のひとつとして統計データをもちいて、社会のありようを考察する。										
評価方法	課題およびテスト(45%)と授業姿勢(55%)を組み合わせせて評価する。評価は厳格におこなう。										
履修条件・注意事項											
自己学習	授業の進行に合わせて随時課題およびテストをおこなう。くれぐれも復習を怠らないこと。										
オフィスアワー	A棟407研究室において、毎週水曜日2限目(11:10-12:40)をオフィスアワーの時間とする。ただし第3水曜日を除く。										
春学期授業計画		授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法		担当者	
						01. 自殺(1)―「年次別自殺者数」と「人口動態統計」 02. 自殺(2)―デュルケム『自殺論』 03. 自殺(3)―自由とは何か 04. 自殺(4)―社会学的想像力 05. 自殺(5)―まとめ 06. 人工妊娠中絶(1)―「衛生行政報告例」 07. 人工妊娠中絶(2)―「性についての実態調査」 08. 人工妊娠中絶(3)―ジェンダー論とフェミニズム 09. 人工妊娠中絶(4)―障害者差別と児童福祉 10. 人工妊娠中絶(5)―まとめ 11. いじめ(1)―警察庁と文部科学省の定義 12. いじめ(2)―「生徒指導上の諸問題に関する調査」 13. いじめ(3)―いじめ現象の変化および重層化 14. いじめ(4)―「いじめ」の概念 15. いじめ(5)―まとめ 16. 試験		講義  講義 講義 講義 講義 講義  講義  講義  講義  講義  講義 筆記試験		平井  平井 平井 平井 平井 平井  平井  平井  平井  平井 平井 平井	
教科書 1	統計データ資料やレジュメを適宜配布する。										
教科書 2											
参考書 1											
参考書 2											

授業科目名		環境科学				履修期		2021年度 春学期					
担当者		森野 真理						NO.	GE-NM-1-001				
配当学科		農学部				年次		1					
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30	授業形態		講義				
テーマと到達目標		「環境問題の構造と変容について理解する」ことをテーマとし、人間活動と自然環境の相互関係について基礎的な知識を学ぶとともに、戦前から現在までの環境問題の事例を示しながら、環境問題の構造やスケールが変容してきたことを理解する。学生が、問題の本質を捉え、課題解決のための企画力、自ら思考する力をつけるために、討論・発表など参加型学修を取り入れる。到達目標は、①人間活動と自然環境の相互関係に関する基礎的な知識を学ぶ、②環境問題の複雑さやスケールが変容してきた時代背景と各時代の問題の概略を説明することができる、③環境と農業との相互作用について説明し、将来の農業のあり方について、自分の見解を述べることができる、とする。											
概要		(地)本講義では、人間活動と自然環境の相互関係について基礎的な知識を学ぶとともに、戦前から現在までの環境問題の事例を示す。いくつかの事例を通じて、環境問題における被害者と加害者の関係性やスケールが時代とともに変容してきたこと、同時に、時代により問題の内容は変わっても、問題の構造に共通する特徴について、講義する。これらをふまえ、問題の解決とは何か、いくつかの事例を題材に、討論を行う。保全生態学分野の専門教員が担当する。											
評価方法		①～③の到達目標に対し、演習時の取り組み状況(グループ学習の参加、発言等)、小課題および単位認定試験により、目標達成度の評価を行う。理解度を見る。成績評価は、単位認定試験(40%)、授業参加態度(30%)、小課題(30%)のウエイトとする。											
履修条件・注意事項		グループ発表、ディベートについては、事前の準備が必要である。発表課題では、信頼性のある情報を収集し、論理的に話すことを意識して、準備を行うこと。											
自己学習		インターネットや新聞等を利用し、現在問題視されている環境問題について情報を収集し、問題を起こしている物質とそれらの物質の制御にかかわる社会構造について整理してみてください。											
ワイズワ-		個人研究室にて、水曜日12:00～13:00に実施。											
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法		担当者	
1.環境問題とは何か:小課題① 2.鉱害 3.足尾銅山鉱毒事件:GW 4.戦前・戦中の鉱害 5.高度経済成長期:小課題② 6.水俣病 7.公害輸出、アセスメント 8.オゾンホール、原発事故 9.原発再稼働:ディベート 10.地球温暖化 11.生物多様性 12.地球環境問題をどうとらえるか:小課題③ 13.地球温暖化と農業 14.生物多様性と農業 15.将来の農業のあり方:討論 16.単位認定試験				1.講義 2.講義 3.演習 4.講義 5.演習 6.講義 7.講義 8.講義 9.演習 10.講義 11.講義 12.演習 13.講義 14.講義 15.演習 16.レポート試験		森野真理							
教科書 1		使用しない(必要に応じてプリントを配布する)。											
教科書 2													
参考書 1		「環境問題の社会史」 著者:飯島伸子 出版社:有斐閣 ISBN: 978-4641120976											
参考書 2													

授業科目名		物理学				履修期		2021年度 秋学期					
担当者		橋本 久美子						NO.	GE-NM-1-002				
配当学科		農学部				年次		1					
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義・実験			
テーマと到達目標		食品の物理、調理の物理をテーマとして、力学と熱力学を中心に学び、身近な現象に対する物理的な視点を養うことを目標とする。											
概要		食感とは食物を口にしたときに美味しいと感じるための重要な要素のひとつである。身近な食物や加工食品の食感(テクスチャー)の特徴を、力学的性質として表現できるよう弾性体の基礎を学ぶ。 後半には、だれもが経験したことのある加熱、冷却、保温といった調理に欠かせない作業を、熱力学を基礎として理解する。座学と実験を組み合わせることで授業をすすめ、理解を深める。											
評価方法		課題と実験レポートの提出(80%)と確認テスト(20%)で評価する。											
履修条件・注意事項		グループで実験を行う。事前に実験の目的、方法を理解した上で主体的に参加することが重要である。											
自己学習		予習プリントをもとにあらかじめ内容を予習すること。授業中に配布するプリントで復習を行うこと。											
オフィスアワー		水曜3限に実施。											
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
							1.力と力のつり合い 2.仕事とエネルギー 3.食品のテクスチャー 4.食品の弾性(実験1) 5. 応力とひずみ 6. 材料の変形 7. 食品の弾性(実験2) 8. 熱とは 9. 熱の伝わり方 10. 熱力学の法則 11. 熱容量と比熱 12. 熱容量と比熱(実験) 13. 加熱と圧力 14. 加熱と圧力(実験) 15. 冷却と保温			講義 講義 講義 実験 講義 講義 実験 講義 講義 講義 実験 講義 実験 講義		橋本久美子	
教科書 1													
教科書 2													
参考書 1		調理がわかる物理・化学の基礎知識-調理科学の理解を深める 著者:香西みどり著 出版社:光生館											
参考書 2													

00710047

授業科目名		生物学				履修期		2021年度 秋学期					
担当者		森野 真理						NO.		GE-NM-1-003			
配当学科		農学部				年次		1					
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30	授業形態		講義				
テーマと到達目標		「生命のしくみの基礎について理解する」ことをテーマとし、分子から細胞、個体へと、生命の全体像について理解を深める。到達目標は、学生が、①生物の構造には階層性があること、増殖や環境に応答するといった生物の大まかな特性を理解できる、②生体を構成する物質の合成とその物質の働きについて理解できる、③細胞分裂、生命現象を理解し、それらの現象に必要なエネルギーがつくられるしくみについて理解できる、とする。											
概要		生物学では、「生命のしくみ」の基礎について理解する。特に、生物の持っている大まかな特性をまず理解することに重点を置く。分子から細胞、そして個体、個体から種へとより統合的な視点から生命をとらえ、それぞれの階層における構造、制御システムなどを通して生命の全体像への理解を深める。具体的には、生物の定義、細胞、核酸、タンパク質合成、細胞分裂、分化、遺伝子の発現調節、代謝、光合成などについて概説する。保全生態学分野の専門教員が担当する。											
評価方法		中間試験では到達目標①および②の理解度をみる。単位認定試験では、到達目標①～③の理解度を総合的にみる。成績評価は、中間・単位認定試験(60%)、課題レポート(40%)のウエイトにより評価する。											
履修条件・注意事項		高校時に生物学を履修していない場合は、なるべく履修すること。各回に、次の講義内容を伝えておくので予習して授業を受け、授業後は課題を通じて復習しておくこと。											
自己学習		ユニバーサルパスポートに授業用資料を登録しておくので、予習・復習に利用して下さい。											
オフィスアワー		水曜日12:00～13:00											
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
							1. 生物と無生物の違い 2. 生命の階層構造 3. 細胞の構造 4. 核酸の構造と機能 5. タンパク質 6. 遺伝子の発現 7. 遺伝子の発現調節 8. 中間テスト 9. 細胞周期 10. 細胞の分化 11. 免疫 12. 異化 13. 同化 14. ゲノムと進化 15. 生物群集と生物多様性 16. 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験		1～16回: 森野真理	
教科書 1		基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第3版 著者:和田勝 出版社:羊土社 ISBN:978-4758120180											
教科書 2													
参考書 1													
参考書 2													

授業科目名	化学					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	佐々木 満						NO.	GE-NM-1-004	
配当学科	農学部					年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	身の周りの現象や物質をテーマにそれらを化学する力を養うことを目標とする。								
概要	人を含め全ての物質を構成している原子の理解と原子から出来る分子の世界について基礎的に学習する。原子と分子、周期律表と物質構成要素、化合物とその表記法、化学結合とエネルギー、反応・構造・分析、気体・液体・固体、有機物と無機物、低分子と高分子などについて身近な現象や物質を出来るだけ取り上げ、簡潔に概説する。								
評価方法	受講態度10%、小テスト10%および単位認定試験の成績80%により評価する。								
履修条件・注意事項	高校化学を復習しておくことが望ましい。								
自己学習	配布資料を参考に予習復習すること。								
ワイアワ-	授業終了後教室にて								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1.原子の構造 2.分子の構造 3.元素の発見と周期律表 4.物質構成要素 5.無機物とその表記法 6.有機物とその表記法 7.イオン結合、共有結合 8.配位結合、水素結合 9.化学反応式 10.化学構造 平面と立体 11.無機分析と有機分析 12.気体・液体・固体 13.無機物と有機物 14.有機物の人工合成 15.低分子と高分子 16.単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木
教科書 1	使用しない。資料を講義時に配布する。								
教科書 2									
参考書 1	一般化学 著者:田嶋和夫・越沼征勝・小林光一・中村昭 出版社:丸善出版 ISBN:978-4-621-08475-5								
参考書 2									

授業科目名	人類生態学					履修期	2021年度 春学期		
担当者	末吉 秀二						NO.	GE-NM-3-005	
配当学科	全学共通					年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	人類生態学の視点から、ヒトの環境への適応を理解することができるようになる。								
概要	人類生態学は、個体群レベルで人間の生存をとらえ、その生業・食物・人口学的側面に関する包括的な研究から、ヒトの環境への適応を明らかにする学問分野と定義される。本講義は、①生態系のなかの人間、②人間の生存と健康、③人口からみた人間、④環境問題と人間の大テーマをブレイクダウンして詳しく説明する。また、今日の環境問題や人口問題の本質について理解を深める。								
評価方法	到達目標を計るため、試験(80%)、小テスト(10%)、受講態度(10%)で総合的に評価する。なお、評価のために実施した小テストは、授業でフィードバックするので試験までに見直しておくこと。								
履修条件・注意事項	指定した教科書は必ず購入すること。								
自己学習	毎回講義で指定する章を通読し、不明な点を明確にすること(予習)、不明な点が理解できたかを確認すること(復習)。								
オフィスアワー	月曜日・金曜日(3限、5限)								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1 オリエンテーション 2 生態系と人類の特性 3 人類の起源と進化 4 生存様式の変化と多様性 5 生業と社会 6 身体とその機能 7 行動の生態学 8 栄養と健康 9 病気の生態学 10 長期的な人口変化 11 人口指標と集団の適応 12 現代の人口問題 13 エネルギーと資源 14 ライフスタイルと環境			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉					
教科書 1	人類生態学 著者:大塚柳太郎・河辺俊雄・高坂宏一ほか 出版社:東京大学出版会 ISBN:4-13-052300-7								
教科書 2									
参考書 1	生態人類学を学ぶ人のために 著者:秋道智彌・市川光雄・大塚柳太郎編 出版社:世界思想社 ISBN:4-7907-0561-7								
参考書 2									

授業科目名	統計学					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	平井 順						NO.	GE-NM-2-006	
配当学科	農学部					年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	この科目の到達目標は、統計資料の整理、平均・分散・標準偏差、因果関係・相関関係、クロス集計、確率論、検定・推定、相関係数について習得することである。								
概要	社会現象を考察するうえで統計データをもちいて分析することが一般化している。私たちが気をつけるべきは、統計データでわかることとわからないことの吟味である。統計データを解釈するうえでの誤解や誤用に陥ることなく、統計学的知識を駆使して、数値が何をあらわしているかを正確に理解できなければならない。この科目は確率や統計などの数学的な理解を通して、統計データを扱ううえで必要な基本的な知識を解説する。								
評価方法	課題およびテスト(45%)と授業姿勢(55%)を組み合わせせて評価する。評価は厳格におこなう。								
履修条件・注意事項									
自己学習	授業の進行に合わせて随時課題およびテストをおこなう。くれぐれも復習を怠らないこと。								
オフィスアワー	A棟407研究室において、毎週水曜日2限目(11:10-12:40)をオフィスアワーの時間とする。ただし第3水曜日を除く。								
春学期授業計画		授業方法		担当者	秋学期授業計画		授業方法		担当者
					01. 計量データの種別や特徴 ―統計資料の整理 02. 代表値(平均値, 中央値, 最頻値) 03. $\Sigma$ (シグマ) 04. 分散 05. 標準偏差 06. Z得点と偏差値 07. 相関関係と因果関係 08. 疑似相関(共変関係, 見かけ上の相関) 09. 確率論 10. サンプル理論 11. 必要サンプル数 12. 標本誤差 13. ランダムサンプリング 14. 帰無仮説, 有意確率 15. まとめ 16. 試験		講義  講義  講義 講義 講義 講義 講義  講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験		平井  平井  平井 平井 平井 平井 平井  平井 平井 平井 平井 平井 平井
教科書 1	統計データ資料やレジュメを適宜配布する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									



授業科目名		数学				履修期		2021年度 秋学期					
担当者		増田 順						NO.	GE-NM-2-007				
配当学科		農学部				年次		2					
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義・ゼミ形式			
テーマと到達目標		テーマ 「型稽古(講義・例題・問題演習)を通して、倫理的・分析的な思考力を養う」 到達目標 ①関数の微分法、積分法の計算方法を身につける。 ②関数のグラフを描き、図形の面積・体積曲線の長さを求める。 ③自然界に現れる現象を数式で表現し、理解する。											
概要		速度・密度・濃度・歩合・百分率等を題材にして割り算、分数の概念の復習をする。此の後、高等学校・数学Ⅰを既習のものとして、農学部で使う数学解析を学習する。 有理関数、三角関数、指数・対数関数を題材に一変数の微分・積分とその応用に重点を置く。 異常の諸項目を講義・問題演習を通してその習得を図る。											
評価方法		到達目標①、②、③について具体的にできるようにする。 成績は、レポート提出・平常点(30%)および試験(70%)によって評価します。											
履修条件・注意事項		数学は演習問題を実際に解くことを通して理解できるものです。そのためには復習が不可欠です。予習復習が出来やすくするために教科書を使用いたします。毎時間ごとに演習問題を指定いたしますので、これをノートに解いて次回必ず提出していただきます。											
自己学習		数学は演習問題を実際に解くことを通して理解できるものです。そのためには復習が不可欠です。予習復習が出来易くするために教科書を使用いたします。毎時間ごとに演習問題を指定いたしますので、これをノートに解いて次回必ず提出していただきます。											
ファイナル		授業終了後教室にて											
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
							1.関数の極限・連続・微分法の基本的性質 2.三角関数のグラフ・加法定理等基本の公式の確認 3.逆関数の定義。逆三角関数、指数・対数関数、計算法則等の確認。 4.eの定義・指数・対数関数、逆三角関数のグラフ 5.初等関数(整関数・三角関数・指数関数・対数関数等)の微分法 6.合成関数・逆関数の微分法 7.対数微分法。n次導関数 8.平均値の定理。関数の増減及び凹凸 9.テイラーの定理。マクローリンの定理 10.近似式。不定形の極限 11.不定積分・定積分 12.置換積分・部分積分 13.有理関数・三角関数、指数・対数関数の積分 14.定積分の応用(面積・回転体の体積) 15.定積分の応用(曲線の長さ)。極座標。 16.単位認定試験			講義 講義  講義  講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験		増田 増田  増田  増田 増田 増田 増田 増田 増田 増田 増田	
教科書 1		数理解析への「微分積分の基礎」 著者:茨城大学大学教育センター 出版社:学術図書出版社											
教科書 2													
参考書 1													
参考書 2													

授業科目名				南あわじ農業学				履修期		2021年度 春学期									
担当者				勘如 純一						NO.		GE-AR-1-001							
配当学科				農学部				年次		1									
必修・選択				必修		単位数		2		時間数		30		授業形態		講義			
テーマと到達目標				全国でも有数の農業生産地である南あわじ地域の農業の現状や発展経過、たまねぎやレタスなどの野菜や畜産の生産技術、農業経営の実態や産地の抱える問題点、また関係機関や関係業者等の取り組みや支援体制などを知り、地域全体での産地づくりについて理解するようになる。 これにより、南あわじ地域の今後の農業生産、流通販売、農産物加工および農村地域の活性化などについて考察し提言できるようになる。															
概要				南あわじ地域は、温暖な気象条件や排水の良い土壌条件などに恵まれ、たまねぎ、レタスなどの露地野菜と畜産を中心とした全国有数の農業生産地帯である。主要品目である「たまねぎ・レタス」、「酪農・肉用牛」生産の歴史や技術の変遷、水稻+レタス+たまねぎなどの水田三毛作体系に代表される生産技術の特徴や発展経過、担い手の育成対策など、南あわじ農業全体(生産・流通・加工)の現状およびそれを育ててきた背景などを理解する。 また先進的農業経営者や農業協同組合、農業試験研究機関の職員を外部講師として招き、農業経営者としての姿勢や意識、産地強化のための支援の取り組みなどへの理解を深める。															
評価方法				一方的な講義に終わらないよう、できるだけ話し合いや意見交換、討議の時間をとるよう勉めることとし、評価はレポート(70%)、授業中の意見や質問の発言頻度や内容、授業への姿勢や積極的な参加態度(30%)を基準とする。															
履修条件・注意事項				南あわじ地域で展開されている農業への理解を深めることが基本であるため、日常生活のなかで常に問題意識を持ち、疑問に思うことや関心のあることを自らまとめたり調査するとともに、授業において積極的な意見交換ができるように心がけること。															
自己学習				授業の内容についてさらに理解を深めるため、自ら積極的に農家への聞き取りや調査を行う。															
ワイフアワー				授業終了後、教室にて															
春学期授業計画						授業方法		担当者		秋学期授業計画						授業方法		担当者	
1.兵庫県および淡路の農業生産 2.南あわじ農業の概要と特徴 3.「淡路島たまねぎ」の歴史と技術 4.三毛作体系の現状と発展経過 5.野菜の病害虫発生と防除対策 6.野菜生産の機械化や省力化技術 7.野菜の主な営農類型と経営試算 8.南あわじの酪農経営の現状 9.南あわじの肉用牛経営の現状 10.農業の担い手の動向と育成対策 11.先進的な農業経営者との懇談 12.農業協同組合による産地強化 13.南あわじ農業と試験研究の役割 14.南あわじ農業の課題と方向 15.たまねぎ出荷関連施設の見学 16.単位認定試験						講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 AL(懇談) 講義 講義 AL(討議) AL(見学) レポート		勘如 勘如 勘如 勘如 勘如 勘如 勘如 勘如 勘如 勘如 外部講師 外部講師 外部講師 勘如 勘如 勘如											
教科書 1				使用しない(プリントを配布する)															
教科書 2																			
参考書 1																			
参考書 2																			

授業科目名	日本の伝統実技Ⅰ(文)				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	堤 俊彦、堤 初美					NO.	GE-AR-3-002	
配当学科	農学部				年次	3		
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	実習	
テーマと到達目標	<p>第1回～第7回 淡路人形浄瑠璃500年の歴史と伝統芸能を学び、理解と興味を引き出し実際に体験することをテーマとする。</p> <p>第8回～第15回 「だんじり唄を唄おう!」をテーマに、一つの外題に取り組み、自らが”だんじり唄”を体験することで解る高い音楽性と演劇性。それたを学びつつ、地域に息づく唄の存在価値を考察する。</p>							
概要	<p>第1回～第7回 浄瑠璃の基本的な理解を深める(語り、操り、三味線)外部研修で実際に体験し関心を持ってもらう。</p> <p>第8回～第15回 郷土が世界に誇れる優れた伝統文化”だんじり唄”地元産業とともにあるこの唄の魅力に迫り、その起源から、特徴、素晴らしさ、難しさ、面白さ、唄うことの楽しさ、喜びなどを体験を通して学ぶ。また、唄への愛着や誇りなど、古くからこの地域の人々が心のよりどころとしてきた特有の価値観の共有実態なども理解しながら、地域のコミュニティーや産業に大きく貢献している唄の意義を探る。</p>							
評価方法	<p>第1回～第7回 授業に対する取り組み、姿勢、態度(50%)レポート試験(50%)</p> <p>第8回～第15回 毎授業での態度理解度(20点)はもちろん、自ら研究しようとする意欲など、授業への積極的な取り組み姿勢(10点)と演技上の表現力(10点)、さらには唄への創造性(10%)を見る。これらの総合的な評価は、最終レポートの内容(50%)を重視する。</p>							
履修条件・注意事項	<p>第1回～第7回 関心度に対し、毎回の雑談感想一行レポート提出を希望。</p> <p>第8回～第14回 一つの外題を習得し、出し物として全員で唄える(披露できる)ことを最終目標とすることから、毎授業での練習(積み重ね)が重要となる。そこで、できる限り欠席の無いように努めること。</p>							
自己学習	インターネットなどにより情報を得る。							

春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
				1. 淡路の伝統芸能 2. 人形の歴史 3. 浄瑠璃の外題、朝顔日記の説明 4. 浄瑠璃の語り、三味線 5. 人形の操り方、頭の種類 6. 外部研修(人形座資料館) 7. まとめ 8. だんじり唄の基礎知識・・・その特徴など 9. だんじり唄の基礎知識・・・各パートなど 10. みんなで”だんじり唄”を唄おう！Ⅰ 11. みんなで”だんじり唄”を唄おう！Ⅱ 12. みんなで”だんじり唄”を唄おう！Ⅲ 13. みんなで”だんじり唄”を唄おう！Ⅳ 14. みんなで”だんじり唄”を唄おう！Ⅴ 15. みんなで”だんじり唄”を唄おう！Ⅵ 16. 試験(だんじり唄の魅力等について)	講義 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 筆記試験	堤 初美 堤 初美 堤 初美 堤 初美 堤 初美 堤 初美 堤 初美 堤 俊彦 堤 俊彦 堤 俊彦 堤 俊彦 堤 俊彦 堤 俊彦 堤 俊彦 堤 俊彦 堤 俊彦 堤 俊彦、 堤 初美
教科書 1						
教科書 2						
参考書 1						
参考書 2						

授業科目名	日本の伝統実技Ⅱ（武）					履修期	2021年度 春学期		
担当者	森川 勝次						NO.	GE-AR-3-003	
配当学科	農学部					年次	3		
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	実技		
テーマと到達目標	テーマ 合気道の理念と技の習得 到達目標 合気道の理念を会得し、その基本的な技を体得する。								
概要	合気道を通じて、健全な心身の育成をめざす。特に礼節を重んじる武道精神を涵養する。								
評価方法	授業態度(20%)と、立居振舞を含む合気道の技の習得状況(80%)により評価を行う。								
履修条件・注意事項	履修条件 医者等から激しい運動を禁止されている者でないこと。 真面目に習得しようとする意欲のある者 注意事項 怪我を伴う危険性もあり、軽い気持ちで履修はしないこと。 運動ができる服装								
自己学習	事前の課題を積極的に身につける。								
オフィスアワー	授業終了後体育館にて								

春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.合気道の歴史と理念他(1)		実技	森川 勝次			
2.受け身の練習と基本的技の習得(1)		実技	森川 勝次			
3.受け身の練習と基本的技の習得(2)		実技	森川 勝次			
4.受け身の練習を基本的技の習得(3)		実技	森川 勝次			
5.受け身の練習と基本技の習得(4)		実技	森川 勝次			
6.受け身の練習と基本的技の習得(5)		実技	森川 勝次			
7.受け身の練習と基本的技の習得(6)		実技	森川 勝次			
8.受け身の練習と基本的技の習得(7)		実技	森川 勝次			
9.受け身の練習と基本的技の習得(8)		実技	森川 勝次			
10.受け身の練習と基本的技の習得(9)		実技	森川 勝次			
11.受け身の練習と基本的技の習得(10)		実技	森川 勝次			
12.受け身の練習と基本的技の習得(11)		実技	森川 勝次			
13.受け身の練習と基本的技の習得(12)		実技	森川 勝次			
14.受け身の練習と基本的技の習得(13)		実技	森川 勝次			
15.受け身の練習と基本的技の習得(14)		実技	森川 勝次			
16.単位認定試験		実技試験	森川勝次			
教科書 1						
教科書 2						
参考書 1						
参考書 2						

授業科目名		地域創成農学概論				履修期		2021年度 春学期						
担当者		濱島 敦博、末吉 秀二、森野 真理、平井 順、谷坂 隆俊、桧原 健一郎、許 冲、相野 公孝、氷見 英子							NO.	AG-AR-1-101				
配当学科		地域創成農					年次		1					
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義				
テーマと到達目標		本講義の狙いは、地域創成農学部における4年間の教学上の「動機付け(エンカレッジ)」とする。特に、専門の異なる複数の教員によるオムニバス形式で講義を行うことにより、問題に対して関連諸科学の見地から多角的な視野・手法で取り組むことの重要性を認識することを到達目標とする。												
概要		現在、日本の地域農業や地域社会が抱える諸問題についてその概要を把握した上で、「農業生産」及び「食品加工技術」を基盤としながら、新たな地域社会を創成するための方策について、総合的な理解を図る。												
評価方法		各講義回にて課すレポート(100%)によって評価する。												
履修条件・注意事項														
自己学習		レジュメの予習・復習を事前に行うこと。												
オフィスアワー		火曜日4限、木曜日2限。A402号室。												
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
(1) ガイダンス				講義		濱島								
(2)なぜ植物を研究するのか？				講義		桧原								
(3)農業における遺伝的改変				講義		桧原								
(4)トランスポゾンと突然変異				講義		許								
(5) 良い菌で病気を防ぐ！				講義		相野								
(6)農産物マーケティング				講義		濱島								
(7)人類の生存基盤を支える育種および育種学				講義		谷坂								
(8)生態系サービスとは				講義		森野								
(9)森林の過少利用問題				講義		森野								
(10)人口問題とは何か？				講義		末吉								
(11)人口と農業				講義		末吉								
(12)緑の革命の意義とその限界				講義		氷見								
(13)Mottainai movement in Japan				講義		氷見								
(14) 社会学への誘い				講義		平井								
(15) 振り返り				講義		濱島								
教科書 1														
教科書 2														
参考書 1														
参考書 2														

授業科目名		基礎演習Ⅰ				履修期		2021年度 春学期							
担当者		末吉 秀二、森野 真理、平井 順、濱島 敦博、桧原 健一郎、許 冲、相野 公孝、氷見 英子						NO.		AG-AR-1-102					
配当学科		地域創成農				年次		1							
必修・選択		必修	単位数	1	時間数	15		授業形態		演習					
テーマと到達目標		「大学で学ぶための基礎」をテーマとして、文章作成や図表理解の技術を学び、大学で自ら学ぶための能力を身につけることを到達目標とする。													
概要		基礎演習Ⅰは、1年次春期の科目である。これから4年間「大学生」として学んでいく上で、4年後の就職活動も視野に入れながら、有意義な知的生活を送るために必要となる、教養及び技能を紹介していく。													
評価方法		課題(レポート、発表等)50%、授業態度(積極性等)50%													
履修条件・注意事項		欠席、遅刻をする場合は、前もって連絡すること。無断欠席及び遅刻は減点の対象とする。また、各講義内容を必ず復習すること。													
自己学習		授業計画をもとに予習・復習を行うこと。													
オフィスアワー															
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
1. オリエンテーション 2. 学生生活の基本 3. 大学で学ぶことの意味(1) 4. 大学で学ぶことの意味(2) 5. 図書館の利用とインターネットの活用方法 6. 文献・データ検索の方法 7. 文献調査の方法 8. レジュメの作り方 9. プレゼンテーションの方法 10. ディベートの方法 11. レポートの書き方(1) 12. レポートの書き方(2) 13. 個別発表(1) 14. 個別発表(2) 15. まとめ 16. 試験				演習 演習 演習 演習  演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 レポート		各教員 各教員 各教員 各教員 各教員  各教員 各教員 各教員 各教員 各教員 各教員 各教員 各教員 各教員									
教科書 1		適宜、資料を配布する。													
教科書 2															
参考書 1															
参考書 2															

授業科目名	基礎演習Ⅱ					履修期	2021年度 秋学期				
担当者	末吉 秀二、森野 真理、平井 順、濱島 敦博、桧原 健一郎、許 冲、相野 公孝、氷見 英子							NO.	AR-AR-1-103		
配当学科	地域創成農					年次	1				
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習				
テーマと到達目標	「自己理解と自己実現」をテーマとして、思考力・表現力・検討能力などの工場、文献検索法、レポート作成法などの基礎を学修することで、学問へのアプローチ方法を身につけることができるようになる。										
概要	自分自身を理解するために、ワークショップやエクササイズを中心とした演習を行う。その後、さらに自己理解を深め、自己を延ばすためにはどういう考えと行動が必要かについて、受講生同士で話し合う。加えて、学問へのアプローチ方法について、教員から指導する。										
評価方法	課題レポート(50%)、ディベート(50%)で評価する。										
履修条件・注意事項	欠席、遅刻する際には、前もって連絡すること。無断欠席や遅刻は減点の対象とする。各講義の内容について必ず復習すること。										
自己学習	授業計画をもとに予習・復習しておくこと。										
オフィスアワー	(水)11:10から12:40										
春学期授業計画		授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法		担当者	
						1. オリエンテーション 2. 自分の話し方、聴き方 3. 聴く、話す、観る 4. 聴く技術と話す技術 5. コミュニケーションスキル 6. ライフスキル 7. 私の成熟度 8. 自己分析と自己理解 9. 価値観 10. 強みと弱みの発見 11. 討論(自己理解) 12. ディベートとは 13. ディベート準備 14. ディベート 15. 2年次への心構え 16. 試験		演習 演習			

授業科目名		基礎演習Ⅲ				履修期		2021年度 春学期							
担当者		末吉 秀二、森野 真理、平井 順、濱島 敦博、桧原 健一郎、許 冲、相野 公孝、氷見 英子						NO.		AG-AR-2-104					
配当学科		地域創成農				年次		2							
必修・選択		必修	単位数	1	時間数	15		授業形態		演習					
テーマと到達目標		「課題探究能力・主体的判断能力の育成」をテーマとして、自主的学習のための基礎知識を身につけ、自らが課題を見つけ出す能力を身につけることを到達目標とする。													
概要		専門分野における総合的な課題探究能力・主体的判断能力の育成を目指して、教養教育と専門教育の有機的連携を考察する。教員から与えられる専門情報に関して、受容から獲得へ、学修から研究へと、理解を深め、専門的知識を演習グループの共通認識へと高めていく。													
評価方法		課題(レポート、発表等)50%、受講態度(積極性等)50%で評価する。													
履修条件・注意事項		欠席、遅刻する際には、前もって連絡すること。無断欠席や遅刻は減点の対象とする。各講義の内容について必ず復習すること。													
自己学習		授業計画をもとに予習・復習を行うこと。													
ワイアワー															
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
1 オリエンテーション 2 教養教育と専門教育の違い 3 自主的学習 4 課題探究学修 5 現状の把握 6 現状の分析 7 課題の設定 8 課題の解決方法 9 個別発表(1) 10 個別発表(2) 11 個別発表(3) 12 個別発表(4) 13 個別発表(5) 14 個別発表(6) 15 総評 16 試験				演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 レポート		各教員 各教員 各教員 各教員 各教員 各教員 各教員 各教員 各教員 各教員 各教員 各教員 各教員 各教員 各教員									
教科書 1		適宜、資料を配布する。													
教科書 2															
参考書 1															
参考書 2															





授業科目名		遺伝学				履修期		2021年度 春学期							
担当者		氷見 英子							NO.	AG-AR-1-106					
配当学科		地域創成農				年次		1							
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義					
テーマと到達目標		本講義では、生物の複雑な生理現象の大半は遺伝的支配を受けていることを認識・理解するとともに、遺伝学の基礎を習得する。													
概要		教科書に沿って講義を行い、古典遺伝学、細胞遺伝学、分子遺伝学について解説しながら、自発的な調査や学習を促す。													
評価方法		知識習得状況を把握するための筆記試験(85%)および課題調査・学習成果のレポート(15%)を合計して総合評価する。なお、レポート等は授業でフィードバックする。													
履修条件・注意事項		遺伝学の授業用の専用ノートを用意すること。													
自己学習		次の授業への導入・予習となる課題を毎回出すので、次回の授業までに提出。													
オフィスアワー		個人研究室にて、火曜および金曜の昼休みに実施。													
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
1. 遺伝と遺伝子の伝達 2. 古典遺伝学的な遺伝子の概念 3. 染色体と遺伝子 4. 細胞遺伝学 5. 遺伝子の実体 6. 遺伝子操作 7. 遺伝子単離 8. 遺伝子発現解析 9. 遺伝子導入法 10. 遺伝子同定 11. 量的形質の遺伝 12. ゲノム 13. 細胞質遺伝 14. エピジェネティクス 15. 遺伝学の応用 16. 試験				講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 試験		氷見 氷見 氷見 氷見 氷見 氷見 氷見 氷見 氷見 氷見 氷見 氷見 氷見 氷見 氷見									
教科書 1		遺伝学の基礎 著者:北柴大泰・西尾剛 出版社:朝倉書店 ISBN:978-4-254-40549-1													
教科書 2															
参考書 1															
参考書 2															

授業科目名				分子生物学			履修期		2021年度 春学期						
担当者				桧原 健一郎						NO.	AG-AR-2-107				
配当学科				地域創成農				年次		2					
必修・選択				選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義			
テーマと到達目標				1) 遺伝子とは何かを理解できる。 2) DNA、RNA、タンパク質の構造が理解できる。 3) DNAの複製・修復機構の概要を理解できる。 4) DNAに保存されている遺伝情報がどのように発現されるか(RNAの転写、タンパク質の翻訳)を理解できる。 5) 卒業論文研究等で分子生物学的実験を実践できる基礎的学力を習得する。											
概要				クローン技術とは？遺伝子組換え作物とは？最近のバイオテクノロジー分野の進歩は目覚ましく、実験室での基礎研究から、各産業界分野での製品開発まで幅広く展開されている。農業分野においても、品種改良や選抜育種などに利用され、次世代農業へのアプローチが期待されている。分子生物学とは生命現象を分子のレベルで説明する学問であり、バイオテクノロジーの大躍進も、分子生物学の成果なしでは起こり得なかった。講義では、遺伝子とは何か、遺伝子はどのように複製されるのか、遺伝子の情報はどのように伝達されるのか、またその情報から細胞は何を作り出すのか、等の分子生物学の基礎的事項を分かりやすく解説する。											
評価方法				定期試験(50%)、小テスト(50%)で評価する。授業態度(積極性等)も加点の対象とする。合格点に満たない場合は、レポートの提出を求める。											
履修条件・注意事項				予習、復習のため、プリントあるいはファイルを渡す予定だが、自主学習のために参考書として「基本がわかる 分子生物学集中講義」を購入することを勧める。											
自己学習				毎回の指示に従って予習と復習を行うこと。予習および復習には各2時間程度を要する。											
オフィスアワー				個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分を実施。											
春学期授業計画					授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
第1回 ガイダンスー分子生物学の歴史的背景 第2回 遺伝と遺伝情報(メンデル遺伝、遺伝情報を担う核酸の発見) 第3回 生体を構成する化学物質とその役割 第4回 DNAとRNAの基本構造 第5回 遺伝子と染色体(クロマチン、ヌクレオソーム) 第6回 DNAの複製 第7回 DNAの修復機構 第8回 遺伝子情報の発現(転写) 第9回 遺伝子情報の発現(RNAスプライシング) 第10回 遺伝子情報の発現(翻訳) 第11回 遺伝情報発現の調節(原核生物) 第12回 遺伝情報発現の調節(真核生物) 第13回 遺伝子操作・バイオテクノロジー 第14回 分子遺伝学(最新トピック) 第15回 細胞生物学(最新トピック) 第16回 定期試験					講義		桧原								
教科書 1															
教科書 2															
参考書 1				基本がわかる 分子生物学集中講義 著者：花岡 文雄(監修), 武村 政春(著) 出版社:講談社 ISBN:ISBN-10 : 4062195925  ISBN-13 : 978-4062195928											
参考書 2															



授業科目名		植物生理学				履修期		2021年度 春学期				
担当者		長谷川 博						NO.	AG-AR-1-109			
配当学科		地域創成農				年次		1				
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義				
テーマと到達目標		植物栽培を行うためには植物の機能を十分に理解する必要がある。本講義では植物生理学を分子生物学や生化学に基づいて学び、植物栽培の基礎知識を得るだけでなく、栽培時に生じる様々な問題(環境ストレスによる障害、栄養不足障害など)に対応できる能力をつけることを目標とする。										
概要		本講義で取り上げるのは植物生理学の分野の中でも、植物の栽培に関連深い内容である。すなわち、光合成と呼吸、植物栄養元素の吸収と代謝、環境ストレス(高温・低温、乾燥・塩分および酸性土壌)に対する植物の反応、二次代謝産物の役割を主に取り上げる。関連分野である遺伝学・分子生物学、植物生態学についても必要に応じて説明する。なお、「農業と環境」の読み替え科目としても実施する。										
評価方法		毎回の講義の終わりに実施する小テストと期末試験を合わせて評価する。配点は前者が40%、後者が60%である。断片的な知識だけでなく、総合的な理解が得られているかどうかを評価するために、小テストと期末試験とも文章題とする。										
履修条件・注意事項		教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。プリントは配布した授業以降も使うことがあるので、常に持参すること。後期に「育種学各論」の受講を希望する者は本講義をできるだけ受講すること。										
自己学習		講義を理解するためには植物生理学と関連深い化学、ことに生化学の知識を必要とする内容が多い。また、専門用語として英語に慣れる必要がある。これらの内容に対応するために、他の履修科目の選択等を各自が工夫すること。										
オフィスアワー		講義の質問等があれば、初回配布資料に記した長谷川のメールアドレスまで連絡すること。										
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法		担当者	
第1回 植物生理学を学ぶための基本事項(1) 植物の進化 第2回 植物生理学を学ぶための基本事項(2) 生化学的基礎 第3回 光合成:光化学反応とカルビン回路 第4回 光合成の多様性 第5回 呼吸 第6回 植物栄養代謝 1;窒素代謝 第7回 植物栄養代謝 2;リンとイオウ代謝 第8回 植物栄養代謝 3;その他の栄養元素 第9回 植物ホルモン 第10回 二次代謝 第11回 植物とストレス 1;一般的な生理反応 第12回 植物とストレス 2;温度ストレス  第13回 植物とストレス 3;水ストレスと土壌ストレス 第14回 発芽生理学と生殖生理学 第15回 放射線と植物 第16回 筆記試験			講義		長谷川							
教科書 1												
教科書 2												
参考書 1		植物の生態 生理機能を中心に 著者:寺島一郎 出版社:裳華房 ISBN:978-4-7853-5855-6										
参考書 2		植物栄養学 第2版 著者:間藤徹・馬建鋒・藤原徹(編) 出版社:文永堂出版 ISBN:978-4-8300-4119-8										

授業科目名		生物の進化と多様性				履修期		2021年度 春学期		
担当者		氷見 英子、許 冲						NO.	AG-AR-1-110	
配当学科		地域創成農				年次		1		
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標		学生が地球と生命の誕生、多様な生物の進化及び地球生命共同体を構成する生物種について理解し、持続可能な地球環境生命体を維持することの必要性和、食料ならびに環境資源としての植物の重要性を学ぶ。								
概要		地球の誕生後、原始生命体の誕生に至る化学進化、更にはその後の細胞の共生等を経て多種多様な生物種へと進化した過程と生物分類について解説する。また、食料ならびに地球環境資源として不可欠な植物については、光合成能力の獲得や陸上生活への適応、生殖様式の進化などについて講義する。生物の持つ多様性や大量絶滅の歴史を学ぶことにより、今日的な課題である生物やヒトの共生の重要性も考察する。								
評価方法		中間試験(50%)、期末試験(50%)の成績によって判定する。								
履修条件・注意事項		教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。								
自己学習		前半の講義では学習資料として配布プリントを使用するので、毎回の授業でのテーマとなる該当箇所について30分程度復習をすること。また後半の授業では毎回課題を出すので、次の授業までに提出すること。								
オフィスアワー		事前にアポイントを取れば、対応する。								
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. ガイダンス---多種多様な生物種へと進化した過程と生物分類について 2. 生物とは何か 3. 生き物の多様性と系統 4. 生物界全体のグループ分け 5. 植物界のグループ分け 6. 動物界のグループ分け 7. 生物多様性は進化によって生まれた 8. 学名解説(1)およびヒガンバナ科植物 9. 学名解説(2)およびイネ科植物 10. 学名解説(3)およびマメ科植物 11. 学名解説(4)およびアブラナ科植物 12. ナス科植物および接ぎ木技術 13. パラ科植物と植物色素 14. ツバキ科植物と食品加工 15. 薬用植物の歴史と栽培 16. 試験			講義  講義 講義 講義 講義 講義 講義  講義  講義 講義 講義  講義 講義 講義 試験		許  許 許 許 許 許 許  氷見  氷見 氷見 氷見  氷見 氷見 氷見 氷見・許					
教科書 1										
教科書 2										
参考書 1		植物学名入門 著者:L.H. ベイリー 出版社:八坂書房 ISBN:ISBN978-4-89694-237-8								
参考書 2										

授業科目名	農業技術政策論				履修期	2021年度 春学期	
担当者	山田 利昭					NO.	AG-AR-1-111
配当学科	地域創成農				年次	1	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>農業政策の憲法との見方もある食料・農業・農村基本法とその実行計画としての基本計画について解説し、政府の日本農業に対する現状認識と施政方針について学ぶ。また、日本農業の基礎条件とその特質、世界の3つの農業類型について学び、日本農業の今後のあり方について考察する。その上で、近年、政府が推進しようとしている主要な技術政策の現状と課題について学ぶ。履修によって、日本の食料・農業・農村の諸問題を解決するのにふさわしい農業技術政策のあり方についての的確な判断ができるようにする。加えて、自らの今後の農業や関連産業との係わり方、農業研究推進の方向性等についての的確な判断ができる能力を身につけることができるようにする。</p>						
概要	<p>農業政策は、農業技術政策・農業経済政策・農業経営政策などの土台の上に構築される。なかでも農業技術政策は、技術革新をととして農業の飛躍的発展を導く政策として最重要である。そこでまず、政府の日本農業に対する現状認識と、重点技術課題として「スマート農業」および「ゲノム編集や遺伝子組換えによる農作物等の品種改良」の推進を位置づけていることを紹介する。その上で、農業に飛躍的技術革新をもたらすとして注目度は高いが、一部には根強い反対意見もある「遺伝子組換え」と「ゲノム編集」に注目し、交雑などによる従来のゲノム改変との違いについて論ずる。また、一部には強い期待感がある「有機農業による作物生産」の現状と課題について論ずる。さらに、新制度の下で活発化しつつある「機能的農林水産物・食品の開発」の現状と課題について論ずる。</p>						
評価方法	学期末に提示する課題に対するレポートの成績により評価する。						
履修条件・注意事項							
自己学習							
オフィスアワー							

[illegible]

の課題 15. 機能性農林水産物・食品開発の 現状と課題(1):食品表示法の制定・ 機能性表示食品制度の新設の狙いと 効用 16. 機能性農林水産物・食品開発の 現状と課題(2):機能性農林水産物・ 食品開発に関する最近の研究成果と 今後の課題						
教科書 1						
教科書 2						
参考書 1						
参考書 2						



[illegible]

授業科目名		生物化学				履修期		2021年度 春学期						
担当者		水野 雅史						NO.	AG-AR-2-113					
配当学科		地域創成農				年次		2						
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義				
テーマと到達目標		生物を構成している生体分子の構造と機能について理解を深め、生体内での役割を総合的に理解する。												
概要		生物化学(Biochemistry)は生体分子を取り出し、その構造と機能を調べ、それら生体分子間の相互作用の解析を通して、生命現象を説明しようとする学問である。本講義では、生体を構成する炭水化物、脂質、アミノ酸とタンパク質、核酸とその成分、酵素に焦点を当て、それらの基本的な構造と機能について講義する。												
評価方法		受講状態(30%)と必要に応じて行う講義の小テストの平均点(70%)による。												
履修条件・注意事項		講義終了前にその日の講義内容について小テストを行う場合があるので、遅刻すると理解出来ない場合が生ずる可能性があります。												
自己学習		次回の講義内容についてあらかじめ予習し、講義後は講義内容・小テストの結果を見直し、生物化学についての理解を深める。												
オフィスアワー		授業終了後教室にて												
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
1.糖質の特徴 2.単糖の構造 3.二糖類の構造 4.多糖類の構造 5.タンパク質の機能 6.タンパク質・アミノ酸の構造 7.タンパク質の高次構造 8.酵素の科学 9.酵素の特異性 10.酵素阻害機構 11.核酸の化学 12.RNAとDNAの構造 13.遺伝情報 14.脂肪酸の構造 15.脂質の構造				講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義		水野雅史 水野雅史 水野雅史 水野雅史 水野雅史 水野雅史 水野雅史 水野雅史 水野雅史 水野雅史 水野雅史 水野雅史 水野雅史 水野雅史 水野雅史								
教科書 1														
教科書 2														
参考書 1		コーンスタンプ生化学 出版社:東京化学同人												
参考書 2														

授業科目名	有機化学				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	佐々木 満					NO.	AG-AR-2-114
配当学科	地域創成農				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	有機化学の基礎知識取得により、生物や生命現象を分子レベルで理解できることを目標とする。						
概要	有機化学における化学結合と構造、化学反応、および立体化学などについて入門的に解説する。講義前半では、基本的な化合物(メタン、シクロヘキサン、エチレン、アセチレン、ベンゼンなど)の化学結合と構造、反応性および立体化学などについて解説し、より複雑な化合物系への応用ができるようにする。講義後半では、分子の世界のなかで、生体機能分子を取り上げ、有用天然物の化学、血液型と糖化学、物の見える仕組み-視覚と分子、味覚、嗅覚と分子、薬の功罪-サリドマイドの復活、などについて概説する。						
評価方法	受講状態10%、小テスト10%および学期末試験の成績80%により総合的に評価する。						
履修条件・注意事項	化学、生物学などの基礎知識を取得しておくことが望ましい。						
自己学習	配布資料を参考に予習復習をすること。						
オフィスアワー	授業終了後教室にて						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
				1.化学結合と構造 アルカン 2.化学結合と構造 アルケン 3.化学結合と構造 アルキン 4.有機化学反応のしくみ 5.カルボニル基の構造 6.カルボニル基の反応 7.芳香族化合物の化学 8.立体化学 9.生合成と化学合成 10.有機化合物命名法 11.化合物構造決定法 12.生物機能分子 フェロモン 13.生物機能分子 ホルモン 14.生物機能分子 視覚 嗅覚 15.環境と分子、サリドマイドの復活 16.単位認定試験		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木
教科書 1	使用しない。講義時に資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1	基礎の有機化学 著者:深宮齊彦・本田計一・石田敦彦・大村尚・根平達夫 出版社:三共出版 ISBN: ISBN 978-4-7827-0634-3						
参考書 2							

授業科目名	食の安全学					履修期	2021年度 春学期		
担当者	福田 恵温、橋本 久美子、谷坂 隆俊、村上 二郎、金沢 功、井上 守正、相野 公孝、林 将也						NO.	AG-AR-1-115	
配当学科	地域創成農					年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	座学		
テーマと到達目標	日々の食物が人の健康を維持し、健康寿命にも大きな影響を及ぼしている。つまり、食料は人の命を支える物である。したがって、その生産、加工、流通管理に係る者には、人の命を護るという義務がある。学生たちは、人の命を支える食料生産に関わる者が行わなければならない責務が何であるかを知り、食料を安定に持続的に生産流通させる機構を理解し、また、生産時に混入する有害物を除く手法や、加工・流通時に有害物が混入するのを防ぐ技術など、食の安全を守るための必須事項を学ぶ。学生は、将来、食に関わる仕事に携るであろうことを認識し、人の命を護るという重い責務があることを十分に理解することが、本講義の目標である。								
概要	食の安全を確保するために必要な責務について、「講義内容」の欄に列記した課題をオムニバス方式で講述する。食の安全を護る法規、食料の安定供給、農作物の病害とそれを防ぐ農薬、好ましくない物質の混入を防ぐ農業生産方法、遺伝子組換え作物の必要性和安全性、食中毒を防ぐ方法などを講述する。これらの講義内容から、学生は、食の安全の重要性和必要性を理解し、食の安全を護る方法を学ぶ。 *実務経験のある教員による授業科目 金沢、福田は民間企業において、井上は公的研究機関において、食品原料の製造における安全管理に関わっており、十分な実績を有している。谷坂、村上、林は大学研究機関において微生物学、発酵・醸造食品の製造および食品衛生学に基づく安全管理に関する知識を修得し、研究活動にてそれらを実践してきており、十分な実績を有している。								
評価方法	期末試験で、本講義全般についての理解度を測る内容の課題と、その年の食の安全に関する社会のトピックスを出題する。学生はその課題に対して、自分の考えるところを整理し、焦点を絞って、論理的に簡潔に1000字程度で回答する。その回答の内容から、本講義の理解度を測り、評点する。 単位認定試験(100%)により評価を行う。								
履修条件・注意事項	期末試験の問題は知識を問う内容ではない。本講義15回の内容を十分に理解していなければ適切な回答は書けない。欠席や遅刻が多ければ、講義の内容を十分に理解できないので、期末試験の評価が不利になる。								
自己学習	授業内容は下に列記されているので、毎回の授業前に1時間ほど、食に関わるニュースをWeb検索して調べてみる。そして、毎回の授業ごとに資料を配布するので、授業後にそれを2時間ほど繰り返し精読することで、復習する。								
オフィスアワー	毎回の授業終了後に講義室。オムニバス講義なので、場所はその回の講義を行った講義室とする								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1..食の安全学とは、農業生産に関わる者の責務と義務 2.食の安全と農薬 3.食の安全は育種によってのみ実現する 4.低投入持続型農業は可能か？ 5.食中毒の分類と発生状況 6.食中毒の原因微生物 7.食料の自給と廃棄、再利用 8.お酒の有効性、危険性 9.酒税法のポジティブリスト 10.咀嚼、嚥下機能低下者と形態調整食 11.食品と放射能 12.遺伝子組換え食品、ゲノム編集食品の安全性 13.食品製造における安全性担保 14.食品衛生法と食品添加物 15.食の安全 今後の課題、まとめ			座学	相野公孝  相野公孝 谷坂隆俊  谷坂隆俊 村上二郎 村上二郎 福田恵温 井上守正 井上守正 橋本久美子  橋本久美子 林将也  福田恵温 金沢功 福田恵温					
教科書 1	毎回、その講義の資料を配布する 出版社:文永堂								
教科書 2									
参考書 1	植物病理学								
参考書 2	農業と食:安全と安心  出版社:ソフトサイエンス社								

授業科目名		生物学実験				履修期		2021年度 春学期							
担当者		桧原 健一郎、村上 二朗、許 冲、氷見 英子							NO.	AG-AR-2-116					
配当学科		地域創成農				年次		2							
必修・選択		必修	単位数	1	時間数	30		授業形態		実習					
テーマと到達目標		実験を通じて、生き物や生命現象に対する興味や関心を高める。卒業論文研究等の生物学実験を実践する際に必要な一般知識や基礎技術を習得する。													
概要		食資源生物の生産維持管理にかかわる植物および微生物についての基礎知識および実験技術を取得するため主としての実習を行う。													
評価方法		授業態度(50点)および毎回のレポート(50点)などで総合的に評価する。													
履修条件・注意事項		講義中は白衣・ゴーグルを着用すること。													
自己学習		実験内容の復習やレポートの作成により、理解を深めること。毎回の予習および復習には1時間程度を要する													
オフィスアワー		事前にアポイントを取れば、対応する。													
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
1回 ガイダンス 第2・3回 実験器具の使い方 第4・5回 植物組織、細胞分裂の観察 第6・7回 PCRを用いたDNA鑑定 第8・9回 微生物の無菌培養 第10・11回 植物病原菌の接種 第12・13回 植物病害の遺伝子診断 第14・15回 植物色素の定量・定性分析				講義 実験 実験  実験 実験 実験 実験 実験		全員 全員 全員  全員 全員 全員 全員 全員									
教科書 1															
教科書 2															
参考書 1		顕微鏡の使い方ノートーはじめての観察からイメージングの応用まで 著者:野島 博 出版社:羊土社 ISBN:ISBN-10: 4897069173 ISBN-13: 978-4897069173													
参考書 2		イラストでみる超基本バイオ実験ノートーぜひ覚えておきたい分子生物学実験の準備と基本操作 著者:田村 隆明 出版社:羊土社 ISBN:ISBN-10: 4897069203 ISBN-13: 978-4897069203													



授業科目名	植物育種学概論					履修期	2021年度 春学期		
担当者	谷坂 隆俊						NO.	AG-AR-2-201	
配当学科	地域創成農					年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	「地域農業と品種改良」および「農業発展と品種改良」をテーマとして、作物の生産性の向上と安定生産や高品質農産物の獲得に育種(品種改良)が極めて重要な役割を担っていること、また、乾燥地やアルカリ・酸性土壌、塩害土壌における緑化には育種が極めて有効な手段であることを認識させるとともに、育種および育種学に関わる知識の拡大と習得を目指す。								
概要	人類が農耕を開始したのは今から15,000年前のことである。人類はそれから1万年以上もかけて脱粒性や休眠性など、野生植物が子孫を残す上では重要であるが、栽培には不都合な性質を取り除き、より生産性が高くより品質のよいものへと改良を重ねてきた。有史以前にはすでに現在の品種の原型が作られたと考えられているが、メンデルの遺伝法則が再発見されと、育種は一気に加速し、最近120年の間にイネ、コムギの単位面積当たり収量は3倍近くにまで跳ね上がった。本講義では、このような人間社会における育種(品種改良)の重要性について画期的成果を踏まえつつ論述するとともに、育種の基礎となる遺伝資源の収集・保存、変異の創成法や選抜法、およびこれらを支える基礎研究について解説する。								
評価方法	期末試験の成績によって判定する								
履修条件・注意事項	遺伝学の基礎知識が必要である。1年次に遺伝学概論の履修を勧める。								
自己学習									
オフィスアワー									
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. 育種の重要性 2. 農耕と育種 3. 進化と育種 4. 育種の手順と育種素材の選定 5. 遺伝資源の収集と保存 6. 細胞分裂と生活環 7. 受粉と受精 8. 繁殖様式(自家不和合性と雄性不稔性) 9. 変異の創成(交雑) 10. 変異の創成(突然変異の誘発) 11. 育種法 12. バイオテクノロジーと育種(1) 13. バイオテクノロジーと育種(2) 14. 遺伝解析法 15. 今後の育種の課題 16. 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	谷坂 隆俊 谷坂 隆俊 谷坂 隆俊 谷坂 隆俊 谷坂 隆俊 谷坂 隆俊 谷坂 隆俊 谷坂 隆俊 谷坂 隆俊 谷坂 隆俊 谷坂 隆俊 谷坂 隆俊 谷坂 隆俊 谷坂 隆俊 谷坂 隆俊					
教科書 1	なし								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	植物育種学各論					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	谷坂 隆俊、長谷川 博						NO.	AG-AR-2-202	
配当学科	地域創成農					年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	「品種改良と食の安定供給」をテーマとして、作物の生産性の向上と安定生産や高品質農産物の獲得に育種(品種改良)が極めて重要な役割を担っていること、また、乾燥地やアルカリ・酸性土壌、塩害土壌における緑化にも育種が唯一有効な手段であることを、具体例を用いて紹介し、育種および「育種学が人類の生存基盤を支えるもっとも重要な営為であることを理解させる。								
概要	主要な育種対象形質である収量、適応性(開花日の改変など)、ストレス耐性(病気・害虫などの生物的ストレスに対する耐性、乾燥・冷温・恒温などの非生物的ストレスに対する耐性)、品質(タンパク質・炭水化物・、油脂成分・食味・香気成分などの改変)について、従来の育種上の成果とその社会的波及効果、遺伝育種学的研究、生理学的研究、および今後の課題について詳述するとともに、世界3大作物のイネ、コムギ、トウモロコシをはじめ、ダイズ、ジャガイモ、サツマイモ、トマト、リンゴなどの作物および園芸作物の育種上の成果と遺伝研究の現状について個別に解説する。								
評価方法	期末試験(100%)の成績によって判定する								
履修条件・注意事項	遺伝学の基礎知識が必要である。1年次に遺伝学概論の履修を勧める。								
自己学習									
オフィスアワー									
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
				1. 育種目標(多収性・適応性) 2. 育種目標(品質) 3. イネの育種学 4. イネの育種学 5. イネの育種学 6. コムズの育種学 7. ダイズの育種学 8. トウモロコシ・その他植物の育種学 9. 植物の環境反応 10. 植物の環境反応 11. 非生物的ストレスの影響の概要 12. 植物の環境ストレスの影響とその対応策 13. 共通したストレス反応 14. 効率的な植物の資源利用機能 15. 植物の「根」機能の重要さ 16. 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	谷坂隆俊 谷坂隆俊 谷坂隆俊 谷坂隆俊 谷坂隆俊 谷坂隆俊 谷坂隆俊 谷坂隆俊 長谷川博 長谷川博 長谷川博 長谷川博	
教科書 1	なし								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									



[illegible]



授業科目名				花卉園芸学				履修期		2021年度 春学期									
担当者				札埜 高志						NO.		AG-AR-2-205							
配当学科				地域創成農学科				年次		2									
必修・選択				選択		単位数		2		時間数		30		授業形態		講義			
テーマと到達目標				「花卉園芸を統括的に理解する」をテーマとして、花卉園芸について自然科学と社会科学の両面から学び、農業や社会園芸について自ら考え、行動に結びつけるための能力を身につける。 花卉園芸の分野で利用する植物の種類、生理生態的特徴、その栽培技術について理解する。また、産業としてではなく福祉的・療法的な活用についても理解する。さらに、生産園芸や社会園芸の実践のための方策を自ら考えることができるようになることを到達目標とする。															
概要				花卉園芸の基礎である植物材料、栽培環境、栽培技術、ポストハーベストについての基礎的な理解を深め、生産園芸のみならず福祉的・療法的園芸、趣味園芸、アメニティーとしての花卉園芸における新たな利活用方策を提案する能力を得られるよう授業を行う。															
評価方法				花卉園芸に関する知識の修得状況ならびに花卉園芸の多面的な利活用方策を提案する能力を計ることを目的とし、積極的な授業参加姿勢(40%)、知識の修得状況を確認するためのレポート(30%)、花卉園芸の多面的な利活用方策の提案力を確認するためのレポート(30%)で評価する。															
履修条件・注意事項				配付プリントをファイリングすること。															
自己学習				授業計画に記載されている内容について予め調べておくこと。利活用方策の提案力を高めるためには、花卉園芸の知識の蓄積が必要不可欠なので、必ず復習を行うこと。															
オフィスアワー				授業終了後30分程度、教室にて。															
春学期授業計画						授業方法		担当者		秋学期授業計画						授業方法		担当者	
1. ガイダンス、花卉園芸の概説 2. 花の構造 3. シュートおよび根の構造と機能 4. 植物の生活環 5. 花芽分化と開花 6. 受粉受精、育種技術 7. 種子繁殖と栄養繁殖 8. 環境応答 9. 植物ホルモンの利用 10. 花色、カラーリーフ、香り 11. 切り花の生理 12. 花卉生産の事例 13. 古典園芸植物 14. 福祉的・療法的な園芸 15. これからの花卉園芸を考える						講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 討論		札埜 札埜 札埜 札埜 札埜 札埜 札埜 札埜 札埜 札埜 札埜 札埜 札埜 札埜											
教科書 1																			
教科書 2																			
参考書 1																			
参考書 2																			

授業科目名				果樹園芸・熱帯植物学				履修期		2021年度 秋学期									
担当者				片山 寛則、東 哲司						NO.		AR-AR-2-212							
配当学科				地域創成農				年次		2									
必修・選択				選択		単位数		2		時間数		30		授業形態		講義			
テーマと到達目標				果樹類を園芸学的視点から科学することをテーマとして、果樹類の特性について概説し、果樹の基礎理論や栽培技術について理解し、幅広く果樹の知識を身につけることを目標とする。「熱帯植物学」においては、熱帯特有な気候・環境条件とそれに適応した植物成育の特性を理解することである。到達目標は、気候特性の理解、栽培環境と生育特性の関係を理解することにある。															
概要				果樹類の発祥と品種のなりたち、遺伝資源の育種利用、栽培方法、果実品質の生理学、DNA分析、整枝・剪定などについて樹種ごとに講義を進める。カンキツ類、ブドウ、リンゴ、ナシ、モモなどの温帯主要果樹類だけでなく兵庫県特産のイチジク、クリ、ビワ、淡路島特産果樹にも焦点を当てる。くわえて毎回樹種ごとにトピックを紹介する。「熱帯植物学」においては、様々な熱帯地域の環境条件を理解し、それらの環境で栽培されている熱帯作物について学習する。さらに熱帯の厳しい環境条件に適応している植物の生存戦略を紹介する。															
評価方法				毎回の小テスト、期末テストで評価する。また、授業中の態度、発言なども考慮して、総合的に判定する。															
履修条件・注意事項				講義内容のレジメを毎回配布します。より深く理解するためにも復習を義務づけます。															
自己学習																			
オフィスアワー																			
春学期授業計画						授業方法		担当者		秋学期授業計画						授業方法		担当者	
										熱帯植物学 1. 熱帯の成り立ち 2. 熱帯の気候 3. 熱帯の農業 4. 熱帯有用植物 5. 環境ストレスと熱帯植物① 6. 環境ストレスと熱帯植物② 果樹園芸学 7. カンキツ類(多胚性、生物防除、ナルトオレンジ) 8. ブドウ(無核化、フィロキセラ、ワイン) 9. リンゴ(着色特性、木村さんのリンゴ) 10. ナシ(ナシの来た道、遺伝資源、野生ナシ) 11. ナシ(育種方法、遺伝子地図、病害抵抗性) 12. モモ、ウメ(起源、アーモンド、梅干し) 13. カキ(脱渋、甘渋性のしくみ、加工利用) 14. イチジク(栽培化、ポリネータとの共進化) 15. クリ、ビワ(剥皮性、クリタマバチ、種なしビワ) 16. 単位認定試験						講義 講義 講義  講義  講義 講義  講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験		東 哲司 東 哲司 東 哲司  東 哲司  東 哲司 東 哲司  片山 寛則 片山 寛則 片山 寛則 片山 寛則 片山 寛則 片山 寛則 片山 寛則 片山 寛則 片山 寛則 片山 寛則	
教科書 1				使用しない。(レジメを配布する)															
教科書 2																			
参考書 1				熱帯農学概論 著者: 江原宏・樋口浩和 出版社: 培風館 ISBN: 978-4-563-07826-3															
参考書 2																			

授業科目名		植物病理学				履修期		2021年度 春学期			
担当者		相野 公孝						NO.	AG-AR-2-207		
配当学科		地域創成農				年次		2			
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30	授業形態		講義		
テーマと到達目標		農作物の栽培において、病害の発生は持続的な食料生産を阻害する大きな要因である。そこで、病害発生の原因となる各種病原体や発病のメカニズム、病害防除法などについての基礎的な事柄を学ぶ。									
概要		農業生産に広く利用されてきた化学合成農薬に対する規制が強化される一方、新規農薬の開発が安全性や環境影響、コストの点でますます困難となり、今後わが国においても作物保護がより困難になる可能性が高い。本講では、各種病原体の種類と特性、病害発生メカニズム、作物病害防除の実態などについて平易に解説する。また、病害防除との関連で、育種や果樹・蔬菜園芸、有機農業や特別栽培農産物、遺伝子組換え作物などについても触れる。 ※実務経験のある教員による授業科目 本講義の植物病理学について、相野は38年間公的研究機関において日常的に実施していた項目であり、十分な実績を有している。									
評価方法		出席と小テスト及び筆記試験の成績で総合的に評価する。									
履修条件・注意事項		講義内容について、ノートに筆記することが大切である。									
自己学習		講義では学習資料として教科書及び配布プリントを使用するので、毎回の授業でのテーマとなる該当箇所について30分程度復習をすること。									
オフィスアワー		曜日や時間帯は特に定めないが、事前にアポイントを取れば、対応する。									
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. 植物病理学とは 2. 病原体の同定と維持管理法 3. 病原体の種類と分類(概観、卵菌類) 4. 病原体の種類と分類(子のう菌類) 5. 病原体の種類と分類(担子菌類) 6. 病原体の種類と分類(不完全菌類) 7. 病原体の種類と分類(細菌) 8. 病原体の種類と分類(ウイルス、ウィロイドほか) 9. 病害の発生 10. 病害の発生(つづき) 11. 病原体の病原性発現機構 12. 植物の抵抗性発現機構 13. 病害の防除法 14. 病害の防除法(つづき) 15..発生予察、診断 16. 試験			講義 講義 講義 講義  講義 講義 講義 講義 講義  講義 講義 講義 講義 試験		相野公孝 相野公孝 相野公孝 相野公孝  相野公孝 相野公孝 相野公孝 相野公孝 相野公孝  相野公孝 相野公孝 相野公孝 相野公孝 相野公孝						
教科書 1		植物病理学 著者:眞山滋志・難波成任(編) 出版社:文永堂出版									
教科書 2											
参考書 1		植物医科学 著者:難波成任 出版社:養賢堂									
参考書 2											

授業科目名	総合防除管理学					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	森野 真理、梅津 憲治、眞山 滋志、相野 公孝						NO.	AG-AR-3-208	
配当学科	地域創成農					年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	総合的病害虫管理 (IPM: Integrated Pest Management) の概念を実践することを目標に、その実践利用できる各種の防除法について解説する。すなわち、耕種的防除、物理的防除、生物的防除、化学的防除および生態系管理による防除法の安全性を踏まえた確かな技術と情報を身につけ、総合的病害虫管理の概念を実践できる素養を身につけることを目標とする。								
概要	植物資源の保全と安定的生産は、病虫害、雑草害や鳥獣害などの防止なしには得られない。近年、これらの被害防止のため農薬など様々な防除手法が用いられているが、持続的な農業生産や環境保全に配慮した、科学的根拠に基づく防除法でなければならない。本講では、安全で利用可能な防除手段はすべて用いて防除するという総合的病害虫管理 (IPM) の概念を実践することを目標に、それらの実践法について解説する。すなわち、耕種的防除、物理的防除、生物的防除、化学的防除や生態系管理による防除法について学修する。 *実務経験のある教員による授業科目 この科目は、作物の栽培、関連する化学製品の開発等に携わっていた教員が、実務経験を元に実践的に役立つ授業を実施します。								
評価方法	成績評価は、各教員による小テスト(50%)、およびレポートの成績(50%)などの総合点により判定する。レポート課題については複数題提示し、自主的に選択した課題について提出するものとする。								
履修条件・注意事項	特にはないが、本講義内容に包含される植物保護関連の個々の専門分野は、植物病理学、農薬学概論、応用昆虫学、雑草学、植物育種概論などの講義により学ぶことができる。								
自己学習	総合的病害虫管理 (IPM) に利用されている(1) 耕種的防除、(2) 物理的防除、(3) 生物的防除、(4) 化学的防除および(5) 生態系管理による防除法について順次講義を進めるが、そのそれぞれについて約一時間の予習と復習をすることが望ましい。								
オフィスアワー	分担教員の毎回の授業終了後の時間をオフィスアワーとして面談する。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1.植物保護と安全性、IPMの概念 2.野生動物の順応的管理 3.生態系における野生動物の役割 4.獣害の防除と野生動物の管理 5.生物的防除:拮抗微生物、弱毒ウイルス 6.化学的防除:使用する農薬の定義、名称、分類、作用機構 7.化学的防除(農薬)の歴史:農薬の施用技術(化学的防除技術) 8.農薬による化学的防除の実際 9.化学的防除の課題と対策、総合的病害虫管理(IPM)における化学合成農薬の役割 10.耕種的防除:輪作、混植、連作障害 11.耕種的防除:堆肥、灌水 12.耕種的防除法:肥培管理 13.生物的防除、抵抗性育種 14.物理的防除 15.植物検疫、発生予察 16.単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義  講義  講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 レポート	眞山 森野 森野 森野 眞山  梅津  梅津  梅津 梅津  相野  相野 相野 相野 相野 相野 森野
教科書 1	適宜、資料を配布する。								
教科書 2									
参考書 1	植物病理学(文永堂)、眞山・難波編著 農薬の創製研究の動向－安全で環境に優しい農薬開発の展開－(梅津憲治監修)、シーエムシー出版、2018年 農薬と食の安全・信頼 (梅津憲治著)、日本植物防疫協会								
参考書 2	原色病害虫百科、農文協 原色病害虫診断、農文協								

授業科目名				植物細胞生理学				履修期		2021年度 秋学期							
担当者				相野 公孝						NO.	AG-AR-2-209						
配当学科				地域創成農				年次		2							
必修・選択				選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義					
テーマと到達目標				植物とその細胞の構造と機能、成長様式、物質代謝、遺伝現象などについて学習し、食料及び機能性物質の生産と地球環境の保全を担う植物があらゆる生命を支える根源的役割について理解する。													
概要				植物の誕生による地球環境の変化と植物が地球生命体の維持に果たしている役割をはじめに論じ、植物の根、茎、葉、花、果実、種子などの器官と組織の構造や機能について、また細胞膜と細胞小器官の構造と機能について解説する。次いで、植物の水、光及び土壌の利用や植物の多様な成長様式とそれらに關与する植物ホルモンについて、またでんぷんや脂肪等の貯蔵物質の分解とエネルギー生産、薬用成分などの有用二次代謝物質の生産と利用、防御応答のしくみについて解説する。 ※実務経験のある教員による授業科目 本講義の内容について、相野は38年間公的研究機関において日常的に実施していた項目であり、十分な実績を有している													
評価方法				毎講義後の小テスト及び筆記試験の成績で総合的に評価する。													
履修条件・注意事項				講義内容について、ノートに筆記することが大切である。													
自己学習				講義では学習資料として配布プリントを使用するので、毎回の授業でのテーマとなる該当箇所について30分程度復習をすること。													
オフィスアワー				曜日や時間帯は特に定めないが、事前にアポイントを取れば、対応する。													
春学期授業計画					授業方法		担当者		秋学期授業計画					授業方法		担当者	
									1. 地球の歴史と生命の誕生・進化 2. 細胞の進化(細胞内共生、原核細胞と真核細胞) 3. 細胞(生命の機能単位) 4. 植物の構造と機能(器官と組織) 5. 植物細胞の核分裂と遺伝子の働き 6. 植物細胞の構造と機能(細胞内小器官の構造と役割) 7. 植物細胞の構造と機能(細胞膜と細胞壁の構造と機能) 8. 植物の光合成(葉緑体の機能、光エネルギー固定) 9. 植物細胞の呼吸(ミトコンドリアの機能、化学エネルギー生産) 10. 植物細胞の物質代謝(合成と代謝経路、貯蔵物質の種類と分解) 11. 植物細胞の成長制御(植物成長ホルモン、植物の化学調節) 12. 植物と水および土壌(水の吸水、蒸散、無機栄養素の吸収) 13. 植物の防御応答機構 14. 植物の薬用成分と農業への利用 15. 細胞培養と遺伝子組換え作物 16. 試験					講義 講義  講義 講義 講義 講義  講義  講義 講義 講義 講義  講義 講義 講義 講義 試験		相野公孝 相野公孝  相野公孝 相野公孝 相野公孝 相野公孝  相野公孝  相野公孝 相野公孝 相野公孝 相野公孝  相野公孝 相野公孝 相野公孝 相野公孝 相野公孝	
教科書 1				新しい植物科学―環境と食と農業の基礎 著者:神坂盛一郎・谷本英一共編 出版社:培風館 ISBN:978-4-563-07808-9													
教科書 2																	
参考書 1																	
参考書 2																	

授業科目名		植物バイオテクノロジー				履修期		2021年度 春学期			
担当者		桧原 健一郎						NO.	AG-AR-3-210		
配当学科		地域創成農				年次		3			
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義			
テーマと到達目標		学生が植物バイオテクノロジーを理解し、卒業研究に応用できる基礎知識の習得を目標とする。また、現代社会で報告されている様々な科学技術に対するメリット、デメリットについて学び、それらの問題について自分の意見が持てるようにする。									
概要		植物バイオテクノロジーは20世紀の後半から飛躍的な発展を遂げ、今日では農業分野から医薬品の原料生産に至るまで幅広く利用されている。また、近年急速に発展してきた分子生物学により、植物バイオテクノロジーは新たな時代に突入している。本講義では植物バイオテクノロジーに関する知識を深めるとともに、これまで農業分野において活躍してきたバイオテクノロジーの歴史、トランスジェニック植物の作成方法や利用例ならび現在の植物研究における最先端の技術までを幅広く解説する。									
評価方法		講義中の態度、毎回の授業時に行う小テスト課題、本試験で総合評価する。									
履修条件・注意事項		受講生は「分子生物学」を履修しておくことか?望ましい。									
自己学習		第1回目に配布する資料を予習し、講義後に復習しておくこと。予習および復習には各2時間を要する。									
オフィスアワー		個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分に実施。									
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回 オリエンテーション 第2回 ハ?イオテクノロジーの歴史 第3回 組織培養と細胞融合 第4回 植物ホルモン 第5回 DNA、ゲノム、遺伝子 第6回 DNA多型と分子マーカー 第7回 分子マーカーの応用 第8回 遺伝子組み換えの原理と方法 第9回 マーカー遺伝子 第10回 遺伝子組換え作物の現状 第11回 除草剤耐性とそのメカニズム 第12回 害虫抵抗性とそのメカニズム 第13回 植物免疫、ウイルス抵抗性 第14回 新育種技術(NPBT) 第15回 ゲノム編集技術 第16回 試験				講義		桧原健一郎					
教科書 1											
教科書 2											
参考書 1											
参考書 2											



授業科目名				施設栽培・植物工場論				履修期		2021年度 春学期					
担当者				梅津 憲治						NO.	AG-AR-3-211				
配当学科				地域創成農				年次		3					
必修・選択				選択	単位数	2	時間数	30		授業形態	講義				
テーマと到達目標				野菜、花き、果樹などの作物栽培分野における先端栽培技術である養液栽培、養液土耕栽培、植物工場をテーマとして、これらの最先端技術の理論と実際と応用について理解する。											
概要				養液栽培や養液土耕栽培（コンピューター制御の自動灌水施肥装置とドリップチューブを使用する作物の栽培方法）などの施設栽培を取り巻く環境、わが国農業における位置づけについて述べるとともに、養液栽培や養液土耕栽培の理論と実際と応用について解説する。さらに、トマトの養液土耕栽培の実習も行う。また、近年急速に普及しつつある「環境および生育のモニタリングを基礎として、高度な環境制御と生育予測を行うことによる作物の周年・計画生産が可能な栽培施設」を用いた太陽光利用型植物工場、人工光植物工場および人工光・太陽光併用型植物工場について解説する。また、それらを理解するうえで必須な作物栽培生理、植物栄養（肥料）の役割、培養液管理、環境制御技術などの基礎を解説する。さらに作物の施設栽培に有効な農薬の役割と安全性についても概説する。											
評価方法				受講状態(10%)、複数回の講義中に実施する小テスト(30%)、および学期末試験(60%)の成績により総合的に評価する											
履修条件・注意事項				15回の全授業においてプリントを配布するので、初回授業よりファイルを用意すること。なお、生物学、作物学、土壌学、化学などの基礎知識を取得しておくことが望ましい。											
自己学習				配布資料を基に予習・復習を行うこと											
オフィスワ－				授業終了後、教室にて及び講師控室にて											
春学期授業計画					授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
第1回 農業並びに施設栽培を取り巻く環境 第2回 施設栽培の概要、及び養液栽培の概要1:定義、変遷、方式、設備 第3回 養液栽培の概要2:栽培システム、特徴、海外事情等 第4回 養液土耕栽培の概要、及び実習概要の説明 第5回 植物工場の概要 第6回 作物栽培における植物栄養と土壌の役割 第7回 施設栽培と作物生理 第8回 養液栽培の基礎:培養液の基礎1:培養液、必須要素、必須要素の働きと過剰・欠乏症 第9回 養液栽培の基礎:培養液の基礎2:培養液の処方、EC・pH管理、窒素形態等 第10回 養液栽培の基礎:養液栽培の方式と栽培法 第11回 養液栽培の実際と展開 第12回 養液土耕栽培の実際 第13回 植物工場の現状と展開 第14回 施設栽培・植物工場における作物保護 第15回 施設ビジネス－生産者(農家)が儲かる農業－ 第16回 単位認定試験					講義 一部実習		梅津憲治								
教科書 1				使用しない(受業ごとに講義内容を記載したプリントを配布する)											
教科書 2															
参考書 1				養液栽培の新マニュアル 著者:誠文堂新光社 出版社:誠文堂新光社 ISBN:ISBN4-416-40202-3											
参考書 2				養液土耕栽培の理論と実際  著者:青木宏史、梅津憲治、小野信一〔編〕  出版社:誠文堂新光社 ISBN:ISBN4-416-40108-6											

授業科目名		応用昆虫学				履修期		2021年度 春学期				
担当者		内藤 親彦						NO.	AG-AR-2-212			
配当学科		地域創成農				年次		2				
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義		
テーマと到達目標		「農作物の生産にかかわる害虫の制御と有用昆虫の利用」をテーマとして、基礎的ならびに応用的見地から昆虫科学を学び、昆虫の特性を正しく理解した上で、効果的な対処法を自ら考える能力を身につける。すなわち、①昆虫の分類・形態・生態の基礎知識を習得し、昆虫の生存実態を理解する。②個体群や群集の生態学を理解し、害虫制御や有用昆虫の利用について、自ら考え、判断できるようになることを到達目標にする。										
概要		人間も昆虫も地球生態系を構成する一員として互いに影響しあう関係にあることを理解した上で、農作物生産にかかわる昆虫の存在実態を知り、害虫の制御や有用昆虫の利用について理解を深める。 授業は講義を主体とし、適宜小テストやグループ討議を実施する。										
評価方法		成績評価は試験(50%)と授業態度(50%)のウエイトにより評価する。試験では、到達目標の①および②の理解度を確認する。授業態度では、出席率・小テストの提出・討議での発言内容等により評価する。										
履修条件・注意事項		授業内容をよく理解し、小テストにも対応できるように復習が必要である。 初回の授業で講義の進め方や成績の評価方法を説明する。										
自己学習		1) 授業は教科書に沿って進めるので、理解を深めるために教科書の予習をおこなうこと。2) 試験は必ず実施するので、毎回授業後の復習をおこなうこと。										
オフィスアワー		授業終了後教室にて										
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者
1. 人類と昆虫の関わり 2. 昆虫群とその特徴(1) 3. 昆虫群とその特徴(2) 4. 種の認識と分類 5. 昆虫の形態と機能 6. 昆虫の種多様化機構 7. 昆虫の系統と進化機構 8. 昆虫の季節適応 9. 昆虫の配偶行動 10. 個体群の構造と生活史戦略 11. 生態系と群集構造 12. 害虫とその防除法 13. 総合的害虫管理の理念と実際 14. 人類に果たす有用昆虫の役割 15. 有用昆虫の利用法 16. 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験		内藤親彦 内藤親彦 内藤親彦 内藤親彦 内藤親彦 内藤親彦 内藤親彦 内藤親彦 内藤親彦 内藤親彦 内藤親彦 内藤親彦 内藤親彦 内藤親彦 内藤親彦							
教科書 1		応用昆虫学の基礎 著者: 中筋房夫・内藤親彦・石井 実・藤崎憲治・甲斐英則・佐々木正巳 出版社: 朝倉書店 ISBN: 4-254-42023-4										
教科書 2												
参考書 1												
参考書 2												

授業科目名		雑草学				履修期		2021年度 春学期						
担当者		須藤 健一						NO.	AG-AR-3-213					
配当学科		地域創成農				年次		3						
必修・選択		選択	単位数	1	時間数	15		授業形態		講義				
テーマと到達目標		農産業を基盤とした地域創成に求められる農業生産の技術と理論を身につける。本講義では、具体的に雑草とはどのような植物群であり、どのような生育特性を持っているのかについて述べ、作物と雑草との係わりについての基礎を概説する。さらに、水稻、畑作物、果樹、野菜、花卉・花木、工芸作物、飼料作などの農業生産現場や、林地、芝生などでの雑草害と雑草の管理法について理解し、それぞれの場面での具体的な雑草の対処法について習得できるようになる。												
概要		我々の生活環境の中、あるいは農業生産の場で触れ合う機会の多いのが雑草であり、人為的な攪乱環境の中での雑草群落の特性と、環境や農業生産に配慮した雑草管理のあり方について講述する。そのために、具体的な雑草を取り上げ、その由来や種類、生理・生態、管理法について、栽培学、応用生態学的な観点から論ずる。一方、水田、畑、樹園地、芝生などの具体的な農業生産現場や緑地を取り上げ、それぞれの場面で雑草が作物にどのような障害を与えているのか、回りの環境にどのような影響を与えているのかについて紹介していく。												
評価方法		知識の到達度を計るため定期試験と授業中の発表、報告を総合的に評価する。具体的には、定期試験(50%)、まとめる能力を確認するために授業中に課すレポート(50%)で評価する。												
履修条件・注意事項		参考書などを読み、理解できないところを整理して授業に臨むこと。授業はパワーポイントで行い、その資料や必要なプリントは配布するので、それに従い復習すること。毎回、次の講義の課題を示すので準備しておくこと。レポートを提出しないと単位は取れない。												
自己学習		第1回の授業以降、毎回、次の課題を提示するので、それについて調べておくこと。その回の講義内容はプリントで配布するので、復習を怠らないこと。レポートを提出して試験を受けないと単位は認定されない。												
オフィスアワー		授業終了後教室にて												
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
第1回 雑草とは？／雑草の起源と概念				講義		須藤								
第2回 作物と雑草／雑草の同定と観察(レポートについて)				講義		須藤								
第3回 水田雑草の生態と防除／休眠と種子の寿命				講義		須藤								
第4回 畑雑草の生態と防除／生活史とアレロパシー				講義		須藤								
第5回 樹園地・放牧地の雑草管理／帰化雑草の侵入				講義		須藤								
第6回 除草剤の使用と歴史／除草剤抵抗性雑草				講義		須藤								
第7回 耕種的・生態的・物理的・機械的・生物的防除法				講義		須藤								
第8回 まとめ／単位認定試験				講義		須藤								
教科書 1														
教科書 2														
参考書 1		雑草学入門 著者:山口裕文・宮浦理恵・松嶋賢一・下野嘉子 出版社:講談社 ISBN:978-4-06-512952-4												
参考書 2		ミニ雑草図鑑 著者:廣田伸七 出版社:全国農村教育協会 ISBN:978-4-88137-062-9												

授業科目名	土壌肥科学					履修期	2021年度 春学期		
担当者	吉倉 惇一郎						NO.	AG-AR-2-214	
配当学科	地域創成農					年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	(作物生産における土壌及び肥料の重要性)をテーマとして、土壌の性質および役割、植物の栄養についての基礎的知識を習得し、作物生産技術並びに温暖化等による農産物の収量、品質低下解決のための能力を身に着ける。具体的には①土壌の物理的、化学的、生物学的性質について理解する。②植物生育における土壌と肥料の基本的役割について理解する。③水田土壌及び畑土壌の養分形態の差異について理解し、現場での土づくり技術を習得する。④作物生産現場での肥料及び土づくり資材の施用量を作物の違いにより理解できるようになることを到達目標とする。								
概要	人類の食糧生産の基礎となる土と肥料について、基本的な知識の理解を深め、実際の作物生産現場での土壌条件に合った施肥技術を習得する。同時に作物生産現場での現状の問題点を紹介しその解決法を身に着ける授業を行う。								
評価方法	この科目では、特に日本の土壌の物理的、化学的、生物学的知識を十分習得し、効率的な作物生産技術を身に着けることを目的としている。参加型学習における授業への積極的参加態度(40%)、知識の修得程度を確認するための試験(40%)、自ら調べまとめる能力をかくにんするための課題レポート(20%)で評価する・参加型学習を主体としていることから授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。今回はウイルス問題のなかで授業内容をコンパクトに実施する。								
履修条件・注意事項	初回は目標、内容、評価法を詳しく説明するので必ず出席すること。教科書以外にもプリントを配布するのでファイルを用意すること								
自己学習	事前に示した教科書をもとに授業を行う。 ?指示に従って必ずノートを作成し、復習すること。?試験は必ず行う。?次週の講義内容を知らせるので必ず教科書を読むようにしてください。								
オフィスワ-									
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1.土壌についての考え方 2. 土壌の生成 3. 土壌の物理的性質 4. 土壌の化学的性質 5. 土壌の生物学的性質 6. 土壌有機物 7. 畑土壌 8水田土壌 9. 土づくり技術 10. 植物の必須元素 11. 植物の養分吸収と生理障害 12、肥料の種類と特性. .13. 土づくり資材 14. 温暖化と農業・土壌養分と病害 15. まとめ 16。単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 PP 試験	吉倉 吉倉 吉倉 吉倉 吉倉 吉倉 吉倉 吉倉 吉倉 吉倉 吉倉 吉倉 吉倉 吉倉 吉倉					
教科書 1	土壌サイエンス入門 第2版 著者:木村真人・南條正巳 出版社:文永堂出版 ISBN:978-4-8300-435-8								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名		農薬学				履修期		2021年度 秋学期					
担当者		佐々木 満、梅津 憲治							NO.	AG-AR-3-215			
配当学科		地域創成農				年次		3					
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義			
テーマと到達目標		農薬学が、昆虫、微生物、植物を対象とした生命および人を含むあらゆる環境に関する総合科学であることを理解できる基礎知識取得を目標とする。											
概要		農薬に関する基礎的知識を解説する。最初に農薬に対する社会の認識、農薬の定義、歴史・変遷、分類、有効性などを述べ、次いで、農薬の開発と安全性について、農薬の研究開発の概要、農薬の登録制度、安全性評価と作物残留に関する基準、および農薬の安全性を解説する。さらに、殺虫剤・殺ダニ剤・殺線虫剤、殺菌剤、除草剤、植物生長調節剤、農薬の代謝・分解、農薬製剤、遺伝子組換え作物と農薬、フェロモン、生物学的防除などについて概説する。											
評価方法		受講状態10％、小テスト20％、および試験(レポート:中間試験、単位認定試験)の成績70％により総合的に評価する。											
履修条件・注意事項		生物学、作物学、毒性学、化学などの基礎知識を取得しておくことが望ましい。											
自己学習		配布資料を参考に予習復習をすること。											
オフィスアワー		授業終了後教室にて											
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
							1.農薬に関する話題・定義・歴史・変換、農薬に対する社会の認識			講義		梅津	
							2.農薬の分類、有効性、役割			講義		梅津	
							3.農薬の研究開発・事業化の概要			講義		梅津	
							4.農薬の登録制度 ポジティブリスト制度			講義		梅津	
							5.農薬残留の実態と健康リスク			講義		梅津	
							6.農薬の安全性に関する考え方、人の健康に対する影響			講義		梅津	
							7.農薬の環境影響			講義		梅津	
							8.農薬のリスクコミュニケーション・レポート作成(中間試験)			講義		梅津	
							9.殺虫剤・殺ダニ剤・殺線虫剤			講義		佐々木	
							10.殺菌剤			講義		佐々木	
							11.除草剤、植物生長調節剤			講義		佐々木	
							12.農薬の代謝・分解			講義		佐々木	
							13.農薬製剤			講義		佐々木	
							14.遺伝子組換え作物と農薬			講義		佐々木	
							15.昆虫フェロモン、生物学的防除			講義		佐々木	
							16.単位認定試験			レポート試験		佐々木	
教科書 1		教科書は使用しない。資料をその都度配布する。											
教科書 2		(参考書) 新版 農薬の科学 著者:宮川恒、田村廣人、浅見忠男 編集 出版社:朝倉書店 ISBN:ISBN978-4-254-43123-0											
参考書 1		農薬と食の安全・信頼―Q&Aから農薬と食の安全性を科学的に考える 著者:梅津憲治 出版社:(一社)日本植物防疫協会 ISBN: 978-4-88926-137-0											
参考書 2		農薬の創製研究の動向 ―安全で環境に優しい農薬開発の展開― 著者:監修 梅津憲治 出版社:シーエムシー出版											

授業科目名				農業気象学				履修期		2021年度 春学期							
担当者				橋本 久美子						NO.	AG-AR-3-216						
配当学科				地域創成農				年次		3							
必修・選択				選択	単位数	2		時間数		30		授業形態		講義			
テーマと到達目標				地球規模の熱収支や大気、水の循環などの気候システムを含む気象の原理を理解する。さらに局所的な気象環境についての基礎を学ぶことにより、気象、気候の農業生産に対する影響を自ら論理的に考え、判断できるようになることを目標とする。													
概要				長期的な地球規模の気候変動が生態系や人間社会に重大な影響を与え、また局所的に発生する気象現象が災害を生じさせる頻度も高くなっている。複雑に見える気象環境を自然科学の視点から理解するために、前半は、気象学の原理を理解することを中心に進める。後半に森林や耕地周辺の放射や大気の運動を学び、耕作地の環境について理解を深める。													
評価方法				4回の確認テストと2回の課題の評点で評価する。													
履修条件・注意事項				1回目に課題の説明を行うので、履修者は出席すること。													
自己学習				受講期間中は日々の天候の変化や、気象情報に関心をもって過ごしてください。毎回の指示に従って、予習復習を行うこと。													
オフィスワーカー				水曜の3限に実施。													
春学期授業計画						授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
1.大気の鉛直構造 2.太陽放射と地球放射 3.放射平衡温度 4.地球大気の熱収支 5.大気の大規模循環 6.大気の運動 気圧と気圧傾度力 7.大気の運動 地衡風とコリオリ力 8.雲の生成 9.降水過程 10.偏西風波動 11.日々の気象 12.集中豪雨と台風 13.気候変動と農業 14.植物の放射環境 15.耕地の温度環境の調節						講義		橋本									
教科書 1				トコトン図解気象学入門 著者:釜堀弘隆、川村隆一 出版社:講談社													
教科書 2																	
参考書 1				農学・生態学のための気象環境学 著者:文字信貴ほか編 出版社:丸善													
参考書 2				一般気象学 著者:小倉義光 出版社:東京大学出版会													

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
<序論> 1. 水利施設とは 一意義、種類と分類ー	講義	田中 勉			
2. 水利施設の歴史 3. 講義とppt「水利施設のいろいろ」	講義 講義と映写	田中 勉 田中 勉			
レポートNo.1 (水利施設に関するテクニカルターム)					
<基礎理論のお話し> 4. コンクリート構造物の設計と地盤浸透流問題の解析	講義	田中 勉			
5. コンクリート構造物の安定設計	講義と演習	田中 勉			
レポートNo.2 (コンクリート構造物の安定設計)					
6. 浸透流解析と図解法 レポートNo.3 (フローネット法による浸透流解析)	講義と演習	田中 勉			
7. 講義とppt「水と土と水利施設」	講義と映写	田中 勉			
<水利施設における工種と役割> <導水工(水路工)>	講義	田中 勉			
8. 水路工の種類と役割 9. 開水路工の設計と考え方	講義と演習	田中 勉			
レポートNo.4 (水路工に関するテクニカルターム)					
10. 講義とppt「三重用水」 <取水工(頭首工)>	講義と映写 講義	田中 勉 田中 勉			
11. 頭首工の種類と役割 12. 頭首工の設計と考え方	講義と演習	田中 勉			
レポートNo.5 (頭首工に関する					

るテクニカルターム) <貯水工(ダム工)> 13. ダム工の種類と役割 14. ダム工の設計と考え方 レポートNo.6(ダム工に関するテクニカルターム) 15. 講義とppt「水利施設構造物の浸透破壊に対する設計の考え方」 講義とppt「浸透破壊における土の自己防衛機能と防止対策工法」 16. 各自演習によるレポートNo.1～No.6(水利施設工学全般)		講義	田中 勉			
		講義と演習	田中 勉			
		講義と映写	田中 勉			
		復習(演習)	各自(自習)			
教科書 1	冊子版の「講義ノート 水利施設工学Ⅰ」及び「講義ノート 水利施設工学Ⅱ」を配布する。また、適宜プリントを配布する。					
教科書 2						
参考書 1	農業農村工学ハンドブック 著者:農業農村工学会編 出版社:農業農村工学会					
参考書 2	農業農村工学標準用語事典 著者:農業農村工学会編 出版社:農業農村工学会					



[illegible]

授業科目名	家畜の育種と繁殖				履修期	2021年度 秋学期	
担当者	大山 憲二、万年 英之、笹崎 晋史、宮野 隆					NO.	AG-AR-2-219
配当学科	地域創成農				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	家畜改良の歴史ならびに最先端の分子遺伝学・量的遺伝学による家畜改良を学ぶ。また、哺乳動物の繁殖の基礎と家畜に応用される繁殖技術について理解する。						
概要	育種と繁殖は近代の家畜改良に大きな役割を果たしているが、本講義ではこれまでの家畜改良と最先端の育種・繁殖技術について概説する。育種学における歴史、理論と技術は計9回(万年英之／3回、大山憲二／3回、笹崎晋史／3回)、繁殖学の基礎と技術は計6回(宮野隆)で解説する。						
評価方法	小テスト(30%)、授業姿勢(積極性等)(30%)、期末試験(40%)で評価する。						
履修条件・注意事項							
自己学習	講義ノートを確実に記述し、復習をすること。						
オフィスアワー	授業終了後教室にて。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
				1. 家畜育種の定義と原理 2. 家畜の歴史と改良による遺伝現象 3. 在来家畜の定義と意義 4. 分子遺伝学の基礎 5. 最先端分子遺伝学を用いた家畜育種技術 6. DNAマーカーの利用 7. 量的遺伝学の基礎 8. 家畜選抜と交配の方法 9. 遺伝的改良指標 10. 家畜の繁殖と生殖細胞 11. 生殖器の構造と機能 12. 繁殖にかかわるホルモン 13. 生殖周期と発情周期 14. 精子 15. 受精と人工授精		講義 講義  講義 講義 講義  講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	万年 万年  万年 笹崎 笹崎  笹崎 大山 大山 宮野 宮野 宮野 宮野 宮野 宮野
教科書 1	使用しない(必要に応じプリントを配布する)。						
教科書 2							
参考書 1	動物遺伝育種学 出版社:朝倉書店						
参考書 2							

授業科目名	家畜の構造と病気					履修期	2021年度 春学期		
担当者	佐伯 圭一、北川 浩、星 信彦、松尾 栄子						NO.	AR-AR-3-228	
配当学科	地域創成農					年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	1)家畜の骨や筋を主体とした運動装置、泌尿生殖器、内分泌系や神経系における解剖学、組織学や生理学的な知見について理解するとともに、リンパ組織を主体とした生体防御機構、消化器並びに呼吸器における解剖学、組織学や生理学的知見について理解し、これらの知見を統合して家畜における複雑な生命の成り立ちについて考察できる基本的な能力を身につける。 2)動物の疾病における外因・内因と障害、物質代謝障害と疾病、各種循環障害と疾病並びに炎症と腫瘍の組織病理について理解するとともに、病原体の形態・性状、それらによって起こされる動物感染症、人獣共通感染症や食品媒介性感染症について理解し、家畜に関連した病気の成り立ち等について考察できる基本的な能力を身につける。								
概要	家畜における解剖学、組織学及び生理学的知見を基に家畜の構造や機能的特徴について多くの図版をもとに概説するとともに、動物における疾病の原因、病気の成立、形態学的変化や機能障害並びに感染症における病原体、発病機構や疫学について多くの事例を示しながら概説する。								
評価方法	授業中の発言頻度、発言頻度や授業への参加態度(20%)並びに知識の習得度や考察力を確認するための試験(80%)により評価する。詳細については第1回目の授業で説明する。 評価のために実施した小テスト等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。								
履修条件・注意事項	1)事前に講義資料を配布するので、その内容について予習し、聴講しても理解できない点等については授業中に質問すること。 2)毎回の授業における情報量が多いので、聴講後にはその日のうちに復習すること。3)4名の教員による講義であるため、各教員の初回の講義には必ず参加すること。詳細については第1回目の授業で説明する。								
自己学習	試験を行うので、各教員の指示に従って必ずノートを作成し、予習と復習を欠かさないこと。								
学びの振り返り	授業終了後、教室にて								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. 運動装置の構造と役割 2. 泌尿生殖器系の構造と役割 3. 内分泌系の構造と役割 4. 神経系の構造と役割 5. 消化器系の構造と役割 6. 呼吸器系の構造と役割 7. 生体防御機構の構造と役割 8. 疾病における外因・内因と障害 9. 物質代謝障害と疾病 10. 各種循環障害と疾病 11. 炎症と腫瘍の組織病理 12. 病原体総論 13. 動物感染症 14. 人獣共通感染症・食品媒介性感染症 15. 単位認定試験 講義			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	星 信彦 星 信彦 星 信彦 星 信彦 北川 浩 北川 浩 北川 浩 佐伯 圭一 佐伯 圭一 佐伯 圭一 松尾 栄子 松尾 栄子 松尾 栄子 北川 浩					
教科書 1	使用しない。(授業毎に講義資料を配布する。)								
教科書 2									
参考書 1	家畜の生体機構 著者:石橋 武彦 出版社:文永堂 ISBN:ISBN-13: 978-4-8300-3180-9								
参考書 2	動物病理学総論 第3版 著者:日本獣医病理学会 出版社:文永堂 ISBN:ISBN 978-4-8300-3245-5								

授業科目名	家畜とバイオテクノロジー					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	宮野 隆						NO.	AG-AR-3-221	
配当学科	地域創成農					年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	家畜の増殖と改良には繁殖学を基礎とするバイオテクノロジー、いわゆる発生工学的な手法が数多く使われている。本講義では、哺乳類の生殖に関する基礎知識を学び、そこから発展した発生工学的手法の原理と特徴を理解する。これによって、家畜や実験動物、さらに生殖医療に関わる技術の理解を深めるとともに、新聞等で取り上げられる生殖に関する諸問題にも自ら関心を持てるようになることを目標とする。								
概要	はじめに哺乳類の配偶子(精子と卵子)の形成から受精に至る一連の基礎知識を学習する。その後、発生工学的手法を紹介し、それぞれの原理と特徴について概説する。また、これらの技術はヒトの生殖医療にも深く関わることから、社会的・倫理的問題についても言及する。								
評価方法	授業に対する姿勢と小テスト(40%)，期末試験(60%)を総合的に評価する。								
履修条件・注意事項	特に指定の教科書は使用せず，配布する講義資料に沿って授業を進める。関連する教科書・参考図書を講義中に紹介する。雄性配偶子の特徴と人工授精を中心に解説する「家畜の育種と繁殖」を受講することが望ましい。								
自己学習	配布された講義資料や自分のノートに，講義中の説明内容を適宜補足し，次回の講義までに整理しておくこと。								
オフィスアワー	講義終了後								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1.生殖に関わる研究の歴史 2.バイオテクノロジーと発生工学 3.体細胞分裂と減数分裂 4.生殖細胞の起源と生殖巣の形成 5.卵子形成と卵母細胞の成熟 6.精子形成と受精 7.体外受精 8.顕微授精と不妊治療 9.初期発生と妊娠 10.胚の保存と胚移植 11.胚操作とキメラ動物 12.クローン動物 13.遺伝子改変動物 14.ES細胞とiPS細胞 15.生殖倫理 16.単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	宮野 宮野 宮野 宮野 宮野 宮野 宮野 宮野 宮野 宮野 宮野 宮野 宮野 宮野 宮野
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名		農産プロセス工学				履修期		2021年度 春学期				
担当者		豊田 淨彦						NO.	AR-AR-3-225			
配当学科		地域創成農				年次		3				
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義				
テーマと到達目標		農畜水産物の品質や安全性の維持、加工による利便性の向上に利用されるポストハーベスト技術を主題として、その原理、農産物性、適用方法や装置を理解し、操作条件の設計法を習得する。 ○品質および安全性向上の観点から、収穫後に行われる乾燥、選別、加熱・冷却等の単位操作の原理を理解し、農産物の特性に応じた操作条件を設計することを到達目標とする。										
概要		収穫直後の農産物は、呼吸による栄養成分の損失や食味低下、微生物による腐敗、酵素反応による褐変や軟化等、品質の低下や安全性の喪失を生じ易い。そこで、品質・安全性の維持と向上、操作利便性の賦与を目的に、乾燥、選別、洗浄、冷却、貯蔵、殺菌、輸送などの操作が行われる。本講義では、それら操作に影響する農産物の成分や物性、操作の原理と方法について講義する。さらに、講義時間の許す範囲内で、農産物の収穫後処理についての調査を学生に課して、その結果の発表およびディスカッションを通して理解を深める。										
評価方法		原則として、講義内容に関する習熟度確認の小テスト(15%)、講義全体の知識習得状況を評価するための定期試験(教科書持ち込み可、50%)、レポート課題と調査課題発表(20%)、質問応答など授業参加への積極性(15%)を総合評価する。										
履修条件・注意事項		授業計画に則して事前に教科書を予習すること。小テストを実施し到達度を確認するので、復習が必要。										
自己学習												
フイア7ー												
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法		担当者	
第1回 国内のポストハーベスト事情、生産物の品質劣化・安全性低下の原因と対策、現象を定量的に扱うための基礎、単位と次元、次元解析、収支の考え方、無次元数 第2-3回 米のポストハーベスト技術、乾燥、脱穀、粳摺り、精米 第4-6回 粉粒体の扱い方、粒子の大きさと形状、粒径分布、貯留、輸送、粉碎、分級、製粉 第7-8回 流体の扱い方、粘性、粘弾性、流速、管輸送 第9-10回 加熱・冷却の操作、伝導、対流、輻射 第11-12回 温度・湿度の影響と調節方法、相対湿度、水蒸気、湿り空気、 第13回 食の安全、殺菌、危害要因、安全性の管理システム 第14-15回 調査課題発表会(予定) なお、講義の進捗に応じて、各回の内容を調整する。5分程度の小テストを原則、毎回行う。 第16回 期末試験			講義		豊田(外部講師)							
教科書 1		農産食品プロセス工学 ※割引価格にての販売を案内予定  著者:豊田・内野・北村編著 出版社:文永堂出版 ISBN:9.78483E+12										
教科書 2												
参考書 1		ポストハーベスト工学事典 著者:農業食料工学会 編 出版社:朝倉書店 ISBN:978-4-254-41039-6										
参考書 2		農業食料工学ハンドブック 著者:農業食料工学会 編 出版社:コロナ社 ISBN:978-4-339-05267-1										

授業科目名		生物統計学				履修期		2021年度 春学期					
担当者		森野 真理						NO.	AG-AR-3-223				
配当学科		地域創成農				年次		3					
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義					
テーマと到達目標		本講義では、「統計的考え方を理解し、有意差検定(比較検定)できる」ことをテーマとする。到達目標は、学生が、①統計量の意味を理解し、正確に算出できる、②データの条件により、正しい比較検定法を選んで平均の有意差検定できる、とする。											
概要		統計学は実験や調査で得られたデータを整理し、解析し、特徴を抜き出すために欠かすことのできない道具である。衛生統計学では、基本統計量の算出、仮説検定、回帰分析について、表計算ソフトの関数や分析ツールの援用により、データに応じた適切な方法を選んで結果を解釈できるようになることを目標とする。保全生態学分野の専門教員が担当する。											
評価方法		授業における課題提出(40%)、中間テスト・単位認定試験(60%)で総合的に評価する。											
履修条件・注意事項		毎回、演習形式で行うので、指定テキストと平方根(ルート)計算のできる電卓を持参すること。各回に、次回の講義内容を伝えておくので予習して授業を受け、授業後は課題を通じて復習しておくこと。											
自己学習		ユニバーサルパスポートに授業資料を登録しておくので、予習・復習に利用してください。											
オフィスアワー		個人研究室にて、水曜日12:00～13:00に実施。											
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法		担当者	
1.統計学的なものの見方と利用 2.基本統計量、確率分布 3.正規分布、代表値 4.散布度 5.ランダムサンプリング、点推定 6.区間推定、標本誤差 7.表計算ソフト演習① 8.カイ二乗検定 9.中間テスト 10.対応ありt検定 11.F検定 12.対応なしt検定(等分散) 13.対応なしt検定(不等分散) 14.表計算ソフトの演習② 15.総まとめ 16.単位認定試験				講義・演習		森野真理							
教科書 1		統計学がわかる 著者:向後千春・富永敦子 出版社:技術評論社 ISBN:978-4-7741-3190-0											
教科書 2													
参考書 1		バイオサイエンスの統計学 著者:市原清志 出版社:南江堂 ISBN:4-524-22036-4											
参考書 2													



授業科目名	フィールド実習Ⅱ					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	相野 公孝、盛野 元、函城 悦司、村上 二郎、桧原 健一郎、許 冲、氷見 英子						NO.	AG-AR-1-225	
配当学科	地域創成農					年次	1		
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	実習		
テーマと到達目標	学生がイネ、ダイズ、主要葉菜類、主要果菜類の栽培技術の基本を習得し、人間社会における農業の重要性を学ぶ。また、畜産農家の見学を通して畜産動物の飼養・管理を学ぶ。								
概要	主要穀類の播種・移植・圃場管理・収穫、野菜の定植・誘引(整枝)・マルチング・圃場管理・収穫、花木・草花の繁殖・育苗・施肥・灌水・植えかえ、果樹の摘果(粒)・袋かけ・新梢管理・収穫・調整出荷・剪定等、作物の栽培管理の基本を習得させるとともに、作物栽培と人間のかかわりあいについて考察させる。農作物、果樹や畜産動物の飼養・管理技術に関しては、南あわじ市にある育苗センター、農業技術センターならびに神戸大学附属農場などで見学、実習を行い、その概要を理解させる。また、希望者は南あわじ市で専業で農業を営まれている農家さんのもとで実習を行い、農業の実際の場を体験することができる。 *実務経験のある教員による授業科目 この科目は、圃場で行う実習で、実践的教育から構成された科目である								
評価方法	実習中の態度(70点)とレポート(30点)の結果より評価する。								
履修条件・注意事項	1. 農作業に適した衣服、軍手、長靴、帽子などを着用する 2. 雨天決行の場合があるので、雨合羽を準備しておく 3. 長靴、雨合羽、貴重品等は個人のロッカーで保管する 4. 熱中症に備え、夏場の水分補給は十分に行う 5. 毎回作業記録をつけ、植物の生長様式を学習し、効率的な作業方法を学ぶ 6. 軽傷(切り傷、擦り傷等)は我慢せず吉川まで連絡 7. 重傷(骨折等)の場合は速やかに近くの教職員に報告 8. 雨天中止の場合は補講を別日程で行うため、掲示板をよく見ておくこと 9. 圃場への移動はスクールバスを利用する(その他の移動は認めない) 10. やむを得ず欠席する場合は事前に申し出ること 11. 病欠の場合は後日、病院の領収書を持参すること								
自己学習	実習以外の時間でも自主的に圃場へ行き、作物の管理、除草作業などを行っておくこと。また、作物の成長なども定期的に記録しておく。これらの自己学習には毎回1時間程度を要する。								
オフィスアワー	事前にアポイントを取れば、対応する。								
春学期授業計画		授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法	担当者
						1. 稲刈り、タマネギなどの播種 2. レタスの定植、サツマイモ収穫 3. 神戸大学附属農場見学 4. 葉菜類収穫、播種 5.レタスのトンネル掛け 6.育苗センター、技術センター見学 7..タマネギの移植 8.レタス、白菜の収穫 9.試験		実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 レポート試験	全員
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									



授業科目名		栄養化学				履修期		2021年度 秋学期							
担当者		土井 裕司							NO.	AG-AR-2-301					
配当学科		地域創成農				年次		2							
必修・選択		必須	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義					
テーマと到達目標		栄養素とは、体成分やエネルギーと成るものをいう。ヒトは栄養素を摂取して生命・生活活動に利用している。栄養素がどのように変化し、体成分やエネルギーと成ることを理解することをテーマとしている。すなわち、栄養素がヒトの生命・生活活動を支えていることを理解することを目標とする。													
概要		糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラルといった栄養素が体内でどのように変化し、働いて体成分と成ったり、エネルギーと成っているかを概説する。そうした代謝過程で何がキーポイントとなっているかを解説する。この科目は、大学で栄養学を担当した経験を持つ教員が、その経験を活かし、食生活現場で実践的に役立つ授業を実施する。													
評価方法		定期試験期間中に試験(100点満点)を実施する。													
履修条件・注意事項		パワーポイントで授業を展開するので、スライドを注視すること。また、ノートもしっかりと執ること。専門用語、代謝経路等を確認するため、教科書を手元もってほしい。													
自己学習		予習・復習をすること。													
オフィスアワー															
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
								第1回 栄養と健康 1 第2回 栄養と健康 2 第3回 糖質の栄養 1 第4回 糖質の栄養 2 第5回 脂質の栄養 1 第6回 脂質の栄養 2 第7回 たんぱく質の栄養 1 第8回 たんぱく質の栄養 2 第9回 ビタミンの栄養 第10回 ミネラルの栄養 第11回 水分と電解質の代謝 第12回 食物繊維・難消化性糖質の作用 第13回 食物の摂取 第14回 消化・吸収と栄養素の体内動態 第15回 生活習慣病に対応した栄養				講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義		土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司	
教科書 1		新食品・栄養科学シリーズ 基礎栄養学 第4版 著者:灘本知憲・仲佐輝子 編 出版社:化学同人 ISBN:978-4-7598-1637-2													
教科書 2															
参考書 1		栄養科学イラストレイテッド「生化学」第3版 著者:藺田 勝 編 出版社:羊土社 ISBN:978-4-7581-1354-0													
参考書 2		三訂 生化学 著者:木元幸一・後藤 潔 編著 出版社:建帛社 ISBN:978-4-7679-0528-0													

授業科目名	食品機能分析化学				履修期	2021年度 春学期		
担当者	林 将也					NO.	AG-AR-3-302	
配当学科	地域創成農				年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>●テーマ 「食品機能分析化学」を知り、理解する。 生体調節機能を有する食品成分を分析するための方法を理解する。</p> <p>●到達目標 食品には多くの成分が含まれ、それぞれが様々な機能を有している。 本科目では、生体調節機能を有する食品成分の分析方法の原理ならびに実際の方法を修得する。</p>							
概要	<p>●「食品機能分析化学」とは、特定の食品成分が、分析対象の試料中に含まれているのかどうか、また、その量はどのくらいであるのかについて、化学的な手法で調べる(分析する)学問領域である。</p> <p>●この科目では、以下の項目について、広く学ぶ。 栄養学、栄養バランス、健康的な食生活、食事摂取基準、栄養所要量、私たちの生活の健康の維持・増進、社会・環境と健康、人体の構造と機能、疾病の成り立ち、食べ物と健康</p> <p>●「食品の機能」には、一次機能(栄養性)、二次機能(嗜好性・食感)、三次機能(保健機能性)があり、私たちの日常生活に深く関わっている。私たちの多くが願っている健康の維持・増進と、そのための食生活は「栄養バランス、栄養所要量、食事摂取基準」を参考にすることができる。</p> <p>●BSEに関連した一連の食品の安全・安心を揺るがす大事件の後、私たちはただ安価であることよりも、より安全で健康的な食事を安心して食べることを重視するようになった。 特に、「食べ物と健康」、「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ち」、そして「健康と社会・環境」に関心を持ち、多面的に理解して、考えるようになってきている。</p> <p>●2000年以降は、食品に関する法整備や人為的な枠組みが急速に更新されてきた。 2005年は、日本にとって特にエポックメイキングな一年であった。 6月17日に世界に類を見ない「食育基本法」制定に加え、「日本人の食事摂取基準(2005年版)」の策定がなされた。 5年ごとの見直しにより、「日本人の食事摂取基準(2015年版)」が策定された。 また、2013年、和食がユネスコの無形文化遺産に登録された。</p> <p>●この講義では、それらを知り、理解することを目指す。 具体的には、科目「化学実験」や「生物学実験」で取り組んだ(取り組むための)基礎的な知識と技術をはじめ、各種食品素材からの食品成分の抽出・単離法から、食品成分の定性分析・定量分析に至るまでの各種分析法を解説し、機能性食品での例を示す。 この科目が、履修するみなさんの研究活動や就職活動、就職後の人生において、「食べ物と健康」に関する判断基準の一助となることを期待している。</p>							
評価方法	<p>●講義への参加態度と課題等の提出状況・到達度を総合的に評価する。</p> <p>講義への参加態度(50%) 小テスト・課題等[毎回あるいは不定期](50%)</p> <p>●担当教員の実績・能力: この科目の担当教員は、研究員・大学教員として大学等の学術機関での「食品機能分析化学」に関わる研究経験を有している。 「食品機能分析化学」に関する実験や各種分析を行い、論文や研究報告書等を出版した実績を持つ。 その経験から得られた知識や考え方を、次の研究活動に生かし、教育活動に還元することで、研究や産業の現場において、実践的に役立つ講義を実施する。</p>							
履修条件・注意事項	<p>●特になし。適度な強度の学習を継続できる体力と精神力を有することが望ましい。</p> <p>学習は「継続と改善」が重要だと考える。 一夜漬けなどの詰め込み型学習は、今後の人生をよりよく生きる上で、あまりにも非効率的な方法であり、ワーク&amp;ライフバランスの精神に反すると考える。適度な強度の継続的な学習は、身体的機能を一定水準に維持し、今後の人生において有益と考える。不断の努力は、突発的な有事の際に、持ちうる最大のパフォーマンスを発揮することに役立つと信じている。</p> <p>●必須ではないが、以下の学問やその関連事項に興味をもつ・造詣が深いことが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養学</li> <li>・食品化学</li> <li>・食品機能化学</li> <li>・食品加工学</li> <li>・食品衛生学</li> </ul>							
自己学習	<p>●講義に関連する内容に、積極的に興味を持ち、時間のあるときにウェブ検索・書籍調査をすることが望ましい。 たとえば、ウェブ検索では、以下の情報を容易に入手できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公的機関の文書・データ (農林水産省、厚生労働省、消費者庁、環境省、総務省統計局、特許情報プラットフォーム:J-PlatPat [JPP])</li> <li>・企業の商品紹介や製法紹介、研究紹介や研究論文(プレスリリースやニュースリリース)</li> <li>・大学や公的・民間の研究機関の研究紹介・研究論文(PubMed、KAKEN、J-STAGEなど)</li> <li>・教科書・参考書等の関連書籍</li> </ul>							
オフィスアワー	<p>●講義に関する質問・相談については、以下の時間に受け付ける。 講義時間帯において、講義開始前あるいは講義終了後の余った時間。</p> <p>●担当者の居室に来て質問・相談をしたい場合は、以下の時間帯が春学期のオフィスアワーである。 ただし、可能な限り事前にアポイントメントをとることを推奨する。 担当者の都合により、質問・相談を受け付けられないことがあるためである。</p>							

	<div>・オフィスアワー 金曜・1-2限</div> <div>●Teamsのチャット機能やメールを用いて、質問・相談を随時受け付ける(講義内で連絡先を共有する)。</div>				
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 分析データの取り扱い 2. 分析化学の基礎 3. 容量分析と重量分析 4. 吸光光度分析 5. 食品成分の定性分析 6. 食品成分の定量分析1 7. 食品成分の定量分析2 8. クロマトグラフィー1 9. クロマトグラフィー2 10. 電気泳動とアフィニティークロマトグラフィー 11. 機器分析1:質量分析 12. 機器分析2:分光分析1 13. 機器分析3:分光分析2 14. 機器分析4:分光分析3 15. まとめ・復習	講義	林 将也			
教科書 1	<div>●以下の教科書を使用するため、購入すること。 食品分析化学</div> <div>●上記以外の資料は、適宜、配布する。</div> <div>著者:新藤一敏・森光康次郎 著 出版社:東京化学同人; 第1版(2016年12月5日) ISBN:978-4-8079-1678-8</div>				
教科書 2					
参考書 1	<div>食品学実験書 第3版 著者:藤田 修三・山田 和彦 編著 出版社:医歯薬出版 ISBN:978-4-263-70720-3</div>				
参考書 2					

授業科目名		食品加工化学				履修期		2021年度 秋学期					
担当者		金沢 功						NO.	AG-AR-2-303				
配当学科		地域創成農				年次		2					
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義			
テーマと到達目標		食品を構成している成分が、糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、食物繊維と、その他の機能性非栄養素であることを学び、それぞれが光、温度、酸素によって、酸化や褐変などの劣化をおこすことを知る。そして、その劣化を防ぐために水分活性を調節して加工する方法を化学的に理解する。また、微生物による腐敗を抑える方法を学び、微生物を利用した発酵という食品加工法を学ぶ。そして、食品加工の実際を知ること食品加工学の目標とする。											
概要		食品を構成している多様な成分をすべて説明し、そのそれぞれを食べたときにヒトに与えるうま味、苦み、まろ味などのヒトの感覚に対するはたらきを講述する。そして、美味しさや健康に好ましい機能性を維持したまま、食品を加工する方法を説明する。また、消費者ニーズに合わせたよりよい加工方法の開発を論じる。 *実務経験のある教員による授業科目 本講義の食品加工化学に関して、金沢は民間企業において日常的に実施していた項目であり、十分な実績を有している。											
評価方法		講義終了後に、その日の授業の理解すべき要点を問うことで理解度を判定する約10分間の小テストを行う。例えば「水分活性を上げるとどのような物理的あるいは化学的要因による劣化を防ぐことができ、水分活性を下げるとどのような要因による劣化を防ぐことができるかを、防ぐことができる理由を含めて説明してください」という問を出す。学生は、受講で理解した内容を短時間でまとめて要約して回答する。この回答から学生の受講の理解度と、学生が自分の意見を第三者に論理的に的確に伝えるという能力を評価する。小テストの回答例は、その次の回の小テストの問題の下に付すことで示す。また、本講義の後半では食品加工を試みるが、その実施内容と成功点あるいは失敗点を説明したレポートを提出する。これらの小テストとレポートの15回の平均点(100%)を成績とする。											
履修条件・注意事項		遅刻すると小テストの内容が理解できなくなるので答えられず、成績に不利になる。また、欠席は小テストがゼロ点になるので、4回以上欠席すると不可になる可能性が高い。公欠の場合は、それを授業回数に数えない。例えば15回講義のうち公欠が1回あると、小テストの合計点を14で割ることになる。											
自己学習		毎回の授業前に、その次の授業で用いる資料も含めて配布するので、受講前に1時間ほどかけて資料に目を通す。また、毎回の小テスト問題は、その点を十分に理解できていれば授業全体が理解できるという要点であるので、授業終了後に、その間の意味をもう一度よく考えてみる。そして、自分の回答が適切であったか否かを、次の小テストに付した回答例を読むことで理解を深めるという復習をする。さらに、食品加工実習で失敗したと思う点や改良するべき点などを抽出するという、自己改善能力を養う。これらの復習には毎回2時間が必要である。											
オフィスアワー		毎回の授業終了後から30分間ほど、講義室あるいは食品加工室で。											
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
							1.食品を加工の意義 2.食品劣化因子:水 3.食品劣化因子:酸素 4.食品劣化因子:光、pH、温度 5.食品加工における成分変化 6.食品加工の実際:茶 7.食品加工の実際:コーヒー 8.食品加工の実際:カカオ 9.食品加工の実際:コビー食品 10.大豆加工品の種類 11.豆腐の作り方と体験 12.ミオグロビンの変色と着色 13.食肉加工の作り方と体験 14.小麦加工品の種類 15.麺類とpHの関係			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 実習 実習 実習 実習 実習		金沢	
教科書 1		毎回資料を配布する											
教科書 2													
参考書 1		食品加工学 出版社:学文社											
参考書 2													



授業科目名		食品衛生学				履修期		2021年度 秋学期				
担当者		土井 裕司						NO.	AG-AR-2-305			
配当学科		地域創成農				年次		2				
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義				
テーマと到達目標		食品の安全性を確保し、安全で安心な食生活を送るため、食品衛生行政および関連法規の内容を把握し、飲食に起因する健康障害を未然に防止するための基本的知識と方法を習得する。食生活の危害要因の多様化、複雑多岐化によって多発する食品衛生の諸問題に即応できる判断力と実践力を身につける。食品衛生監視員および食品衛生管理者として必要な知識を習得する。										
概要		食品衛生とは食品、添加物、器具、および容器包装を対象とする飲食に関する衛生(食品衛生法)であり、食品が健康障害をもたらさないようにするため、非衛生的な事態の発生を防ぐ努力・知恵・工夫である。そこで、食品衛生に関する法整備、食品が健康障害をもたらす原因(食品そのものの変化、食品中の有害物質、有害微生物)、さらに食品包装・衛生管理を解説する。この科目は、大学で食品衛生学を担当した経験を持つ教員が、その経験を活かし、実生活で役立つ授業を実施する。										
評価方法		定期試験期間中に試験(100点満点)を実施する。										
履修条件・注意事項		授業では、Power Point を使用するが、図表のプリントは配布しない予定であるので、しっかりとノートを取る癖をつけること。教科書を手元にもってほしい。										
自己学習												
フイアワー												
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法		担当者	
							第1回 食品の安全 第2回 食品安全行政 第3回 食品衛生と微生物 第4回 食品の変質 第5回 食品変質の防止 第6回 食中毒の定義・分類、発生状況 第7回 細菌性食中毒1 第8回 ウイルス性食中毒、自然毒食中毒、マイコトキシン食中毒 第9回 食品と寄生虫疾患、感染症 第10回 食品汚染物質1 第11回 食品汚染物質2 第12回 食品添加物 第13回 器具と容器包装 第14回 食品衛生管理 第15回 食品の表示と規格基準		講義 講義 講義 講義 講義 講義  講義 講義  講義 講義 講義 講義 講義 講義		土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司  土井裕司 土井裕司  土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司 土井裕司	
教科書 1		食品衛生学 食品の安全と衛生管理 著者:岸本 満編著 出版社:中山書店 ISBN:978-4-521-74290-8										
教科書 2												
参考書 1												
参考書 2												

授業科目名	微生物学					履修期	2021年度 春学期		
担当者	村上 二郎						NO.	AG-AR-2-306	
配当学科	地域創成農					年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	微生物(細菌、真菌(カビ、酵母)、ウイルス)の個々の特性を理解し、違いを認識する。微生物の有用・有害両面を理解するとともに、食品の安全性確保のための基礎的知識と制御法を習得する。病原体の種類と性質を理解し、感染症の予防に役立てる。								
概要	ヒトと多様かつ密接な関わりをもつ微生物の基本的概念を理解し、肉眼では見えない微生物への認識を深める。前半では微生物学の基礎(歴史、分類と性状、生理)、病原微生物と免疫などを講述する。後半では、微生物と土壌や水圏環境の関わりに着目し、微生物の環境への適応能力や、環境浄化作用について解説する。また、食に関連した有用微生物、食中毒と有害微生物、バイオテクノロジーの基礎と応用面で微生物の果たす役割などについて、食の安全性に関する最近の話題を加えて紹介する。								
評価方法	定期試験(50%)、小テスト(50%)で評価する。授業態度(積極性等)も加点の対象とする。合格点に満たない場合は、レポートの提出を求める。								
履修条件・注意事項	講義では多数の参考資料を配布するので、バインダーなどを持参すること。								
自己学習	毎回の指示に従って予習と復習を行うこと。予習および復習には各2時間程度を要する。								
オフィスアワー	個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分に実施。								

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
第1回 ガイダンス-微生物学の歴史と発展	講義	村上			
第2回 微生物の分類と性状(細菌類)	講義	村上			
第3回 微生物の分類と性状(真菌類、原虫類)	講義	村上			
第4回 微生物の分類と性状(ウイルス)	講義	村上			
第5回 微生物の取り扱い方	講義	村上			
第6回 微生物の生理(栄養、生育、代謝など)	講義	村上			
第7回 微生物の遺伝	講義	村上			
第8回 病原微生物と感染症	講義	村上			
第9回 環境における微生物の生態系	講義	村上			
第10回 微生物の利用ー発酵食品(調味料、アルコール飲料)	講義	村上			
第11回 微生物の利用-発酵食品(乳製品、水産食品など)	講義	村上			
第12回 微生物の利用(酵素、代謝系の利用)	講義	村上			
第13回 食中毒-細菌性食中毒	講義	村上			
第14回 その他食中毒とかび毒(マイコトキシン)	講義	村上			
第15回 まとめ	講義	村上			

教科書 1	
教科書 2	
参考書 1	ブラック微生物学 第3版 著者:Jacquelyn G. Black 著、 神谷 茂ほか 監訳 出版社:丸善 ISBN:ISBN-10: 4621088130 ISBN-13: 978-4621088135
参考書 2	新・微生物学 新装第2版 (新バイオテクノロジーテキストシリーズ) 著者:別府 輝彦 出版社:講談社 ISBN:ISBN-10: 4061563564 ISBN-13: 978-4061563568

授業科目名	醗酵微生物学				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	吉田 健一					NO.	AR-AR-3-308	
配当学科	地域創成農				年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	醗酵産業等に活用される応用微生物学の基礎を学び、微生物研究の歴史、微生物の分類、微生物細胞の構造、微生物の生理と代謝、醗酵の基礎などについて理解する。							
概要	微生物研究の歴史、微生物の分類、微生物細胞の構造、微生物の生理と代謝、醗酵の基礎などについて順次講義を進め、無理なく応用微生物学の基礎を学ぶ。							
評価方法	講義においては毎回質問アンケートを実施するので、その内容から理解度や講義参加の積極性を評価する。学期末にはテストを行う。質問アンケートの評価を40%、学期末テストを60%として、成績評価する。なお、講義の欠席が5回を超える場合は学期末テストを受験させないことがある。							
履修条件・注意事項	特段の予備学習は必要ではないが、生化学の基礎を習得しておくことを推薦する。							
自己学習	講義の際に紹介する書籍やウェブサイトなどを参考に復習を主とする自己学習によって知識を確実にすることが望まれる。							
オフィスアワー	特に設けないが、電子メールによる質問を随時受け付ける。メールアドレスは講義の際に案内します。							
春学期授業計画		授業方法		担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
該当なし					1.微生物の分類 額的位置 2.微生物研究の歴史(発見から醸造学まで) 3.微生物研究の歴史(応用微生物から一般微生物の成立) 4.原核微生物 5.真核微生物 6.ウイルスとバクテリオファージ 7.微生物の細胞 8.微生物の生理 9.微生物の代謝 10.嫌氣的代謝と醗酵 11.好氣的代謝 12.遺伝子的操作の基礎 13.遺伝発現の制御 14.小分子の醗酵生産 15.その他の醗酵生産 16.単位認定試験		講義 講義  講義  講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	吉田健一 吉田健一  吉田健一  吉田健一 吉田健一 吉田健一 吉田健一 吉田健一 吉田健一 吉田健一 吉田健一 吉田健一 吉田健一 吉田健一 吉田健一 吉田健一
教科書 1	特に指定せず(プリント配布)							
教科書 2								
参考書 1	特に指定せず							
参考書 2								



授業科目名	農産物加工学					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	吉田 晋弥						NO.	AR-AR-4-315	
配当学科	地域創成農					年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	農産物の持つ様々な機能を活用して食品への利用を可能にするのが農産加工である。様々な形態の加工食品が生産される前提として、農作物の持つ多様性が重要です。そこで、作物の品種や栽培による構成成分の違いと加工適性との関係について理解を深めることを目指します。								
概要	本講義は主要農作物(米、麦、大豆)を中心として、農産加工の面から多様な品種特性の違いを論ずる。醸造用玄米はデンプン特性など一般食用米品種とは異なる機能が求められる。小麦粉ではパン用、麺用、菓子用でそのタンパク質組成や機能も異なる。そのため同じ作物でも加工用途により異なる特性が求められ、品種や栽培技術の開発が進められてきた。こうした食品としての利用される農産物の構成成分を縦系とし、栽培される品種を横系にその加工適性について概説を行う。								
評価方法	平常点(受講状態と必要に応じて行う小テスト)40%と単位認定試験60%を合計して総合評価する。								
履修条件・注意事項	教科書は使用せず、授業毎に資料を配布する。配布した資料は以降も使うことがあるので、常に持参してください。								
自己学習	配付資料と講義ノートを見直し、講義内容の理解を深める。								
オフィスアワー	特に設けないが、授業終了後教室にて質問を随時受け付ける。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1. 農産物加工の基礎 2. デンプンの生合成とその構造 3. デンプンの分解と利用 4. タンパク質の生合成とその構造 5. タンパク質の機能と特性 6. 植物の油脂とその特徴 7. 植物の二次代謝産物とその利用 8. 醸造用原料としての米の機能 9. 醸造用米の品種とその特徴 10. 醸造用米の栽培環境と醸造適性 11. 小麦の多様性と加工適性 12. 小麦粉の品質評価と品種育成 13. 大豆の含有成分とその特徴 14. 大豆加工技術とその多様性 15. その他作物における加工適性 16. 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	吉田晋弥
教科書 1	特になし								
教科書 2									
参考書 1	農産加工の基礎 出版社:農山漁村文化協会 ISBN:978-4-540-99353-4								
参考書 2	食品学 一食品成分と機能一 出版社:東京化学同人 ISBN:978-4-8079-1665-8								

授業科目名				食肉加工学				履修期		2021年度 春学期							
担当者				本田 和久						NO.		AG-AR-3-309					
配当学科				地域創成農				年次		3							
必修・選択				選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義					
テーマと到達目標				「食肉を科学的に理解する」をテーマとして、学生が、我が国の主要な食肉である牛肉、豚肉及び鶏肉の生産と利用に関する科学的知識を習得することを到達目標とします。													
概要				我が国の食肉生産の特徴とその背景、家畜の筋肉が死後の熟成による種々の変化を経て食肉に変換される過程、及び食肉の構造と化学成分の特性に応じて製造される肉製品に関する知識を習得することを到達目標とする。													
評価方法				授業への積極的参加態度(40%)、知識の習得程度を確認するための試験(60%)で評価する。小テストなどを通じて授業中に教員と学生間で知識のフィードバックを行う。													
履修条件・注意事項				予習復習をしてください。													
自己学習				2種類以上の食肉或いは食肉製品を食べ比べ、その特徴の違いを知るよう努めてください。													
オフィスアワー				授業終了後													
春学期授業計画						授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
第1回:食肉の背景 第2回:食肉の種類 第3回:食肉副生物など 第4回:食肉の生産 第5回:食肉の輸出 第6回:骨格筋の化学 第7回:食肉の化学 第8回:質疑応答 第9回:食肉の美味しさ 第10回:食肉の栄養と機能 第11回:食肉製品の種類 第12回:食肉製品の製造 第13回:食肉の衛生 第14回:食肉加工業の実際 第15回:質疑応答 第16回:期末テスト						講義と筆記試験		本田 和久									
教科書 1																	
教科書 2																	
参考書 1				畜産ハンドブック 著者:扇元敬司、葦澤圭二郎、桑原正貴 出版社:講談社 ISBN:9.78E+12													
参考書 2																	

授業科目名	乳製品加工学					履修期	2021年度 春学期		
担当者	森田 英利						NO.	AR-AR-3-314	
配当学科	地域創成農					年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	<p>&lt;授業目的&gt; 動物性食品である理化学的・栄養生理的な知見と、牛乳を構成する化学成分について理解する。また、牛乳成分の様々な機能性について理解する。さらに、牛乳を発酵させる際に用いる乳酸菌・ビフィズス菌と発酵乳の機能性について基礎知識を得る。保健機能食品制度の概要および乳清で特定保健用食品に選定されている科学的根拠について知識を得る。</p> <p>&lt;到達目標&gt; (1) 牛乳の理化学的な知見と化学成分の諸特性を理解する。 (2) 牛乳を発酵させる際に用いる乳酸菌・ビフィズス菌についての基礎知識を得る。 (3) 保健機能食品制度の概要および乳製品で特定保健用食品に選定されている科学的根拠について学習する。</p>								
概要	牛乳の化学成分の理化学的・栄養生理的特性、および機能性を講述する。乳酸菌・ビフィズス菌についての基礎知識を得る。さらに保健機能食品制度の概要および乳製品で特定保健用食品に選定されている科学的根拠について学ぶ。								
評価方法	集中講義なので出席を重視し、同じ日でも複数回の出席を取る。4回以上欠席したものは単位を取得できない。期末試験は行わず、平常点(授業後に3回のレポート提出を求める、100%)で評価する。レポートの内容と提出期限については、講義中に連絡する。								
履修条件・注意事項	動物性食品利用学は、日常身近に利用されている動物性食品のなかで乳・乳製品を対象とする学問です。牛乳は、古くから安全で健康的な食品と認識されており、また発酵乳に加工した場合は、細菌の働きで、さらに保存性、嗜好性、そして機能性が高まる科学的根拠を学びます。食育という言葉も注目されてきた昨今、この機会に乳・乳製品に対して科学的なものの見方、考え方を身につけてください。								
自己学習									
オフィスアワー	講義時間外に講義内容等についての質問・相談をE-mail(hidetoshi-morita@okayama-u.ac.jp)で受け付けます。								

春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
第1回: 日本での牛乳品用の歴史と消費、牛乳の殺菌処理などの基本的処理について 第2回: 牛乳成分の理化学的・栄養生理的特性を機能性-カゼイン- 第3回: 牛乳成分の理化学的・栄養生理的特性を機能性-乳清タンパク質- 第4回: 牛乳成分の理化学的・栄養生理的特性を機能性-糖質- 第5回: 牛乳成分の理化学的・栄養生理的特性を機能性-脂質- 第6回: 牛乳成分の理化学的・栄養生理的特性を機能性-ミネラル・ビタミン- 第7回: 乳製品(発酵乳・チーズ・バター・アイスクリーム)の製造とその理論 第8回: 発酵乳に利用される微生物、特に乳酸菌とビフィズス菌について 第9回: 乳酸菌とビフィズス菌のゲノム解析の現状とゲノム情報の応用 第10回: 発酵乳製品の機能性-プレバイオティクスの視点から- 第11回: 発酵乳製品の機能性-プロバイオティクスの視点から- 第12回: 発酵乳製品の機能性-バイオジェニクスの視点から- 第13回: 組換え体の安全性に関する指針と考え方-作出方式の視点から- 第14回: 保健機能食品制度および乳製品で特定保健用食品に選定されている科学的根拠 第15回: 牛乳・乳製品についての今後の課題と発展		講義	森田			
		講義	森田			
		講義	森田			
		講義	森田			
		講義	森田			
		講義	森田			
		講義	森田			
		講義	森田			
		講義	森田			
		講義	森田			
		講義	森田			
		講義	森田			
		講義	森田			
		講義	森田			
		講義	森田			
教科書 1		書講義前にプリントを配布する。				
教科書 2						
参考書 1		参考資料を授業中に適宜、紹介する。				
参考書 2						

授業科目名	味と食感の科学					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	福田 恵温、橋本 久美子、金沢 功、井上 守正、林 将也						NO.	AG-AR-3-311	
配当学科	地域創成農					年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	座学		
テーマと到達目標	我々が料理を食べる際、食品の味は舌で感じる味覚(甘味、塩味、酸味、苦味、旨味の五味)の他に、食品の噛み応え、歯ざわりといった物性との両面で感じている。さらに食品の香りも食欲の誘導と密接に関連している。また酒、ビールなどの飲料は五味に、さらにのど越し、清涼感といった要素が加わる。本講義では食品の味に関する科学的な根拠を解説し、総合的な知識を身に付けることを目標とする。								
概要	本講義では味(上記五味以外に、最近では「油味」を加えて「六味」とする場合も多い)を、味蕾細胞表面に存在する受容体による味覚感知の仕組みも含め、食品素材による味の違い、食品物性の意味、物性に及ぼす素材など、多面からの味に関する講義を行い、食品のおいしさを総合的に理解することを目指す。また、味覚・嗅覚の発達・老化、形態を調整し食感を改良した食品、食品産業に関わる香気や臭気について詳細する。さらに、ここ十年、急速に進展してきた味センサー、匂いセンサーの仕組み、官能評価結果、産業応用例なども紹介する。 *実務経験のある教員による授業科目 金沢、福田、井上はそれぞれ企業、公的研究機関において食品・酒類の味覚官能試験の実施、また味覚センサーの開発、評価に関わった経験がある。また橋本、林は研究、教育業務において食感に関する実施経験あり。								
評価方法	各講義回にて課すレポートによって評価する。								
履修条件・注意事項	遅刻すると講義内容が理解しにくくなるので、「意見や疑問などを求める」に答えられず、評価に不利になる。また、欠席は評価点がゼロになるので、4回以上欠席すると不可になる可能性が高い。公欠の場合は、それを授業回数に数えない。								
自己学習	普段から食品の味、食感に関する情報を調べておくこと。								
オフィスアワー	各教員に都合が良い時間帯に訪問する。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					第1回 はじめに: 食品の味に関わるパラメーター 第2回 食品の味と呈味物質① 第3回 食品の味と呈味物質② 第4回 食品の匂い 第5回 レオロジーの基礎 第6回 食品の形状とレオロジー的特性 第7回 食品のレオロジー測定と食感評価 第8回 味覚の発達と老化 第9回 特殊な形態・機能の食品～離乳食と介護食 第10回 食品産業にかかわる悪臭・香害 第11回 清酒の官能検査 第12回 味覚センサ 第13回 酒類のマリアージュ 第14回 糖質、種々添加剤による食品物性、味の改良 第15回 酵素による食品物性の改良			座学	福田恵温 金沢功 金沢功 金沢功 橋本久美子 橋本久美子 橋本久美子 林将也 林将也 林将也 井上守正 井上守正 井上守正 福田恵温 福田恵温
教科書 1	適宜資料を配布する								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名		農業経済学				履修期		2021年度 秋学期	
担当者		濱島 敦博						NO.	AR-AR-2-401
配当学科		地域創成農				年次		2	
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標		経済学の基礎理論に立脚した農業経済に関する基礎知識を習得し、日本農業の特性、課題を経済学的に把握できるようになる。とを到達目標とする。							
概要		本講義は、地域創成農学部において、経済的側面から農業を把握するための基礎的な導入科目として位置づけられる。そのため、人口、土地・労働、流通・市場、集落構造等、農業に関連する幅広いトピックスについて、経済学的解釈をしつつ、網羅的に教授する。							
評価方法		定期試験またはレポートによって評価する。							
履修条件・注意事項									
自己学習		予復習として、講義が始まる前に前回のレジュメ資料に目を通しておくこと。							
オフィスアワー		火曜日4限、木曜日2限							
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1 農業経済とは 2 食料問題と農業調整問題 3 人口増加と栄養不足人口 4 食料の生産と分配 5 経済発展と農業 6 日本農業の特徴と零細分散錯圃 7 農地改革と農地法 8 農業基本法と自立経営 9 新しい基本法と担い手の育成 10組織経営体と企業の農業進出 11農産物の市場と流通 12農産物の需要と供給 13農産物と需要の価格弾力性 14農産物貿易 15農産物流通の新たな動き 16単位認定試験			授業 授業 授業 授業 授業 授業 授業 授業 授業 授業 授業 授業 授業 筆記試験	濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 外部講師 濱島
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1		『農業経済学』 荏開津典生 出版社:岩波書店							
参考書 2									

授業科目名	農業経営学				履修期	2021年度 春学期		
担当者	高田 理					NO.	AG-AR-2-403	
配当学科	地域創成農				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>「農業経営を科学的に理解する」をテーマとして、農業経営を社会科学および自然科学の両面から学び、農業経営問題の解決策を自ら考えことができる能力を身につける。</p> <p>具体的には、(1)農業経営、地域農業の現状と直面する問題を理解する。また、(2)農業経営、地域農業の問題を解決するための経済、経営理論を習得する。それによって、(3)農業経営、地域農業の問題を解決する方策を自ら考えることができるようになることを到達目標とする。</p>							
概要	<p>わが国の農業、農村の重要性の理解を深めるとともに、農業経営、地域農業の問題を明らかにしていく。そして、経済学や経営戦略論、マーケティング論などを援用し、事例を示しながら、それらの問題の解決策を受講者と討論しながら、考えていく。</p>							
評価方法	<p>到達目標は、上記の(1)～(3)の3つがあり、すべての項目で一定の成果を求める。授業の各段階で理解度(習得度)を評価・確認するために、授業中、質疑応答や小テストを行う。成績評価は、授業中の小テスト・授業への積極的な参加態度(30%)、単位認定試験(70%)を合計して総合評価する。</p>							
履修条件・注意事項	<p>食料、農業、農村について常に意識し、それらの情報を収集し、食料、農業、農村について理解を深め、それらについての自分の考えをまとめるようにすること。授業は、真剣に受講し、理解できなかつたり疑問に思ったことは質問し、理解・習得すること。到達目標、授業内容、評価方法等を詳しく説明するので、初回の授業は必ず出席すること。</p>							
自己学習	<p>事前学修:食料や農業、農村についての情報に常に興味をもち、情報収集し、問題意識をもって(学びたいことを準備して)授業に臨むこと。</p> <p>事後学修:授業の内容を復習し、興味をもったことは、自ら調べ理解を深めること。</p> <p>事前および事後学修に2時間程度を要する。</p>							
オフィスアワー	<p>授業終了後、教室にて</p>							

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 農業経営学の課題と方法	講義	高田理			
2. 日本の農業の特徴と課題	講義	高田理			
3. 戦後日本農業の展開と農業経営	講義	高田理			
4. 食料輸入自由化の動向と農業	講義	高田理			
5. 農業経営の目的・目標と経営管理	講義	高田理			
6. 農業の経営環境と農業経営戦略	講義	高田理			
7. 農業経営規模と経営形態	講義	高田理			
8. 食料消費の動向と農産物生産	講義	高田理			
9. 農産物流通の現状と今後	講義	高田理			
10. 農産物流通と農産物マーケティング	講義	高田理			
11. 農業の担い手問題と農業経営の法人化	講義	高田理			
12. 農業の担い手問題と農業生産組織	講義	高田理			
13. 農業の担い手支援策と農業諸団体	講義	高田理			
14. 地域活性化と地域農業	講義	高田理			
15. まとめ 一農業経営、地域農業の展開方向ー	講義	高田理			
16. 単位認定試験	試験	高田理			

教科書 1	
教科書 2	
参考書 1	現代農業のマネジメント 著者:木村伸男 出版社:日本経済評論社 ISBN:978-4-8188-1988-7
参考書 2	食料・農業・農村白書一令和2年版一 著者:農林水産省 出版社:農林統計協会 ISBN:978-4-541-04312-2

授業科目名	農業経営情報論					履修期	2021年度 春学期		
担当者	田村 剛						NO.	AR-AR-3-404	
配当学科	地域創成農					年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	集中講義		
テーマと到達目標	農業経営に関する情報を収集し、理解し、分析する方法を習得する。								
概要	パソコンを使って農業経営やそれをとりまく市場・制度・社会環境に関する情報を収集し、それを加工し、分析することを通じて、農業経営にとって有用な知識を得るための方法を習得する。								
評価方法	出席40%、課題提出60%。試験は行いません。								
履修条件・注意事項	エクセルの基本的な操作方法を習得していること。パワーポイントの操作についてもある程度習得していることが望ましい。操作方法について自信がない人は、予め市販のマニュアル本などを読んで、練習しておくこと。								
自己学習	本科目は集中講義ですので、エクセルの操作でつまづくと内容を理解することができなくなるため、エクセルの基本的な操作方法をしっかりと確認しておくこと。								
オフィスワーク									
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1 ネット情報の取得の注意と扱い方 2 農業構造情報の取得と加工 3 経済情報の取得と複利成長率の計算 4 地域情報の取得と統計の加工 5 プレゼンテーションの技法 6 卸売市場情報の取得とグラフによる分析 7 需要関数と回帰分析 8 基本統計量の計算 9 検定の考え方と平均値の差の検定  10 相関分析 11 アンケート調査とクロス統計表の作成 12 カイ自乗検定 13 企業情報の取得と財務分析 14 損益分岐点分析 15 リニアプログラミングによる経営計画			講義・実習 講義・実習 講義・実習  講義・実習 講義・実習 講義・実習  講義・実習 講義・実習 講義・実習  講義・実習 講義・実習 講義・実習 講義・実習	田村剛 田村剛 田村剛  田村剛 田村剛 田村剛  田村剛 田村剛 田村剛  田村剛 田村剛 田村剛 田村剛					
教科書 1	なし								
教科書 2									
参考書 1	なし								
参考書 2									

授業科目名		農業計算学				履修期		2021年度 秋学期							
担当者		高田 理						NO.		AG-AR-3-405					
配当学科		地域創成農				年次		3							
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30	授業形態		講義						
テーマと到達目標		「農業計算を科学的に理解する」をテーマとして、農業計算を理論と技術(手法)の両面から学び、農業経営を発展させていくために必要なマネジメントサイクルの重要性を理解するとともに、自らそれを実践できる能力を身につける。 具体的には、(1)農業簿記の理論と技術を理解し習得する。次に(2)農業経営分析の理論と手法を理解し習得する。さらに、(3)農業経営計画の理論と手法を理解し習得する。それによって、農業経営を継続的に発展させていく方策を自ら考えることができるようになることを到達目標とする。													
概要		農業簿記、農業経営分析、農業経営計画手法の習得するために練習問題を受講者とともに解いていく。また、農業経営分析結果の検討を通じて農業経営が直面している課題の解決策を受講者と討論しながら、考えていく。													
評価方法		到達目標は、上記の(1)～(3)の3つがあり、すべての項目で一定の成果を求める。授業の各段階で理解度(習得度)を評価するために、授業中に練習問題をするとともに宿題(あるいは授業中の小テスト)を課す。そして、農業簿記、農業経営分析、農業経営計画を自ら実践できる能力を評価するために、単位認定試験を行う。成績評価は、授業への積極的な参加態度・宿題等(40%)、単位認定試験(60%)を合計して総合評価する。													
履修条件・注意事項		授業は、真剣に受講し、理解できなかつたり疑問に思ったことは質問し、理解・習得すること。 なお、簡単な一次方程式の問題が解ける能力があることが必要である。 到達目標、授業内容、評価方法等を詳しく説明するので、初回の授業は必ず出席すること。													
自己学習		授業の復習は必ず行い、理解・習得を確実なものにすること。復習には2時間程度を要する。簿記に興味をもち、簿記検定試験(たとえば、日本商工会議所主催など)にチャレンジしてもらいたい。													
オフィスアワー		授業終了後、教室にて													
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
								1. 農業経営と農業簿記 2. 貸借対照表と損益計算書 3. 取引と勘定科目 4. 仕訳と転記 5. 試算表 6. 決算の意味と手続 7. 決算整理(その1)－収益・費用の繰延・見越と減価償却－ 8. 決算整理(その2)－棚卸資産評価とその他の決算整理－ 9. 精算表 10. 帳簿決算と財務諸表 11. 農業経営分析の意義と方法 12. 農業経営分析(その1)－収益性分析と安全性分析－ 13. 農業経営分析(その2)－生産性分析、成長性分析と損益分岐点分析－ 14. 家族農業経営の特質と農業経営分析 15. 農業経営計画の理論と手法 16. 単位認定試験				講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義  講義  講義 講義 講義  講義  講義 試験		高田理 高田理 高田理 高田理 高田理 高田理 高田理  高田理  高田理 高田理 高田理 高田理  高田理  高田理 高田理	
教科書 1															
教科書 2															
参考書 1		改訂 現代農業簿記会計 著者:古塚秀夫・高田理 出版社:農林統計出版 ISBN:978-4-89732-257-5													
参考書 2															



授業科目名	商業簿記					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	生駒 正文						NO.	AG-AR-1-406	
配当学科	地域創成農					年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	簿記は仕訳や記帳練習を繰り返し実践することが大切です。そして「財務諸表」を作成し、数字を基に会社の状況を読み取る力を身につけることです。財務的センス、会計的センスをいつの間にか向上させます。 (日本商工会議所主催簿記検定試験3級レベルの知識を習得することを到達目標とします)								
概要	会社の経営者の中には損益計算書や貸借対照表を苦手としている人が意外と多いのも事実です。 簿記ではまず、会社の活動を記録するために帳簿を記帳するための内容を学習をしますが、最も大事なものは帳簿を読めるようになることでもあります。初歩的な記帳から始め、貸借対照表、損益計算書を作成します。								
評価方法	試験70% 授業態度、意欲30%								
履修条件・注意事項	教科書持参、ノートをとること、計算・作表を繰り返し実践を原則に授業に臨むこと								
自己学習	授業計画ごとに教科書・プリントを復習・予習しておくこと								
オフィスアワー	12:30～13:00(生駒研究室)								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1. 簿記の意義と仕組み 2. 仕訳と転記 3. 仕訳帳と元帳 4. 決算 5. 現金と預金 6. 繰越商品・仕入・売上 7. 売掛金と買掛金 8. その他の債権と債務 9. 受取手形と支払手形 10. 有価証券 11. 固定資産 12. 貸倒損失と貸倒引当金 13. 資本金と引出金 14. 収益と費用 15. 財務諸表 16. 試験			講義・計算・作表	生駒正文
教科書 1	南伸一「日商簿記3級・テキスト&問題集」 出版社:成美堂出版								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	食農マーケティング論					履修期	2021年度 春学期		
担当者	小野 雅之						NO.	AR-AR-3-409	
配当学科	地域創成農					年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	地域創生のための食農マーケティングについて理解を深めるとともに、そのあり方を考察し、実践できる能力を身につける。マーケティングの基本的考え方を理解し、農産物・食品の消費・市場・流通に関する知識を身につける。その上で、地域創生のための農業経営や食品関連産業、さらには地域におけるマーケティングのあり方について、自ら考え、判断できるようになることを到達目標とする。								
概要	(地)食農マーケティングの基本となるマーケティング理論について基礎的な理解を深めるとともに、マーケティング戦略を構想し、実践するために必要となる農産物・食品の消費者ニーズや消費動向、農産物・食品の市場、流通について理解を深める。その上で、地域の農産物や食品、地域のマーケティングについて実例を示しながら述べるとともに、見学やグループ・ディスカッションを通じて、これからの食農マーケティングのあり方を自ら考える能力が身につくようにする。								
評価方法	この授業では、食農マーケティングの基本的な考え方を理解し、自ら考え、実践できる能力を身につけることを目的としていることから、知識の修得状況や思考能力を測るために、毎回の授業における小レポート、授業への積極的な参加態度、定期試験結果等を通じて総合的に判断する。具体的には、毎回の授業における小レポート(30%)、授業への積極的な参加態度(20%)、定期試験結果(50%)を合計して総合評価を行う。								
履修条件・注意事項	授業中は静粛な授業環境を維持し、集中して授業を受けること。								
自己学習	この授業では、参加型学習によって授業を行うため、下記の自己学習を必ず行うこと。 1)テキストの指定した部分を必ず予習すること。 2)マーケティングは実践的な考え方であるので、農産物・食品のマーケティング、消費者ニーズや消費行動、農産物・食品流通などに関心を持ち、関する文献、新聞記事、テレビ報道などを通じて授業前の準備学習や授業後の復習を必ず行うこと。								
オフィスアワー	授業終了後教室にて								

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 第1回 食農マーケティングとは何か？	講義	小野雅之			
2. 第2回 マーケティングの発展	講義	小野雅之			
3. 第3回 マーケティング戦略の手法	講義	小野雅之			
4. 第4回 農産物・食品の特性と消費者ニーズ	講義	小野雅之			
5. 第5回 (地) 見学またはグループディスカッション	AL	小野雅之			
6. 第6回 流通のしくみと役割	講義	小野雅之			
7. 第7回 米の流通のしくみ	講義	小野雅之			
8. 第8回 青果物の流通のしくみ	講義	小野雅之			
9. 第9回 加工食品の流通のしくみ	講義	小野雅之			
10. 第10回 (地) 見学またはグループディスカッション	AL	小野雅之			
11. 第11回 多様化する食品・農産物の流通	講義	小野雅之			
12. 第12回 農産物・食品マーケティングの実態	講義	小野雅之			
13. 第13回 農産物・食品・地域のブランド化	講義	小野雅之			
14. 第14回 (地) 食農マーケティングのあり方	AL	小野雅之			
15. 第15回 (地) グループ・ディスカッション	AL	小野雅之			
16. 第16回 単位認定試験	筆記試験	小野雅之			

教科書 1	<p>新版食品流通 著者: 茂野隆一ほか 出版社: 実教出版 ISBN: 978-4-407-33217-9</p>
教科書 2	
参考書 1	<p>はじめてのマーケティング 著者: 久保田進彦ほか 出版社: 有斐閣 ISBN: 9780000000000</p>
参考書 2	<p>フード・マーケティング論 著者: 藤島廣二・宮部和幸・木島実・平尾正之・岩崎邦彦 出版社: 筑波書房</p>

授業科目名	地域産業複合体論					履修期	2021年度 春学期		
担当者	橋本 卓爾						NO.	AG-AR-3-409	
配当学科	地域創成農					年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2		時間数	30		授業形態	講義
テーマと到達目標	「農業を基軸にした地域産業複合体を理解する」をテーマとする。とくに、農村地域において農業を基軸に関連産業・事業体が多様な連携・結合関係を構築することの重要性について理解を深める。 到達目標としては、第1に地域産業複合体とは何か(基礎概念)について明確に理解する。第2に、とくに農村地域において地域産業複合体の形成と展開の意義・役割について理解する。第3に、それらを踏まえ自分たちが地域活性化の担い手としてどのような地域産業複合体の形成と展開をめざすのかについて考える力を身につける。								
概要	まず、地域産業複合体及びその類似概念である農商工連携、地域産業クラスター、農業の6次産業化等について講義する。 次に、現在なぜ地域において、とりわけ農村地域において地域産業複合体の形成と展開が必要になっているのかについて考察する。ここでは、現在のわが国の地域(農村と都市)の現状と問題点と関連付けて詳しく考察する。 さらに、わが国における農業を基軸にした地域産業複合体の先進事例を分析し、地域産業複合体が果たしている社会経済的役割について学ぶとともに、今後の課題や展望について考える。								
評価方法	この科目は、農業・農村活性化の重要な手段・方策になっている農業を基軸にした地域産業複合体についての理解を深めるとともに、自らが地域活性化の担い手としてどのような地域産業複合体を形成・展開していくかを考える力を養うことを主眼としているので、1.地域産業複合体に関する知識の修得程度を確認する試験(60%)、2.自らが調べまとめる能力を確認する課題レポート(30%)を基本に評価する。なお、授業態度についても評価(10%)に加える。								
履修条件・注意事項	講義レジュメを配布し、それをベースに進めるが、講義のポイントや関連事項等を板書する場合も多いので必ずノートを準備すること。 また、各地域の最新事例等をいくつか紹介するのでインターネット等を活用し当該地域の実態や取組事例に関するデータを予め入手すること。 授業は、できるだけ学生参加型の授業を行いたいと考えているので質疑応答や受講の感想等を聞く時間を持つ。								
自己学習	1.参加型学習法による授業をおこなうので事前に学習課題について予習しておくこと。 2.必ずノートを作成し復習すること								

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
第1回 授業の目的と進め方等の説明	講義	橋本卓爾			
第2回 地域と経済・産業					
第3回 現代の地域問題-農村地域	講義	橋本卓爾			
第4回 地域産業複合体論を学ぶ現代の意義	講義	橋本卓爾			
第5回 地域産業複合体の基礎概念	講義	橋本卓爾			
第6回 地域産業複合体と農商工連携・産業クラスター	講義	橋本卓爾			
第7回 地域産業複合体と農業の6次産業化	講義	橋本卓爾			
第8回 事例分析1 和歌山県南部・田辺地域のウメ産業	講義	橋本卓爾			
第9回 事例分析2 南九州地域の焼酎産業	講義	橋本卓爾			
第10回 事例分析3 香川県のウドン産業	講義	橋本卓爾			
第11回 事例分析4 淡路島のタマネギ産業	講義	橋本卓爾			
第12回 事例分析5 集落等を基盤にした小規模地域産業複合体	講義	橋本卓爾			
第13回 農業を基軸にした地域産業複合体の意義と役割1	講義	橋本卓爾			
第14回 農業を基軸にした地域産業複合体の意義と役割2	講義	橋本卓爾			
第15回 農業を基軸にした地域産業複合体の課題と展望	講義	橋本卓爾			
第16回 単位認定試験	試験	橋本卓爾			

教科書 1	使用しない(講義レジュメを配布する)
教科書 2	
参考書 1	地域産業複合体の形成と展開－ウメ産業の新しい動向－ 著者:橋本卓爾他編著 出版社:農林統計協会 ISBN:4-541-03279-1
参考書 2	地域再生への挑戦 著者:橋本卓爾・大泉英次編著 出版社:日本経済評論社 ISBN:978-4-8188-1998-6

授業科目名		経済発展論				履修期		2021年度 春学期						
担当者		濱島 敦博							NO.	AR-AR-3-411				
配当学科		地域創成農				年次		3						
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義				
テーマと到達目標		経済発展論は、経済学のツールを用いて、開発途上国の経済発展のメカニズム・経路・手法を分析する学問領域である。開発経済学の基礎理論を理解した上で、個々の国・地域の経済発展の経路における多様性の存在を理解することをもって到達目標とする。												
概要		本講義では、東・東南アジアを中心とした国・地域の事例を紹介しながら、開発経済学の基礎理論を教授する。												
評価方法		試験(80%)、授業態度(20%)にて評価を行う。												
履修条件・注意事項														
自己学習		予復習として、講義が始まる前に前回のレジュメ資料に目を通しておくこと。												
オフィスアワー		火曜日4限、木曜日2限												
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
第1回 ガイダンス・授業概要の説明 第2回 開発経済学とは:開発経済学の視野と課題 第3回 開発経済学の理論的系譜 第4回 開発問題と人口:人口転換理論と 第5回 労働力移動:二重経済論モデル 第6回 工業化①:輸入代替工業化と輸出志向工業化 第7回 工業化②:海外直接投資とプロダクトサイクル 第8回 農村慣行:分益小作と定額小作 第9回 貧困問題と所得格差 第10回 マイクロファイナンス 第11回 政府開発援助 第12回 中所得国の罍 第13回 経済発展と市場①:市場経済論の二つの潮流 第14回 経済発展と市場②:発展の多様性と固有性 第15回 まとめ 第16回単位認定試験				講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験		濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島								
教科書 1														
教科書 2														
参考書 1		『開発経済論』原洋之介 出版社:岩波書店												
参考書 2														

授業科目名	経済発展と農業問題					履修期	2021年度 春学期		
担当者	濱島 敦博						NO.	AR-AR-2-110	
配当学科	地域創成農					年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	経済発展による農業に関する問題の変容、特に、「農業問題」と「農業調整問題」の相違を正確に把握し、現代日本農業における問題の背景や構造的要因について理解を深める。								
概要	多くの国・地域が近代的経済成長以前において直面してきた「農業問題」が、経済成長を経て、「農業調整問題」へと変容する過程を理解することによって、現代農業が構造的に内包する問題の要因や背景を教授する。								
評価方法	テスト(80%)、授業の参加意欲(20%)によって評価する。								
履修条件・注意事項	講義形式の授業を基本とするが、事前に出した課題を元に、参加型学習形態の授業も数回行う。								
自己学習	授業は指定した教科書を用いて行うので、毎回の講義でのテーマとなる該当箇所について必ず予習及び復習をすること。								
オフィスアワー	水曜日3限、金曜日4限								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. ガイダンス 2. 近代成長前の農業の多国間比較ーヨーロッパ 3. 近代成長前の農業の多国間比較ーアジア 4. 土地生産性と労働生産性 5. 技術中立的な農業発展 6. 過剰就業人口と農業 7. 農業インボリューションと貧困の共有  8. 小テスト 9. 近代的成長と労働力移動 10. 労働の無制限供給と転換点 11. 劣位産業化とベディクラークの法則  12. 農地の利用調整 13. 集落機能の低下 14. 地域農業の持続可能性 15. 総括			講義 講義  講義 講義 講義 講義  講義 講義 講義 講義  講義 講義 講義 講義	濱島 濱島  濱島 濱島 濱島 濱島  濱島 濱島 濱島 濱島  濱島 濱島 濱島 濱島					
教科書 1	荏開津典生、鈴木宣弘著『農業経済学』岩波書店、第4版、2016年。 出版社:岩波書店 ISBN:978-4-00-028917-7								
教科書 2									
参考書 1	速水佑次郎、神門善久『農業経済論 新版』2007年 出版社:岩波書店 ISBN:ISBN4-00-01812-4								
参考書 2	八木宏典監修『世界の農業と食料問題のすべてがわかる本』 出版社:ナツメ社								

授業科目名		国際関係と資源問題				履修期	2021年度 春学期			
担当者		内藤 智秋					NO.	AG-AR-1-412		
配当学科		地域創成農				年次	1			
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標		国際社会における資源資源・エネルギー問題は、紛争、グローバル経済、環境破壊、貧困と格差など様々な要因と密接に関わり合っており、それらは一つの(或いは少数の)国の取り組みでは解決が不可能である。このような諸問題が生じた要因や国際社会の取り組み、抱える課題などを領域ごとに議論をし、総合的に資源・エネルギー問題について検討する。さらには地球に暮らす一人の人間として、こうした問題にどのように向き合い関わっていくべきなのか考察したい。								
概要		まずは現在の国際社会の抱える問題についての歴史的背景や課題を整理することで基本的な知識を習得してもらう。次にそれらがグローバルな資源の再配分の問題といかに結びつき、自分たちの社会や生活と関わっているか考察・説明できる能力を養いたい。最終的にはこれら諸問題に対し、日本は、国際社会はいかに向き合い、解決を図ればよいのかといったことを自分の言葉で表現できる能力を身につけてもらいたい。								
評価方法		評価のポイントは以下の通り ・発言や質問など授業への参加、受講態度 ・レポートなど課題提出 ・学期末試験								
履修条件・注意事項		常に国際情勢に対し関心を持ち、ニュース等をチェックする習慣をつける。 授業中の議論(発言・質問)や課題(小テストやレポート)に対する積極的な姿勢も重視する。								
自己学習		レポートとは別に適宜、宿題や小課題を課すが、学習内容の自主的な予習・復習も期待したい。重要な評価対象であるレポート課題作成に向けた関連項目のリサーチは、特に日常から心がけてもらう。								
オフィスアワー		授業終了後								
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法	担当者
1 国際社会をイメージしよう 2 国際社会の誕生 3 グローバル化と国際社会の変容 4 国境を越える資本主義 5 通商問題と資源 6 食糧資源とフード・チェーン-1 7 食糧資源とフード・チェーン-2 8 日本におけるエネルギー対策 9 地球環境問題と持続可能な発展 10 宇宙船地球号のゆくえ 11 農業・食料と環境問題 12 資源をめぐる対立と協調 13 環境と安全保障 14 現代の紛争と資源問題 15 まとめとディスカッション 16 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義及びブ レゼン 筆記試験		内藤 内藤 内藤 内藤 内藤 内藤 内藤 内藤 内藤 内藤 内藤 内藤 内藤 内藤					
教科書 1		特に指定しない(必要に応じ指定)。基本的には配布プリントで進める。								
教科書 2										
参考書 1										
参考書 2										

授業科目名		地域調査法				履修期		2021年度 春学期			
担当者		平井 順、末吉 秀二、森野 真理							NO.	AG-AR-3-501	
配当学科		地域創成農				年次		3			
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30	授業形態		講義		
テーマと到達目標		この科目の到達目標は、地域調査の方法論を習得し、自ら計画して量的及び質的調査を実施できるようになることである。地域調査のデータ分析に有効なGISとSPSSを利用できるようになるとともに、データベースを活用できるようになる。そしてフィールドワークができるようになる。									
概要		地域社会の現状を知るには現地調査が不可欠である。しかし、やみくもに現地に行きさえすれば何かが分かるわけではない。地域調査に関する十分なスキルを身につけ、不足なく事前準備を整え、適切に現地調査を実施し、得られたデータを最大限に有効活用すべくその整理と分析にあたる。膨大にある既存のデータベースのなかから適切な地域情報にアクセスして分析にあたる。学生がこれら一連のプロセスを自らの計画のもとでおこなえるようになるための授業を提供する。 4年次の「課題研究(卒業論文)」を実施するうえで、論証部分の堅実さはその成否を左右する重要な要素である。地域調査法の技法の習得はそこに寄与するものである。									
評価方法		課題およびテスト(45%)と授業姿勢(55%)を組み合わせる。評価は厳格におこなう。									
履修条件・注意事項		専門ゼミ(地域創成農学演習)に「地域創成学分野」を選択した3年生は必ず履修してください。本科目に関心ある一般学生の履修も歓迎します。									
自己学習		授業の進行に合わせて随時課題をおこなう。くれぐれも復習を怠らないこと。									
オフィスアワー		毎週水曜日2限目(11:00-12:40)をオフィスアワーの時間とする。ただし第3水曜日を除く。									
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法	担当者
01. GIS(GISの特徴、農業・環境分野における利用)			講義		森野						
02. GIS(測地系:座標系と回転楕円体)			講義		森野						
03. GIS(基本操作:表示方法とデータの編集)			講義		森野						
04. 課題(GIS)											
05. GIS(解析手法:オーバーレイ、バッファ、検索)			講義		森野						
06. 大規模データの入手・利用(WHO、UNDP)			講義		森野						
07. 大規模データの実例(DHS)			講義		末吉						
08. SPSSの基本操作			講義		末吉						
09. 統計分析(パラメトリック・データ)			講義		末吉						
10. 統計分析(ノンパラメトリック・データ)			講義		末吉						
11. フィールドワーク(事前準備)			講義		末吉						
12. フィールドワーク(調査項目の選定)											
13. フィールドワーク(インタビュー)			講義		平井						
14. フィールドワーク(文字起こし)			講義		平井						
15. フィールドワーク(執筆)											
16. 試験			講義		平井						
			講義		平井						
			講義		平井						
			筆記試験		平井						
教科書 1		資料やレジュメを適宜配布する。									
教科書 2											
参考書 1											
参考書 2											

授業科目名	地域人口学					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	末吉 秀二						NO.	AG-AR-3-502	
配当学科	地域創成農					年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	人口学の基礎を学ぶとともに、社会人口学の視点から、人口と社会との相互作用および今日の世界や地域の人口問題について理解を深めることができる。								
概要	2008年、日本の人口は減少を始めた。今後日本はどのような社会に転ずるのか、期待よりも不安の声が多く聞かれる。一方、世界を見渡せば、人口増加によって人々の生存が脅かされつつある地域も存在する。人口の増減は地域の社会文化と密接に関連し、また多様である。 本講義では、はじめに人口現象を正しく理解するために、出生、死亡、人口構造などの人口指標を学ぶ。次に、人口に関する理論を習得し、事例をとおして人口と社会との関連および地域的な多様性、今日の人口問題を理解する。								
評価方法	到達目標を計るため、試験(80%)、小レポート(10%)、受講態度(10%)で総合的に評価する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので試験までに見直しておくこと。								
履修条件・注意事項	教科書は指定していないが、人口学を理解したい学生は参考書を購入することが望ましい。								
自己学習	毎回配布するプリントを通読し、不明な点を明確にすること(予習)。不明な点が理解できたか確認すること(復習)。								
オフィスアワー	月曜日・金曜日(3限、5限)								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1. オリエンテーション 2. 社会人口学とは 3. 人口指標(出生) 4. 人口指標(死亡) 5. 人口指標(人口増加) 6. 人口指標(人口構造) 7. 人口指標(生命表) 8. 人口転換理論 9. 人口扶養力 10. 近接要因モデル 11. 先進国の出生率の現状と人口問題 12. 途上国の出生率の現状と人口問題 13. 将来の人口推計 14. 人口・社会・環境の関連 15. まとめ 16. 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二
教科書 1	使用しない(必要に応じてプリントを配布する)								
教科書 2									
参考書 1	人口学への招待 著者:河野 綱果 出版社:中公新書 ISBN:978-4-12-101910-3								
参考書 2									



授業科目名		地域保健学				履修期		2021年度 秋学期					
担当者		末吉 秀二							NO.	AG-AR-3-503			
配当学科		地域創成農				年次		3					
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30		授業形態		講義			
テーマと到達目標		健康の水準や保健医療サービスには、国や地域により大きな格差がある。本講義は国際保健学の視点から、世界の人々の健康とともに地域社会における健康課題を理解する。											
概要		2000年9月に採択された国連ミレニアム宣言において、21世紀の国際的な開発目標としてミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs) が掲げられた。本講義では、ミレニアム開発目標を達成するための国際保健学の役割及び国際保健学に関する基礎知識を習得する。											
評価方法		到達目標を計るため、試験(80%)、小レポート(10%)、受講態度(10%)により総合的に評価する。											
履修条件・注意事項		指定した教科書は必ず購入すること。											
自己学習		毎回講義で指定する章を通読し、不明な点を明確にすること(予習)、不明な点が理解できたかを確認すること(復習)。											
オフィスアワー		月曜日・金曜日(3限、5限)											
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
							1 オリエンテーション 2 国際保健学とは 3 開発と国際保健 4 ヘルスプロモーション 5 途上国の環境問題 6 保健医療統計 7 労働衛生 8 途上国のヘルスシステム 9 プライマリ・ヘルスケア 10 人口と家族計画 11 リプロダクティブヘルス/ライツ 12 感染症と寄生虫疾患 13 国際協力 14 拡大予防接種計画 15 まとめ 16 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験		末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二 末吉 秀二	
教科書 1		国際保健医療学 著者: 日本国際保健医療学会編 出版社: 杏林書院 ISBN: 978-4-7644-0527-1											
教科書 2													
参考書 1													
参考書 2													

授業科目名				地域社会学				履修期		2021年度 春学期									
担当者				平井 順						NO.		AG-AR-3-504							
配当学科				地域創成農				年次		3									
必修・選択				選択		単位数		2		時間数		30		授業形態		講義			
テーマと到達目標				この科目の到達目標は、地域社会の生活がいかんにして今ある様相で成立しているのかを把握すべく、地域社会学の学説及びフィールドワークで得られた知見を知り、視野を広げることである。															
概要				農村部と都市部はともに人々が暮らす地域である。これら双方の違いは産業構造の分布で区分けされることが多いが、それだけで二分されるわけではない。地域で暮らす人間を基準に考えれば、対人関係のありよう、家族・親族関係のありよう、協働と分業のありかたにも違いがある。また、地方自治体の枠組みは平成の大合併を経て人々の生活にいかなる影響を及ぼしているのか。地域社会学の研究蓄積を踏まえて、地域で生きる人間のありようを考える。															
評価方法				テスト(45%)と授業姿勢(55%)を組み合わせる。評価は厳格におこなう。															
履修条件・注意事項																			
自己学習				授業の進行に合わせて随時課題およびテストをおこなう。くれぐれも復習を怠らないこと。															
オフィスアワー				A棟407研究室において、毎週水曜日2限目(11:10-12:40)をオフィスアワーの時間とする。ただし第3水曜日を除く。															
春学期授業計画						授業方法		担当者		秋学期授業計画						授業方法		担当者	
01. オリエンテーション 02. 郊外(1)―理論 03. 郊外(2)―事例 04. 道の駅 05. ショッピングセンター 06. B級グルメ 07. 郷土料理 08. 町内会(1)―理論 09. 町内会(2)―事例 10. モニュメント(1)―理論 11. モニュメント(2)―事例 12. 地縁型NPO(1)―理論 13. 地縁型NPO(2)―事例 14. シカゴ学派(1)―同心円地帯 15. シカゴ学派(2)―アーバンイズム 16. 試験						講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験		平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井											
教科書 1				統計データ資料やレジュメを適宜配布する。															
教科書 2																			
参考書 1																			
参考書 2																			

授業科目名		農業開発社会学				履修期	2021年度 秋学期		
担当者		河村 能夫					NO.	AG-AR-3-505	
配当学科		地域創成農学部				年次	3		
必修・選択		選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標		講義テーマ: グローバル経済下における日本農業のあり方を考察する。  到達目標: ①農業発展の基本的枠組を理解する。 ②日本農業を取り巻く社会経済的環境の変化を理解する。 ③日本農業の産業としての特性を理解する。 ④日本農業の社会経済的特性に基づく持続的発展可能性について理解する。							
概要		本講座の目的は、経済のグローバル化が進む中での日本農業のあり方に関する基本的知識を習得することである。経済グローバル化のプロセスでは、農業は国際摩擦のシンボルとなる傾向が強く、合意形成も難航することがしばしばである。農業という産業的特性とともに、国家間の経済的・政治的・文化的な差異が、そこに集約されやすいからである。そのような環境下で農業を持続的に発展していくために最も重要なことは、世界的な視野の中で、日本農業のあり方を相対化しながら客観的に評価することである。そのためには、日本農業の内部条件(生産構造)とそれを取り巻く外部条件(環境)との関係性を客観的に把握することが不可避である。それによって日本農業にとってのプラスの環境・マイナスの環境は何か、日本農業の持つ強みと弱みは何かを相対的に把握することができる。本講義では、農業の直接的な発展可能性を規定する外部条件が何か、農業の直接的な内発的発展可能性を与える内部条件が何かを明らかにすることによって、グローバル経済下の日本農業のあり方について考察することにある。							
評価方法		①平常点(40%): 毎講義時のアンケートによる修得度 ②期末レポート(60%): アグリビジネスに関するレポート							
履修条件・注意事項		ミクロ経済学やマクロ経済学の入門レベルの知識があることが望ましい。							
自己学習		「開発経済学」などで社会発展・近代化・工業化などの開発メカニズムの基本的知識を持っていることが期待される。???							
オフィスアワー		各授業後に必要に応じてオフィスアワーを設けます。希望者は事前にメールで連絡のこと。メールアドレスは yoshiokawamura@ad.ryukoku.ac.jp							
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					第01講: オリエンテーション(科目の前提的枠組)	講義	河村能夫		
					第02講: 経済発展把握の基本的方法: 量的把握と質的把握	講義	河村能夫		
					第03講: 経済発展把握の基本的枠組①: 生産関数	講義	河村能夫		
					第04講: 経済発展把握の基本的枠組②: フローとストック	講義	河村能夫		
					第05講: 農業開発の外部条件(macro)の変化①: グローバル化=流動性	講義	河村能夫		
					第06講: 農業開発の外部条件(macro)の変化②: グローバル化と農業の特性	講義	河村能夫		
					第07講: 農業開発の外部条件(mezzo)の変化①: 近代化に伴う労働力移動	講義	河村能夫		
					第08講: 農業開発の外部条件(mezzo)の変化②: 都市化と都鄙連続体社会	講義	河村能夫		
					第09講: 農業開発の外部条件(micro)の変化①: 食の経済学	講義	河村能夫		
					第10講: 農業開発の外部条件(micro)の変化②: 食の近代化と固有性	講義	河村能夫		
					第11講: 食と農の関連性の原点: 人間は何を食べてきたか①	講義	河村能夫		
					第12講: 食と農の関連性の原点: 人間は何を食べてきたか②	講義	河村能夫		
					第13講: 農業開発の内部条件(多様性)①: 農業類型化と発展メカニズム	講義	河村能夫		
					第14講: 農業開発の内部条件(多様性)②: フォーディズム農業とニッチズム農業	講義	河村能夫		
					第15講: 農業開発パラダイムの枠組: 都鄙連続体リンゲージと垂直統合・水平統合+グローバル経済下における包括的統合: 地域農業の担い手と10次産業化	講義	河村能夫		
教科書 1	河村能夫編『ACADEMIA特集「経済のグローバル化における食と農のあり方を探る」』No.152(全国に本学士会)、2012年7月、pp.63。(販売されてないため、事業中に配布する)								

教科書 2	
参考書 1	小田滋晃・長命洋佑・川崎訓昭『農業経営の未来戦略(1) 動き始めた「農企業」』昭和堂、2013年 著者:トダロ&スミス『開発経済学』ピアソン桐原、2010年
参考書 2	絵所秀紀『開発の政治経済学』日本評論社、1997年 著者:上杉孝實・香川正弘・河村能夫共編著『大学はコミュニティの知の拠点となれるか』ミネルヴァ書房、2016年、pp.144

授業科目名	農業・食品業の地域ブランド戦略				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	生駒 正文					NO.	AG-AR-3-506	
配当学科	地域創成農				年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>平成18年4月から施行された商標法にいわゆる「地域ブランド」の保護(淡路島たまねぎ等)による農林水産物の保護も重要になっています。正確には「地域団体商標制度」によって出願・登録された農林水産物の「地域ブランド」の戦略(利益を進めるための総合的・長期的な手段・方法)を勉強することです。</p> <p>また、平成26年6月制定された日本ブランドにおける「地理的表示保護法」による農林水産物の保護も重要になっています。</p> <p>ブランド戦略としては、日本ブランドにおける地理的表示と地域ブランドにおける商標をいかに検討するかが重要であるため、その基礎を理解し、いかに農林水産物のブランド化をすすめるかを目標とします。</p>							
概要	<p>商標法、地理的表示保護法の基礎を理解するために、平易なレジュメを使用し、具体的な戦略事例を折り込み、わかりやすく説明します。レジュメを予め渡しますので、必ず予習・復習すること。あわせて、国家試験「知的財産管理技能検定(3級)」の問題を取り入れ実践的トレーニングを行います。この科目は大阪・藤田隆特許事務所顧問としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>							
評価方法	試験70% 授業態度、意欲30%							
履修条件・注意事項	レジュメを持参、ノートをとること、考えることを原則に授業に臨むこと							
自己学習	授業計画ごとにレジュメを復習・予習しておくこと							
オフィスアワー	12:00～13:00(生駒研究室)							
春学期授業計画		授業方法		担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
					1.地域ブランドの歴史から見る戦略 2.商標権に関する基礎知識 3..商標権に関する基礎知識 4.地域団体商標制度ができるまで 5.地域団体商標を受けるための要件 6.登録された地域団体商標の効力を争う 7.登録された地域団体商標の効力を争う 8.地域団体商標と侵害訴訟 9.地域団体商標と侵害訴訟 10.地理的表示とは何か 11.地理的表示保護法の概要 12..地理的表示保護法の概要 13.地理的表示保護の国際的枠組み 14.我が国における地域ブランド戦略 15.我が国における地域ブランド戦略 16.定期試験		講義	生駒正文
教科書 1	レジュメを配布							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								



授業科目名	山・里・海の連携学				履修期	2021年度 春学期		
担当者	鎌田 磨人					NO.	AR-AR-3-501	
配当学科	地域創成農				年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>この講義では、山、里、海を生態系としてとらえ、それぞれの連関と、そこから得られる「自然の恩恵」、すなわち生態系サービスについて学び、その持続的な利用について考える能力を身につける。</p> <p>日本列島の里山、里海の歴史的な変遷と、その駆動因として人間の生業の歴史との関連について、正しく理解する。また、自然科学的な観点と社会人文学的な観点を合わせる分野横断型の考え方の利点を学ぶことによって、個々の専門分野をいかに連携させていくことが地球規模あるいは地域の課題を解決するのに必要かを会得する。加えて、地域資源である生態系から持続的に生態系サービスをひきだすことで、地域の持続的な発展が可能であるということを踏まえて、適切な地域振興とそうでないものを根拠をもって見極めることができるようになることを到達目標とする。</p>							
概要	(地) 地域資源の源である山、里、海の生態系としての構造と機能について基礎的な理解を深めるとともに、それぞれの連関や人間活動との関わりについてにの仕組みを考察する。また、現在みられる里山や里海の歴史的変遷を人間の生業の変化や気候風土との関連として学び、地域で起こる問題を広い時間的空間的な視野で考えなければならないことを主体的に考えるために、具体的に地域が抱える問題を題材にしてグループ討論も逐次取り入れた授業を行う。							
評価方法	この科目では、地域の課題を生態系の持続的な利用という観点で自ら考え、行動に結びつけるために必要な知識と能力を身につけることを目的にしていることから、参加型学習における授業への積極的参加態度(40%)、知識の修得程度を確認するための試験(40%)、自ら調べてまとめる能力を確認するための課題レポート(20%)で評価する。参加型学習の際には、授業中の発言頻度や内容なども重視する。具体的な評価方法は、最初の授業時に説明する。							
履修条件・注意事項	1) 初回の授業は必ず参加すること。2) 試験は必ず行うので授業に出席していただいただけでは単位はとれない。							
自己学習	グループ討論では前回の授業に関連する課題を出し、それに基づいて参加型授業を行うので、事前学習が必須である。							
オフィスアワー	授業終了後教室にて							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回	生態系と生態系サービス	講義	鎌田					
第2回	里山の歴史と人間生活	講義	鎌田					
第3回	現代の里山問題	講義	鎌田					
第4回	地域課題としての里山	グループ討論	鎌田					
第5回	里海の歴史と人間生活	講義	鎌田					
第6回	現代の里海問題	講義	鎌田					
第7回	地域課題としての里海	グループ討論	鎌田					
第8回	里山と里海の連関	講義	鎌田					
第9回	地域環境と里山里海	講義	鎌田					
第10回	地域環境問題としての里山里海	グループ討論	鎌田					
第11回	食から見た生態系	講義	鎌田					
第12回	生態系保全の社会経済的な仕組み	講義	鎌田					
第13回	生態系ブランドと地域振興	講義	鎌田					
第14回	地位資源と地域振興	グループ討論	鎌田					
第15回	地域の夢と里山里海	グループ討論	鎌田					
第16回	単位認定試験	試験	鎌田					
教科書 1	使用しない。プリントを配布。必要時には、参考書を適宜指示する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								





[illegible]

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1 イントロダクション: ソーシャルファームとは何か?	講義	福原			
2 変容する社会: つながりの弱まりと社会的排除	講義	福原			
3 誰もが?きることを叶える社会へ: 社会的包摂とアクティベーション	講義	福原			
4 社会的連帯経済と多様な社会的企業の登場	講義	福原			
5 海外の取り組み①: ソーシャルファームの世界での広がりや歴史的発展	講義	福原			
6 海外の取り組み②: イタリアの社会的協同組合	講義	福原			
7 海外の取り組み③: フランスの農福連携 ジェルダン・コカーニュ	講義	福原			
8 ?本の事例① 北芝のまちづくりを担う社会的企業	講義	福原			
9 ?本の事例? 共働学舎新得農場	講義	福原			
10 ?本の事例③ 和歌?の??会	講義	福原			
11 ?本の事例④ 泉州アグリ	講義	福原			
12 ?本の事例⑤ いずみ市民生活協同組合	講義	福原			
13 ?本の事例⑥ 秋田県藤里町	講義	福原			
14 ?本の事例⑦ NPO文化学習協同ネットワーク	講義	福原			
15 全体のまとめ	講義	福原			
16 試験	試験	福原			

教科書 1	使?しない。毎回、資料を配布する。
教科書 2	
参考書 1	その都度、指摘する。
参考書 2	

授業科目名	インターンシップ				履修期	2021年度 春学期		
担当者	山本 慶子					NO.	AG-AR-3-601	
配当学科	地域創成農				年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	実習	
テーマと到達目標	<p>テーマ:地域創成農学で習得した専門知識と関連する分野での就職体験を通して食農関連産業の理解を深めます。さらに、自分に適した職業進路を選択する能力を身に付けることを目的とします。就業体験を通して社会が求める人間像について考え、将来の職業人として必要な知識・情報を理解し、基本的な教養や知識を身に付けることを到達目標とします。</p>							
概要	<p>インターンシップ実習は、食農関連産業における就職体験を通して社会人基礎力を身に付け、卒業後の仕事のミスマッチを防ぐことを目的としています。授業による事前知識と情報を習得し、就職におけるミスマッチを防ぐことを目的としています。授業により事前学習は、地域創成教育の理念、食農実習プログラムの内容に関する説明、実習から得られること、食農関連分野の仕事に関する基礎知識における説明などを行います。さらに、実習におけるマナー講習(報告・連絡・相談)、対人関係のコミュニケーションの取り方、敬語表現などの重要性を説明します。その後、地域創成農学の食農関連産業での実習を行います。実習終了後において、実習内容のレポート作成し、体験を発表会で報告します。</p>							
評価方法	実習評価と実習報告書(50%)、授業態度(20%)、インターンシップ報告報告(30%)の総合評価。							
履修条件・注意事項	初回から必ず参加のこと。講義の欠席者は補講を受けなければ実習に参加できません。企業での実習を休んだ場合には、再実習による単位認定となります。健康管理と怪我等に注意のこと。							
自己学習	講義においては、毎回の指示に従って予習と復習を行うこと。実習では内容を予習してから実習に望むこと。また、毎日実習日誌に担当者から受けたコメントに対して復習し翌日に備えます。							
フォロー	授業終了後教室にて							

春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1.インターンシップの説明	講義	山本				
2.インターンシップの取り組みの意義	講義	山本				
3.仕事に対する自覚と責任	講義	山本				
4.インターンシップの体験学習の注意点	講義	山本				
5.企業選出ビジネスマナー	講義	山本				
6.インターンシップ先の企業とのマッチング、実習心得	講義	山本				
7.インターンシップ実習(企業により内容が異なる)	実習	外部講師				
8.インターンシップ実習(企業により内容が異なる)	実習	外部講師				
9.インターンシップ実習(企業により内容が異なる)	実習	外部講師				
10.インターンシップ実習(企業により内容が異なる)	実習	外部講師				
11.インターンシップ実習(企業により内容が異なる)	実習	外部講師				
12.インターンシップ実習(企業により内容が異なる)	実習	外部講師				
13.インターンシップ実習(企業により内容が異なる)	実習	外部講師				
14.インターンシップ実習(企業により内容が異なる)	実習	外部講師				
15.インターンシップ実習報告発表	報告会	山本				
教科書 1	インターンシップの手引きを配布					
教科書 2						
参考書 1	必要に応じて講義の中で紹介					
参考書 2						

授業科目名	食農コープ実習					履修期	2021年度 春学期		
担当者	山本 慶子						NO.	AG-AR-4-602	
配当学科	地域創成農					年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義・実習		
テーマと到達目標	食農コープ実習は、地域創成農学科で習得した専門知識と関連する分野での就業体験を通して食農関連産業の理解を深めます。さらに、自分に適した職業進路を選択する能力を身に付けることを目的とします。就業体験を通して社会や職場が求める人間像について考え、将来の職業人としての必要な知識・情報を理解し、基本教養を身に付けることを到達目標とします。								
概要	食農コープ実習は、食農関連産業における就業体験を通して社会人基礎力を身に付け、卒業後の仕事をスムーズに導入できる事前知識と情報を獲得し、就職におけるミスマッチを防ぐことを目的としています。授業による事前学習内容は、コープ教育の理念、食農コープ実習プログラムの内容に関する説明等を行います。最後に、食農コープ実習の心構え、マナー講習、「報告・連絡・相談」の重要性とリスク対応法について説明します。その後実際に食農関連産業での実習を行います。事後学修では実習の内容をレポート作成し、食農コープ実習の体験を発表会で報告します。 ＊実務経験のある教員による授業科目 この科目は、学外実習で、実践的教育から構成された科目です。								
評価方法	実習評価(50%)、授業態度(10%)、実習報告書(20%)、食農コープ実習報告会での発表(20%)を総合的に評価します。								
履修条件・注意事項	初回から必ず参加してください。講義の欠席者は補講を受けなければ実習に参加できません。実習を休んだ場合には、再実習を行わないと単位を認定しません。コープ実習から得られること、食農関連分野の仕事に関する基礎知識に関する説明を行います。最後に、食農実習の心構え、マナー講習、「報告・連絡・相談」の重要性とリスク対応方法について説明します。								
自己学習	講義では、毎回指示に従って予習と復習を行うこと。実習では内容を予習してから実習に臨むこと。また、実習期間中は毎日実習日に担当者から受けたコメントを記入し、復習し翌日に備えてください。								
オフィスワ-	講義の後に行います。								

春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
第1回 食農コープ教育の説明： コープ教育の理念と食農コープの実 習プログラムの概要説明		講義	山本慶子			
第2回 食農コープ実習の内容ーその 1:食農コープ実習に向けた目標と仮 説設定		講義	河村能夫			
第3回 食農コープ実習の内容ーその 2:食農コープ実習から得られること		講義	河村能夫			
第4回 食農コープ実習の内容ーその 3:事前学習:職業・仕事の説明		講義	盛野元			
第5回 食農コープ実習の内容ーその 4:事前学習:職業・仕事の説明		講義	函城悦司			
第6回 食農コープ実習先の説明と心 構え		講義	山本慶子			
第7回 食農コープ実習(企業により内 容が異なる)		実習	外部講師			
第8回 食農コープ実習(企業により内 容が異なる)		実習	外部講師			
第9回 食農コープ実習(企業により内 容が異なる)		実習	外部講師			
第10回 食農コープ実習(企業により 内容が異なる)		実習	外部講師			
第11回 食農コープ実習(企業により 内容が異なる)		実習	外部講師			
第12回 食農コープ実習(企業により 内容が異なる)		実習	外部講師			
第13回 食農コープ実習(企業により 内容が異なる)		実習	外部講師			
第14回 食農コープ実習(企業により 内容が異なる)		実習	外部講師			
第15回 食農コープ実習(企業により 内容が異なる)		実習	外部講師			
第16回 食農コープ実習報告会		報告会	山本慶子			
教科書 1						
教科書 2						
参考書 1	黒越誠治著『使えるインターンシップ』日経BP社、2008年。 著者:高良和武監修『インターンシップとキャリア』学分社、2007年。					
参考書 2						

授業科目名		地域創成農学演習 I				履修期		2021年度 春学期		
担当者		谷坂 隆俊						NO.	AR-AR-3-514	
配当学科		地域創成農				年次		3		
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標		学生が穀物や蔬菜、花卉等の過去の育種例を学術論文より学び、卒論研究の背景となる基礎知識を身につけることを目標とする。								
概要		各学生の研究テーマに沿った科学論文(英文)を読解し、A4用紙2ページ程度に日本語でまとめてゼミ発表を行う。発表後に質疑応答を行い、学生が論文を正しく理解できているかの確認を行う。								
評価方法		プレゼンテーション(70点)および講義態度(30点)により総合評価する。								
履修条件・注意事項		特になし。								
自己学習		各自が選んだ科学論文を読解し、日本語で要約しておくこと。これらの準備に計15時間程度を要する。								
オフィスアワー		個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分に実施。								
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. 育種(品種改良)とは 2. 育種目標の立て方 3. 多収化の例(緑の革命) 4. 多収化の例(りんごの例) 5. 多収化の例(トマトの例) 6. 地域適応性の例(イネの例) 7. 地域適応生の例(大豆の例) 8. ストレス耐性育種(アルカリ土状) 9. ストレス耐性育種(塩害土壌) 10. ストレス耐性育種(いもち病) 11. 成分改変育種(製パン適正) 12. 成分改変育種(食味向上) 13. 成分改変育種(機能性成分) 14. 成分改変育種(脂質含量) 15. 今後の品種改良について			演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」		桧原・谷坂・ 許・氷見					
教科書 1										
教科書 2										
参考書 1										
参考書 2										

授業科目名		地域創成農学演習 I				履修期		2021年度 春学期							
担当者		桧原 健一郎						NO.		AG-AR-3-603					
配当学科		地域創成農				年次		3							
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30		授業形態		演習					
テーマと到達目標		学生が穀物や蔬菜、花卉等の過去の育種例を学術論文より学び、卒論研究の背景となる基礎知識を身につけることを目標とする。													
概要		各学生の研究テーマに沿った科学論文(英文)を読解し、A4用紙2ページ程度に日本語でまとめてゼミ発表を行う。発表後に質疑応答を行い、学生が論文を正しく理解できているかの確認を行う。													
評価方法		プレゼンテーション(70点)および講義態度(30点)により総合評価する。													
履修条件・注意事項		特になし。													
自己学習		各自が選んだ科学論文を読解し、日本語で要約しておくこと。これらの準備に計15時間程度を要する。													
オフィスアワー		個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分に実施。													
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
1. 育種(品種改良)とは 2. 育種目標の立て方 3. 多収化の例(緑の革命) 4. 多収化の例(りんごの例) 5. 多収化の例(トマトの例) 6. 地域適応性の例(イネの例) 7. 地域適応生の例(大豆の例) 8. ストレス耐性育種(アルカリ土状) 9. ストレス耐性育種(塩害土壌) 10. ストレス耐性育種(いもち病) 11. 成分改変育種(製パン適正) 12. 成分改変育種(食味向上) 13. 成分改変育種(機能性成分) 14. 成分改変育種(脂質含量) 15. 今後の品種改良について				演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」		桧原・谷坂・ 許・氷見									
教科書 1															
教科書 2															
参考書 1															
参考書 2															

授業科目名		地域創成農学演習 I				履修期		2021年度 春学期					
担当者		氷見 英子							NO.	AG-AR-3-603			
配当学科		地域創成農				年次		3					
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30		授業形態		演習			
テーマと到達目標		学生が穀物や蔬菜、花卉等の過去の育種例を学術論文より学び、卒論研究の背景となる基礎知識を身につけることを目標とする。											
概要		各学生の研究テーマに沿った科学論文(英文)を読解し、パワーポイントにまとめてゼミ発表を行う。発表後に質疑応答を行い、学生が論文を正しく理解できているかの確認を行う。											
評価方法		プレゼンテーション(70点)および講義態度(30点)により総合評価する。											
履修条件・注意事項		特になし。											
自己学習		各自が選んだ科学論文を読解し、日本語で要約しておくこと。これらの準備に計15時間程度を要する。											
オフィスアワー		事前にアポイントを取れば、対応する。											
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
1. 育種(品種改良)とは 2. 育種目標の立て方 3. 多収化の例(緑の革命) 4. 多収化の例(りんごの例) 5. 多収化の例(トマトの例) 6. 地域適応性の例(イネの例) 7. 地域適応生の例(大豆の例) 8. ストレス耐性育種(アルカリ土状) 9. ストレス耐性育種(塩害土壌) 10. ストレス耐性育種(いもち病) 11. 成分改変育種(製パン適正) 12. 成分改変育種(食味向上) 13. 成分改変育種(機能性成分) 14. 成分改変育種(脂質含量) 15. 今後の品種改良について			演習 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥		桧原・谷坂・ 許・氷見								
教科書 1													
教科書 2													
参考書 1													
参考書 2													

0571000004

授業科目名		地域創成農学演習 I				履修期		2021年度 春学期							
担当者		許 冲						NO.		AG-AR-3-603					
配当学科		地域創成農				年次		3							
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30		授業形態		演習					
テーマと到達目標		学生が穀物や蔬菜、花卉等の過去の育種例を学術論文より学び、卒論研究の背景となる基礎知識を身につけることを目標とする。													
概要		各学生の研究テーマに沿った科学論文(英文)を読解し、パワーポイントにまとめてゼミ発表を行う。発表後に質疑応答を行い、学生が論文を正しく理解できているかの確認を行う。													
評価方法		プレゼンテーション(70点)および講義態度(30点)により総合評価する。													
履修条件・注意事項		特になし。													
自己学習		各自が選んだ科学論文を読解し、日本語で要約しておくこと。これらの準備に計15時間程度を要する。													
オフィスアワー		個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分に実施。													
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
1. 育種(品種改良)とは 2. 育種目標の立て方 3. 多収化の例(緑の革命) 4. 多収化の例(りんごの例) 5. 多収化の例(トマトの例) 6. 地域適応性の例(イネの例) 7. 地域適応生の例(大豆の例) 8. ストレス耐性育種(アルカリ土状) 9. ストレス耐性育種(塩害土壌) 10. ストレス耐性育種(いもち病) 11. 成分改変育種(製パン適正) 12. 成分改変育種(食味向上) 13. 成分改変育種(機能性成分) 14. 成分改変育種(脂質含量) 15. 今後の品種改良について				演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」		桧原・谷坂・ 許・氷見									
教科書 1															
教科書 2															
参考書 1															
参考書 2															



春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介①	AL	相野				
2. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介②	AL	相野				
3. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介③	AL	相野				
4. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介④	AL	相野				
5. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑤	AL	相野				
6. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑥	AL	相野				
7. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑦	AL	相野				
8. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑧	AL	相野				
9. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑨	AL	相野				
10. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑩	AL	相野				
11. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑪	AL	相野				
12. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑫	AL	相野				
13. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑬	AL	相野				
14. 教員による研究紹介①	AL	相野				
15. 教員による研究紹介②	AL	相野				
教科書 1	植物病理学 著者: 眞山滋志・難波成任(編) 出版社: 文永堂出版					
教科書 2	植物医科学 出版社: 養賢堂					
参考書 1	植物防疫 出版社: 日本植物防疫協会					
参考書 2	Phytopathology, Plant Disease ほか 出版社: 米国植物病理学会					

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介①	AL	村上			
2. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介②	AL	村上			
3. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介③	AL	村上			
4. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介④	AL	村上			
5. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑤	AL	村上			
6. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑥	AL	村上			
7. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑦	AL	村上			
8. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑧	AL	村上			
9. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑨	AL	村上			
10. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑩	AL	村上			
11. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑪	AL	村上			
12. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑫	AL	村上			
13. 学生による卒業論文研究テーマと研究計画の紹介⑬	AL	村上			
14. 教員による研究紹介①	AL	村上			

教科書 1	植物病理学 著者: 眞山滋志・難波成任(編) 出版社: 文永堂出版
教科書 2	植物医科学 出版社: 養賢堂
参考書 1	植物防疫 出版社: 日本植物防疫協会
参考書 2	Phytopathology, Plant Disease ほか 出版社: 米国植物病理学会



授業科目名		地域創成農学演習 I				履修期		2021年度 春学期						
担当者		濱島 敦博						NO.	AR-AR-3-514					
配当学科		地域創成農				年次		3						
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30		授業形態		演習				
テーマと到達目標		「地域創成農学」をテーマとして理論的考察や実践の方法について学ぶ。各専任教員の専門領域に応じた各自の研究テーマ設定を視野に入れ、各専門領域における一般テキスト等を精読し、学術論文を読みこなすための予備知識を身につける。また、関連する学術論文の講読を通じて自己の関心の所在を特定していく。												
概要		日本や世界の農業生産、食料消費、農産物貿易等に関連するテキストや『食料・農業・農村白書』、『世界食料農業白書』等を講読し、基礎的な理論、知識を習得する。ついで、食料・農業・農村問題に関する学術論文や関連情報を検索、収集する訓練を行うとともに、文献を読みこなし、各自が関心のあるテーマについてレポートを作成する。また、食料・農業・農村問題に関する聞き取り調査やアンケート調査を南あわじ市等で実施し、その結果を分析してレポートにまとめ、発表する訓練を行う。こうした学習を踏まえ、卒業論文の作成に振りかかり、中間発表を行いプレゼンテーション能力やディベート能力を身につける。												
評価方法		レポート、発表、ゼミでの態度等を総合的に評価する。												
履修条件・注意事項														
自己学習		関連文献の読みこみを積極的に自ら行う。												
オフィスアワー		火曜日4限、木曜日2限。A402号室												
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
第1回 オリエンテーション				AL		濱島								
第2回 テキスト輪読(第一章)				AL		濱島								
第3回 同上(第二章)				AL		濱島								
第4回 同上(第三章)				AL		濱島								
第5回 同上(第四章)				AL		濱島								
第6回 同上(第五章)				AL		濱島								
第7回 同上(第六章)				AL		濱島								
第8回 同上(第七章)				AL		濱島								
第9回 学術論文の読解(1)論文を読む意味				AL		濱島								
第10回 学術論文の読解(2)論文収集・検索の方法				AL		濱島								
第11回 学術論文の読解(3)論文の読み方				AL		濱島								
第12回 学術論文の読解(4)レジュメの切り方				AL		濱島								
第13回 学術論文の読解(5)発表の仕方				AL		濱島								
第14回 学術論文の読解(6)質疑応答の仕方				AL		濱島								
第15回 総括				AL		濱島								
教科書 1														
教科書 2														
参考書 1														
参考書 2														

授業科目名	地域創成農学演習 I				履修期	2021年度 春学期		
担当者	末吉 秀二					NO.	AR-AR-3-514	
配当学科	地域創成農				年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	本演習は卒業論文を作成するための準備期間にあたる。各自が興味・関心のあるテーマについて、文献および先行研究を検索・収集し、内容を十分に理解することができるようになる。							
概要	各自興味・関心のあるテーマにもとづき、文献および先行研究を検索・収集する。							
評価方法	到達目標を計るため、課題レポート(50%)および発表(50%)により総合的に評価する。							
履修条件・注意事項	欠席、遅刻する場合は、必ず事前に連絡すること。							
自己学習	授業計画をもとに予習・復習をすること。							
オフィスアワー	(水)11:00～13:00							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1 オリエンテーション 2 個別面接(1) 3 個別面接(2) 4 グループディスカッション 5 文献および先行研究の検索方法 6 文献および先行研究の検索(1) 7 文献および先行研究の検索(2) 8 文献および先行研究の入手方法 9 文献および先行研究の入手(1) 10 文献および先行研究の入手(2) 11 文献および先行研究の収集と整理 12 発表準備 13 発表会 14 まとめ		演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員					
教科書 1	適宜指定する。							
教科書 2								
参考書 1	適宜指定する。							
参考書 2								

0577000077

授業科目名		地域創成農学演習 I				履修期	2021年度 春学期			
担当者		森野 真理						NO.	AG-AR-3-603	
配当学科		地域創成農				年次	3			
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30		授業形態	演習	
テーマと到達目標		本演習は卒業論文を作成するための準備期間にあたる。各自が興味・関心のあるテーマについて、文献および先行研究を検索・収集し、内容を十分に理解することを到達目標とする。								
概要		各自興味・関心のあるテーマにもとづき、文献および先行研究を検索・収集する。								
評価方法		課題レポート(50%)および発表(50%)を総合的に評価する。								
履修条件・注意事項		欠席、遅刻する場合は、必ず事前に連絡すること。								
自己学習		授業計画をもとに予習・復習をすること。								
オフィスアワー		(水)11:00～13:00								
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法	担当者
1 オリエンテーション 2 個別面接(1) 3 個別面接(2) 4 グループディスカッション 5 文献および先行研究の検索方法 6 文献および先行研究の検索(1) 7 文献および先行研究の検索(2) 8 文献および先行研究の入手方法 9 文献および先行研究の入手(1) 10 文献および先行研究の入手(2) 11 文献および先行研究の収集と整理 12 発表準備 13 発表準備 14 発表会 15 まとめ			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習		担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員					
教科書 1		適宜指定する。								
教科書 2										
参考書 1		適宜指定する。								
参考書 2										

0577000012

授業科目名				地域創成農学演習 I				履修期		2021年度 春学期					
担当者				平井 順						NO.		AG-AR-3-603			
配当学科				地域創成農				年次		3					
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30		授業形態		演習					
テーマと到達目標		本演習は卒業論文を作成するための準備期間にあたる。各自が興味・関心のあるテーマについて、文献および先行研究を検索・収集し、内容を十分に理解することを到達目標とする。													
概要		各自興味・関心のあるテーマにもとづき、文献および先行研究を検索・収集する。													
評価方法		課題レポート(50%)および発表(50%)を総合的に評価する。													
履修条件・注意事項		欠席、遅刻する場合は、必ず事前に連絡すること。													
自己学習		授業計画をもとに予習・復習をすること。													
オフィスアワー		毎週水曜日2限目(11:10-12:40)をオフィスアワーの時間とする。ただし第3水曜日を除く。													
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
01 オリエンテーション 02 社会生態学(1)-理論 03 社会生態学(2)-事例 04 社会生態学(3)-応用 05 社会環境学(1)-理論 06 社会環境学(2)-事例 07 社会環境学(3)-応用 08 地域社会学(1)-理論 09 地域社会学(2)-事例 10 地域社会学(3)-応用 11 グループディスカッション 12 先行研究の検索方法 13 先行研究の入手方法 14 先行研究の収集整理 15 まとめ				演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習		担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員									
教科書 1		適宜指定する。													
教科書 2															
参考書 1															
参考書 2															

授業科目名		地域創成農学演習Ⅱ				履修期		2021年度 秋学期		
担当者		谷坂 隆俊						NO.	AR-AR-3-515	
配当学科		地域創成農				年次		3		
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標		学生が自殖作物や他殖作物の品種改良の原理を学術論文より学び、卒論研究の背景となる基礎知識を身につけることを目標とする。								
概要		各学生の研究テーマに沿った科学論文(英文)を読解し、パワーポイントにまとめてゼミ発表を行う。発表後に質疑応答を行い、学生が論文を正しく理解できているかの確認を行う。								
評価方法		プレゼンテーション(70点)および講義態度(30点)により総合評価する。								
履修条件・注意事項		特になし。								
自己学習		各自が選んだ科学論文を読解し、日本語で要約しておくこと。これらの準備に計15時間程度を要する。								
オフィスアワー		個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分に実施。								
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法	担当者
							1. 育種計画の立て方 2. 交配育種(系統育種法) 3. 交配育種(固定世代選抜法) 4. 交配育種(戻し交配育種法) 5. 交配育種(集団改良法) 6. 突然変異育種(中性子線) 7. 突然変異育種(ガンマ線) 8. 突然変異育種(EMS処理) 9. 突然変異育種(MNU処理) 10. 倍数性育種(コルヒチン処理) 11. 栽培試験(大豆の例) 12. 収量調査(イネの例) 13. 品種登録機関 14. 育種家の権利 15. 今後の品種改良について		演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」	桧原・谷坂・ 許・氷見
教科書 1										
教科書 2										
参考書 1										
参考書 2										



授業科目名		地域創成農学演習Ⅱ				履修期		2021年度 秋学期		
担当者		桧原 健一郎						NO.	AG-AR-3-604	
配当学科		地域創成農				年次		3		
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標		学生が自殖作物や他殖作物の品種改良の原理を学術論文より学び、卒論研究の背景となる基礎知識を身につけることを目標とする。								
概要		各学生の研究テーマに沿った科学論文(英文)を読解し、パワーポイントにまとめてゼミ発表を行う。発表後に質疑応答を行い、学生が論文を正しく理解できているかの確認を行う。								
評価方法		プレゼンテーション(70点)および講義態度(30点)により総合評価する。								
履修条件・注意事項		特になし。								
自己学習		各自が選んだ科学論文を読解し、日本語で要約しておくこと。これらの準備に計15時間程度を要する。								
オフィスアワー		個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分に実施。								
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法	担当者
							1. 育種計画の立て方 2. 交配育種(系統育種法) 3. 交配育種(固定世代選抜法) 4. 交配育種(戻し交配育種法) 5. 交配育種(集団改良法) 6. 突然変異育種(中性子線) 7. 突然変異育種(ガンマ線) 8. 突然変異育種(EMS処理) 9. 突然変異育種(MNU処理) 10. 倍数性育種(コルヒチン処理) 11. 栽培試験(大豆の例) 12. 収量調査(イネの例) 13. 品種登録機関 14. 育種家の権利 15. 今後の品種改良について		演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」	桧原・谷坂・ 許・氷見
教科書 1										
教科書 2										
参考書 1										
参考書 2										

授業科目名		地域創成農学演習Ⅱ				履修期		2021年度 秋学期					
担当者		氷見 英子						NO.	AG-AR-3-604				
配当学科		地域創成農				年次		3					
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30	授業形態		演習				
テーマと到達目標		学生が自殖作物や他殖作物の品種改良の原理を学術論文より学び、卒論研究の背景となる基礎知識を身につけることを目標とする。											
概要		各学生の研究テーマに沿った科学論文(英文)を読解し、パワーポイントにまとめてゼミ発表を行う。発表後に質疑応答を行い、学生が論文を正しく理解できているかの確認を行う。											
評価方法		プレゼンテーション(70点)および講義態度(30点)により総合評価する。											
履修条件・注意事項		特になし。											
自己学習		各自が選んだ科学論文を読解し、日本語で要約しておくこと。これらの準備に計15時間程度を要する。											
オフィスアワー		事前にアポイントを取れば、対応する。											
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
							1. 育種計画の立て方 2. 交配育種(系統育種法) 3. 交配育種(固定世代選抜法) 4. 交配育種(戻し交配育種法) 5. 交配育種(集団改良法) 6. 突然変異育種(中性子線) 7. 突然変異育種(ガンマ線) 8. 突然変異育種(EMS処理) 9. 突然変異育種(MNU処理) 10. 倍数性育種(コルヒチン処理) 11. 栽培試験(大豆の例) 12. 収量調査(イネの例) 13. 品種登録機関 14. 育種家の権利 15. 今後の品種改良について			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習		桧原・谷坂・ 許・氷見	
教科書 1													
教科書 2													
参考書 1													
参考書 2													

授業科目名		地域創成農学演習Ⅱ				履修期		2021年度 秋学期		
担当者		許 冲						NO.	AG-AR-3-604	
配当学科		地域創成農				年次		3		
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標		学生が自殖作物や他殖作物の品種改良の原理を学術論文より学び、卒論研究の背景となる基礎知識を身につけることを目標とする。								
概要		各学生の研究テーマに沿った科学論文(英文)を読解し、パワーポイントにまとめてゼミ発表を行う。発表後に質疑応答を行い、学生が論文を正しく理解できているかの確認を行う。								
評価方法		プレゼンテーション(70点)および講義態度(30点)により総合評価する。								
履修条件・注意事項		特になし。								
自己学習		各自が選んだ科学論文を読解し、日本語で要約しておくこと。これらの準備に計15時間程度を要する。								
オフィスアワー		個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分に実施。								
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法	担当者
							1. 育種計画の立て方 2. 交配育種(系統育種法) 3. 交配育種(固定世代選抜法) 4. 交配育種(戻し交配育種法) 5. 交配育種(集団改良法) 6. 突然変異育種(中性子線) 7. 突然変異育種(ガンマ線) 8. 突然変異育種(EMS処理) 9. 突然変異育種(MNU処理) 10. 倍数性育種(コルヒチン処理) 11. 栽培試験(大豆の例) 12. 収量調査(イネの例) 13. 品種登録機関 14. 育種家の権利 15. 今後の品種改良について		演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」	桧原・谷坂・ 許・氷見
教科書 1										
教科書 2										
参考書 1										
参考書 2										

授業科目名	地域創成農学演習Ⅱ				履修期	2021年度 秋学期		
担当者	相野 公孝					NO.	AG-AR-3-604	
配当学科	地域創成農				年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	植物病理学の基礎および応用分野における解決すべき研究課題について、国内外の学術論文・雑誌の輪読を基に相互ディスカッションを通じて、理解を深める。また、淡路島特産の農作物であるタマネギやレタスをはじめ野菜、イネ、花卉、果樹などに発生する病害の診断を行うとともに、発生状況の実態把握を行う。さらに、地元の農業関係試験研究機関や普及組織、農協等から情報収集を行い、より安全で低環境負荷を指向した病害防除法の開発に繋がる研究課題を取り上げる。以上を踏まえ、次の3項目を達成することを目標とする。(1)各自が解決したい研究課題を選択決定できること。(2)それを追求するための実験計画の立案(目的、実験材料及び方法、結果の評価法など)、実験遂行のための方法と技術習得ができること。(3) 結果の解析・評価法、考察評価のあり方について学び、論文の書式についても理解すること。							
概要	植物病理学の基礎および応用分野における解決すべき研究課題について、国内外の学術論文・雑誌の輪読を基に相互ディスカッションを通じて、理解を深める。また、淡路島特産の農作物であるタマネギやレタスをはじめ野菜、イネ、花卉、果樹などに発生する病害の診断を行うとともに、発生状況の実態把握を行う。さらに、地元の農業関係試験研究機関や普及組織、農協等から情報収集を行い、より安全で低環境負荷を指向した病害防除法の開発に繋がる研究課題を取り上げる。以上を踏まえ、次の3項目を達成することを目標とする。(1)各自が解決したい研究課題を選択決定できること。(2)それを追求するための実験計画の立案(目的、実験材料及び方法、結果の評価法など)、実験遂行のための方法と技術習得ができること。(3) 結果の解析・評価法、考察評価のあり方について学び、論文の書式についても理解すること。							
評価方法	到達目標1～3の成果による評価(30%)に加え、論文の抄録発表やレポートによる評価(20%)、実験の遂行による成果(50%)などを総合的に考慮して評価する。							
履修条件・注意事項	植物病理学分野に選考分属した学生を対象とする。							
自己学習	演習課題に関連する書籍や論文、教員より受けた説明内容などを1日あたり概ね2時間程度復習し、必要に応じて予習も心がける。							
オフィスアワー	個人研究室にて、通常は月曜日から木曜日までの午前中。ただし、アポイントを取ることが望ましい。							

春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
				1. 学生による卒業論文研究に関連した論文の紹介① 2. 学生による卒業論文研究に関連した論文の紹介② 3. 学生による卒業論文研究に関連した論文の紹介③ 4. 学生による卒業論文研究に関連した論文の紹介④ 5. 学生による卒業論文研究に関連した論文の紹介⑤ 6. 学生による卒業論文研究に関連した論文の紹介⑥ 7. 学生による卒業論文研究に関連した論文の紹介⑦ 8. 学生による卒業論文研究に関連した論文の紹介⑧ 9. 学生による卒業論文研究に関連した論文の紹介⑨ 10. 学生による卒業論文研究に関連した論文の紹介⑩ 11. 学生による卒業論文研究に関連した論文の紹介⑪ 12. 学生による卒業論文研究に関連した論文の紹介⑫ 13. 学生による卒業論文研究に関連した論文の紹介⑬ 14. 教員による研究紹介① 15. 教員による研究紹介②	AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野
教科書 1	植物病理学 著者:眞山滋志・難波成任(編) 出版社:文永堂出版					
教科書 2	植物医科学 著者:難波成任 出版社:養賢堂					
参考書 1	植物防疫 出版社:日本植物防疫協会					
参考書 2	Phytopathology, Plant Disease ほか 出版社:米国植物病理学会					





授業科目名	地域創成農学演習Ⅱ					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	濱島 敦博						NO.	AR-AR-3-515	
配当学科	地域創成農					年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	「4年次の卒業研究に必要な予備的な学習」をテーマとする。4年次の卒業研究を進めるにあたり、必要なスキル(資料収集及び読解、統計分析、フィールド調査等)を身に付けることを到達目標とする。								
概要	関心のあるテーマをについて、各自が関連文献(学術論文・資料・統計類など)を収集してまとめ、演習において発表する。また、必要とあらば、文献資料のみならず、フィールド調査の方法について学ぶ。								
評価方法	課題(レポート、発表等)50%、授業態度(出席、積極性等)50%								
履修条件・注意事項	欠席、遅刻をする場合は、前もって連絡すること。無断欠席及び遅刻は減点の対象とする。また、各講義内容を必ず復習すること。								
自己学習	関連文献の読みこみを積極的に自ら行う。								
オフィスアワー	火曜日4限、木曜日2限。A402号室。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1 オリエンテーション 2 関連文献の発表(1) 3 関連文献の発表(2) 4 関連文献の発表(3) 5 関連文献の発表(4) 6 関連文献の発表(5) 7 関連文献の発表(6) 8 関連文献の発表(7) 9 フィールドワークの方法 10 フィールドワーク実地研修(1) 11 フィールドワーク実地研修(2) 12 フィールドワーク実地研修の報告 13 卒業論文の研究計画の策定(1) 14 卒業論文の研究計画の策定(2) 15 まとめ			AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島
教科書 1	適宜、資料を配布する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									





授業科目名	地域創成農学演習Ⅱ					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	森野 真理						NO.	AG-AR-3-604	
配当学科	地域創成農					年次	3		
必修・選択		単位数	2	時間数	30	授業形態			
テーマと到達目標									
概要									
評価方法									
履修条件・注意事項									
自己学習									
オフィスアワー									
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	地域創成農学演習Ⅱ					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	平井 順						NO.	AG-AR-3-604	
配当学科	地域創成農					年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	本演習は演習Ⅰと同様に、文献および先行研究の検索・収集を行うとともに、研究テーマをより明確化することを到達目標とする。								
概要	各自の研究テーマとこれまで収集した文献および先行研究との関連を整理する。								
評価方法	課題レポート(50%)および発表(50%)を総合的に評価する。								
履修条件・注意事項	欠席、遅刻する場合は、必ず事前に連絡すること。								
自己学習	授業計画をもとに予習・復習すること。								
オフィスアワー	毎週水曜日2限目(11:10-12:40)をオフィスアワーの時間とする。ただし第3水曜日を除く。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1 オリエンテーション	演習 演習  演習  演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	平井 平井  平井  平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井		
					2 文献および先行研究の検索・収集(1)				
					3 文献および先行研究の検索・収集(2)				
					4 文献および先行研究の検索・収集(3)				
					5 文献および先行研究の整理(1)				
					6 文献および先行研究の整理(2)				
					7 研究テーマの検討(1)				
					8 研究テーマの検討(2)				
					9 研究テーマの設定				
					10 グループディスカッション				
					11 発表準備				
					12 発表準備				
					13 発表会				
					14 質疑応答				
					15 まとめ				
教科書 1	適宜指定する。								
教科書 2									
参考書 1	適宜指定する。								
参考書 2									

授業科目名	地域創成農学演習Ⅲ					履修期	2021年度 春学期		
担当者	谷坂 隆俊						NO.	AG-AR-4-605	
配当学科	地域創成農					年次	4		
必修・選択		単位数	2	時間数	30	授業形態			
テーマと到達目標									
概要									
評価方法									
履修条件・注意事項									
自己学習									
オフィスアワー									
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名		地域創成農学演習Ⅲ				履修期		2021年度 春学期							
担当者		桧原 健一郎							NO.	AG-AR-4-605					
配当学科		地域創成農				年次		4							
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30		授業形態		演習					
テーマと到達目標		遺伝解析や遺伝子単離の原理を学術論文より学び、卒論研究の背景となる基礎知識を身につけることを目標とする。													
概要		各学生の研究テーマに沿った科学論文(英文)を読解し、A4用紙2ページ程度に日本語でまとめてゼミ発表を行う。発表後に質疑応答を行い、学生が論文を正しく理解できているかの確認を行う。													
評価方法		プレゼンテーション(70点)および講義態度(30点)により総合評価する。													
履修条件・注意事項		特になし。													
自己学習		各自が選んだ科学論文を読解し、日本語で要約しておくこと。これらの準備に計15時間程度を要する。													
オフィスアワー		個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分に実施。													
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
1. メンデル遺伝の原理 2. 有糸分裂と減数分裂 3. 染色体の組み換え 4. 順遺伝学の原理 5. 逆遺伝学の原理 6. 量的形質座解析の原理 7. 染色体地図の作成 8. 集団遺伝学の原理 9. マップベースクローニングの原理 10. RFLPマーカーの原理 11. SSRマーカーの原理 12. クローニングの原理 13. 相補性検定による確認 14. 突然変異体の作出 15. CRISPRによる遺伝子破壊				演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習		桧原・谷坂・ 氷見・許									
教科書 1															
教科書 2															
参考書 1															
参考書 2															

授業科目名		地域創成農学演習Ⅲ				履修期		2021年度 春学期			
担当者		氷見 英子						NO.	AG-AR-4-605		
配当学科		地域創成農				年次		4			
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習			
テーマと到達目標		学生が遺伝解析や遺伝子単離の原理を学術論文より学び、卒論研究の背景となる基礎知識を身につけることを目標とする。									
概要		各学生の研究テーマに沿った科学論文(英文)を読解し、パワーポイントにまとめてゼミ発表を行う。発表後に質疑応答を行い、学生が論文を正しく理解できているかの確認を行う。									
評価方法		プレゼンテーション(70点)および講義態度(30点)により総合評価する。									
履修条件・注意事項		特になし。									
自己学習		各自が選んだ科学論文を読解し、日本語で要約しておくこと。これらの準備に計15時間程度を要する。									
オフィスアワー		事前にアポイントを取れば、対応する。									
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. メンデル遺伝の原理 2. 有糸分裂と減数分裂 3. 染色体の組み換え 4. 順遺伝学の原理 5. 逆遺伝学の原理 6. 量的形質座解析の原理 7. 染色体地図の作成 8. 集団遺伝学の原理 9. マップベースクローニングの原理 10. RFLPマーカーの原理 11. SSRマーカーの原理 12. クローニングの原理 13. 相補性検定による確認 14. 突然変異体の作出				演習 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥ 演習③⑥		桧原・谷坂・ 許・氷見					
教科書 1											
教科書 2											
参考書 1											
参考書 2											

授業科目名		地域創成農学演習Ⅲ				履修期		2021年度 春学期					
担当者		許 冲						NO.	AG-AR-4-605				
配当学科		地域創成農				年次		4					
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習					
テーマと到達目標		学生が遺伝解析や遺伝子単離の原理を学術論文より学び、卒論研究の背景となる基礎知識を身につけることを目標とする。											
概要		各学生の研究テーマに沿った科学論文(英文)を読解し、パワーポイントにまとめてゼミ発表を行う。発表後に質疑応答を行い、学生が論文を正しく理解できているかの確認を行う。											
評価方法		プレゼンテーション(70点)および講義態度(30点)により総合評価する。											
履修条件・注意事項		特になし。											
自己学習		各自が選んだ科学論文を読解し、日本語で要約しておくこと。これらの準備に計15時間程度を要する。											
オフィスアワー		個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分に実施。											
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画		授業方法		担当者	
1. メンデル遺伝の原理 2. 有糸分裂と減数分裂 3. 染色体の組み換え 4. 順遺伝学の原理 5. 逆遺伝学の原理 6. 量的形質座解析の原理 7. 染色体地図の作成 8. 集団遺伝学の原理 9. マップベースクローニングの原理 10. RFLPマーカーの原理 11. SSRマーカーの原理 12. クローニングの原理 13. 相補性検定による確認 14. 突然変異体の作出 15. CRISPRによる遺伝子破壊				演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」		桧原・谷坂・ 許・氷見							
教科書 1													
教科書 2													
参考書 1													
参考書 2													

春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 学生による卒業論文研究の進捗状況の紹介①	AL	相野				
2. 学生による卒業論文研究の進捗状況の紹介②	AL	相野				
3. 学生による卒業論文研究の進捗状況の紹介③	AL	相野				
4. 学生による卒業論文研究の進捗状況の紹介④	AL	相野				
5. 学生による卒業論文研究の進捗状況の紹介⑤	AL	相野				
6. 学生による卒業論文研究の進捗状況の紹介⑥	AL	相野				
7. 学生による卒業論文研究の進捗状況の紹介⑦	AL	相野				
8. 学生による卒業論文研究の進捗状況の紹介⑧	AL	相野				
9. 学生による卒業論文研究の進捗状況の紹介⑨	AL	相野				
10. 学生による卒業論文研究の進捗状況の紹介⑩	AL	相野				
11. 学生による卒業論文研究の進捗状況の紹介⑪	AL	相野				
12. 学生による卒業論文研究の進捗状況の紹介⑫	AL	相野				
13. 学生による卒業論文研究の進捗状況の紹介⑬	AL	相野				
14. 教員による研究紹介①	AL	相野				
15. 教員による研究紹介②	AL	相野				
教科書 1	植物病理学 著者:眞山滋志・難波成任(編) 出版社:文永堂出版					
教科書 2	植物医科学 著者:難波成任 出版社:養賢堂					
参考書 1	植物防疫 出版社:日本植物防疫協会					
参考書 2	Phytopathology, Plant Disease ほか 出版社:米国植物病理学会					





0571000207

授業科目名	地域創成農学演習Ⅲ					履修期	2021年度 春学期		
担当者	金沢 功						NO.	AG-AR-4-605	
配当学科	地域創成農					年次	4		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	学生は、卒業して社会に出ると、大学で学んだことを実践しなければならない。その実践内容は常に新しい情報で更新されなければならない。そこで、本演習を受講する学生は、食品化学と食品加工学に関わる最新情報を理解し、また、多様な情報の中から、信憑性が高い、利用できる必要な情報だけを選択取得する能力を身につけることを、本演習の目標とする。								
概要	学生が独自に、食品化学と食品加工学に関わる学術論文を検索して、重要と思えるものを入手し、それを精読して内容を要約して、第三者に伝える形式で、本演習で発表する。その発表を聞いていた学生は、発表の不明点、疑問点、問題点などを発表者に質問する。発表者はその質問に、議論の形式で回答する。教員はその質問が焦点を射ているか、回答が間違っていないかなどをコメントしつつ、説明が不十分な点を補足する。また、より詳細な最新情報があるなどを、講述する。 *実務経験のある教員による授業科目 本講義の食品化学、食品加工学分野、金沢は民間企業在籍時において日常的に実施していた項目であり、十分な実績を有している。								
評価方法	演習で学生が、信憑性が高く必要な情報を含んだ科学論文を選択する能力(25%)、その論文から必要情報を読解する能力(25%)、得た情報の内容を要約してプレゼンテーションする能力(25%)、また、他者の発表を聞いて要点を把握した質問をする能力(25%)から評価する。								
履修条件・注意事項	科学論文の検索方法と選択方法は説明するが、適切な科学論文は自身で選び出す。そして、科学論文は英文である。その際に、読みやすい、短い、簡単と思えるなどを選択基準にはしない。最新の重要情報であり、信憑性が高い論文であることを基準に選択する。								
自己学習	論文の検索だけでも数時間を必要とする。選択した論文を読解するには、経験が少ない学生たちは十数時間を必要とする。また、発表形式に要約してまとめるためにも数時間を要する。さらに、他の学生が発表した内容を理解して適切な質問をするという訓練にも数時間を要する。これらはすべて予習と復習である。								
オフィスアワー	演習後に演習室で自由な議論をする。								

春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
1. 科学論文の検索方法と検索範囲の説明 2. 科学論文の読解と内容の要約  3. 発表の仕方の説明とその訓練  4. 読解するための食品化学論文の選択 5. 科学論文発表の実例を紹介  6. 読解した食品化学論文の内容の学生AとBによる発表と質疑応答 7. 読解した食品化学論文の内容の学生CとDによる発表と質疑応答 8. 読解した食品化学論文の内容の学生EとFによる発表と質疑応答 9. 読解した食品化学論文の内容の学生GとHによる発表と質疑応答 10. 読解するための食品加工学論文の選択 11. 読解した食品加工学論文の内容の学生AとBによる発表と質疑応答 12. 読解した食品加工学論文の内容の学生CとDによる発表と質疑応答 13. 読解した食品加工学論文の内容の学生EとFによる発表と質疑応答 14. 読解した食品加工学論文の内容の学生GとHによる発表と質疑応答 15. 読解した食品加工学論文の内容のまとめと質疑応答		講義  講義  演習  演習  講義  演習  演習  演習  演習  演習  演習  講義	金沢功			
教科書 1	必要に応じて適切な最新の科学論文をコピーして配布する					
教科書 2						
参考書 1						
参考書 2						

授業科目名		地域創成農学演習Ⅲ				履修期		2021年度 春学期	
担当者		濱島 敦博						NO.	AR-AR-4-516
配当学科		地域創成農				年次		4	
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標		卒業論文の作成に向けて、研究に必要な基礎的知識（研究テーマの設定の仕方、調査・実証の方法、執筆の仕方、研究結果の発表の方法等）を学び、卒業論文に必要なスキルを身につけることを目標とする。							
概要		受講生は、独自の課題を設定し、それぞれの課題に応じた資料・文献を精読し、研究に必要な基礎概念・方法論、学術用語を学ぶ。また、実証に必要なスキル（現地調査、計量的解析、史料判読）をそれぞれの設定課題の必要性に応じて習得する。							
評価方法		課題（50％）、発表（50％）で評価する。							
履修条件・注意事項		課題提出（50％）及び発表（50％）によって評価する。							
自己学習		関連文献の読みこみを積極的に自ら行う。							
オフィスアワー		火曜日4限、木曜日2限。A402号室。							
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1.オリエンテーション 2.研究計画の発表（課題設定） 3.研究計画の発表（実証方法） 4・データの集め方 5.史資料の集め方 6.データの計量的処理の仕方 7.史資料の読み方 8.研究計画の発表（課題設定の再検討） 9.研究計画の発表（実証方法の再検討） 10.データ収集調査 11.史資料収集調査 12.収集データの検討 13.収集史資料の検討 14.研究の方向性の確認 15.総括			AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島 濱島					
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名				地域創成農学演習Ⅲ				履修期		2021年度 春学期							
担当者				末吉 秀二						NO.	AR-AR-4-516						
配当学科				地域創成農				年次		4							
必修・選択				必修	単位数	2		時間数		30		授業形態		演習			
テーマと到達目標				卒業論文を書くために必要な先行研究を収集し内容を理解できるようになる。													
概要				地域創生農学演習ⅠおよびⅡにおいて設定した研究テーマについて、論文作成に必要な先行研究を収集し読み込む作業を行う。													
評価方法				到達目標を計るため、課題レポート(30%)、発表(20%)、授業における積極性(50%)により、総合的に評価する。													
履修条件・注意事項				欠席、遅刻をする場合は、前もって連絡すること。													
自己学習				個別指導をもとに予習・復習すること。													
オフィスアワー				月曜日・金曜日(3限、5限)													
春学期授業計画						授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
1 オリエンテーション 2 研究計画の発表(課題設定) 3 研究計画の発表(実証方法) 4 データの集め方 5 2次資料の集め方 6 データの計量的処理の仕方 7 2次資料の読み方 8 研究計画の発表(課題設定の再検討) 9 研究計画の発表(実証方法の再検討) 10 データ収集調査 11 2次資料収集調査 12 データの検討 13 2次資料の検討 14 研究の方向性の確認						講義 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習		末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉									
教科書 1																	
教科書 2																	
参考書 1																	
参考書 2																	

授業科目名	地域創成農学演習Ⅲ					履修期	2021年度 春学期		
担当者	森野 真理						NO.	AG-AR-4-605	
配当学科	地域創成農					年次	4		
必修・選択		単位数	2	時間数	30	授業形態			
テーマと到達目標									
概要									
評価方法									
履修条件・注意事項									
自己学習									
オフィスアワー									
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

0577000212

授業科目名		地域創成農学演習Ⅲ				履修期		2021年度 春学期							
担当者		平井 順						NO.		AG-AR-4-605					
配当学科		地域創成農				年次		4							
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	30		授業形態		演習					
テーマと到達目標		本演習は卒業論文を作成するための実施期間にあたる。各自が興味・関心のあるテーマについて、文献および先行研究を探索・収集し、内容を十分に理解することを到達目標とする。													
概要		各自興味・関心のあるテーマにもとづき、文献および先行研究を探索・収集する。													
評価方法		課題レポート(50%)および発表(50%)を総合的に評価する。													
履修条件・注意事項		欠席、遅刻する場合は、必ず事前に連絡すること。													
自己学習		授業計画をもとに予習・復習すること。													
オフィスアワー		毎週水曜日2限目(11:10-12:40)をオフィスアワーの時間とする。ただし第3水曜日を除く。													
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画				授業方法		担当者	
01 オリエンテーション 02 個別相談(1) 03 個別相談(2) 04 研究テーマの表明 05 学術的先行研究の検索方法 06 学術的先行研究の検索(1) 07 学術的先行研究の検索(2) 08 学術的先行研究の入手方法 09 学術的先行研究の入手(1) 10 学術的先行研究の入手(2) 11 学術的先行研究の収集整理 12 学術的発表準備(1) 13 学術的発表準備(2) 14 発表会 15 まとめ				演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習		平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井									
教科書 1		適宜指定する。													
教科書 2															
参考書 1		適宜指定する。													
参考書 2															

授業科目名	地域創成農学演習Ⅳ					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	谷坂 隆俊						NO.	AG-AR-4-606	
配当学科	地域創成農					年次	4		
必修・選択		単位数	2	時間数	30	授業形態			
テーマと到達目標									
概要									
評価方法									
履修条件・注意事項									
自己学習									
オフィスワ-									
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	地域創成農学演習Ⅳ					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	桧原 健一郎						NO.	AG-AR-4-606	
配当学科	地域創成農					年次	4		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	学生が遺伝子組換え作物の具体例や作出方法の原理を学術論文より学び、卒論研究の背景となる基礎知識を身につけることを目標とする。								
概要	各学生の研究テーマに沿った科学論文(英文)を読解し、パワーポイントにまとめてゼミ発表を行う。発表後に質疑応答を行い、学生が論文を正しく理解できているかの確認を行う。								
評価方法	プレゼンテーション(70点)および講義態度(30点)により総合評価する。								
履修条件・注意事項	特になし。								
自己学習	各自が選んだ科学論文を読解し、日本語で要約しておくこと。これらの準備に計15時間程度を要する。								
オフィスアワー	個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分に実施。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1. 遺伝子組換え作物とは 2. 遺伝子組換え作物の普及率 3. 除草剤抵抗性の原理 4. 害虫抵抗性の原理 5. 遺伝子組換え作物の安全性 6. 検疫検査センターにおける試験 7. 遺伝子組換え作物の作出 8. クローニングの原理 9. パーティクルガン法の原理 10. ウィスカー法の原理 11. アグロバクテリウム法の原理 12. イネの形質転換(カルス作成) 13. イネの形質転換(共存培養) 14. イネの形質転換(再分化) 15. マーカー遺伝子の作用機序			演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」	桧原・許・谷 坂・氷見
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	地域創成農学演習Ⅳ					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	氷見 英子						NO.	AG-AR-4-606	
配当学科	地域創成農					年次	4		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	学生が遺伝子組換え作物の具体例や作出方法の原理を学術論文より学び、卒論研究の背景となる基礎知識を身につけることを目標とする。								
概要	各学生の研究テーマに沿った科学論文(英文)を読解し、パワーポイントにまとめてゼミ発表を行う。発表後に質疑応答を行い、学生が論文を正しく理解できているかの確認を行う。								
評価方法	プレゼンテーション(70点)および講義態度(30点)により総合評価する。								
履修条件・注意事項	特になし。								
自己学習	各自が選んだ科学論文を読解し、日本語で要約しておくこと。これらの準備に計15時間程度を要する。								
オフィスアワー	個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分に実施。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1. 遺伝子組換え作物とは 2. 遺伝子組換え作物の普及率 3. 除草剤抵抗性の原理 4. 害虫抵抗性の原理 5. 遺伝子組換え作物の安全性 6. 検疫検査センターにおける試験 7. 遺伝子組換え作物の作出 8. クローニングの原理 9. パーティクルガン法の原理 10. ウィスカー法の原理 11. アグロバクテリウム法の原理 12. イネの形質転換(カルス作成) 13. イネの形質転換(共存培養) 14. イネの形質転換(再分化) 15. マーカー遺伝子の作用機序			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	桧原・許・谷 坂・氷見
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									



授業科目名	地域創成農学演習Ⅳ					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	許 冲						NO.	AG-AR-4-606	
配当学科	地域創成農					年次	4		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	学生が遺伝子組換え作物の具体例や作出方法の原理を学術論文より学び、卒論研究の背景となる基礎知識を身につけることを目標とする。								
概要	各学生の研究テーマに沿った科学論文(英文)を読解し、パワーポイントにまとめてゼミ発表を行う。発表後に質疑応答を行い、学生が論文を正しく理解できているかの確認を行う。								
評価方法	プレゼンテーション(70点)および講義態度(30点)により総合評価する。								
履修条件・注意事項	特になし。								
自己学習	各自が選んだ科学論文を読解し、日本語で要約しておくこと。これらの準備に計15時間程度を要する。								
オフィスアワー	個人研究室にて、月曜～金曜の間、毎日18時30分～19時30分に実施。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1. 遺伝子組換え作物とは 2. 遺伝子組換え作物の普及率 3. 除草剤抵抗性の原理 4. 害虫抵抗性の原理 5. 遺伝子組換え作物の安全性 6. 検疫検査センターにおける試験 7. 遺伝子組換え作物の作出 8. クローニングの原理 9. パーティクルガン法の原理 10. ウィスカー法の原理 11. アグロバクテリウム法の原理 12. イネの形質転換(カルス作成) 13. イネの形質転換(共存培養) 14. イネの形質転換(再分化) 15. マーカー遺伝子の作用機序			演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」 演習「AL」	桧原・許・谷 坂・氷見
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	地域創成農学演習Ⅳ					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	相野 公孝						NO.	AG-AR-4-606	
配当学科	地域創成農					年次	4		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	植物病理学の基礎および応用分野における解決すべき研究課題について、国内外の学術論文・雑誌の輪読を基に相互ディスカッションを通じて、理解を深める。また、淡路島特産の農作物であるタマネギやレタスをはじめ野菜、イネ、花卉、果樹などに発生する病害の診断を行うとともに、発生状況の実態把握を行う。さらに、地元の農業関係試験研究機関や普及組織、農協等から情報収集を行い、より安全で低環境負荷を指向した病害防除法の開発に繋がる研究課題を取り上げる。以上を踏まえ、次の3項目を達成することを目標とする。(1)各自が解決したい研究課題を選択決定できること。(2)それを追求するための実験計画の立案(目的、実験材料及び方法、結果の評価法など)、実験遂行のための方法と技術習得ができること。(3) 結果の解析・評価法、考察評価のあり方について学び、論文の書式についても理解すること。								
概要	植物病理学の基礎および応用分野における解決すべき研究課題について、国内外の学術論文・雑誌の輪読を基に相互ディスカッションを通じて、理解を深める。また、淡路島特産の農作物であるタマネギやレタスをはじめ野菜、イネ、花卉、果樹などに発生する病害の診断を行うとともに、発生状況の実態把握を行う。さらに、地元の農業関係試験研究機関や普及組織、農協等から情報収集を行い、より安全で低環境負荷を指向した病害防除法の開発に繋がる研究課題を取り上げる。以上を踏まえ、次の3項目を達成することを目標とする。(1)各自が解決したい研究課題を選択決定できること。(2)それを追求するための実験計画の立案(目的、実験材料及び方法、結果の評価法など)、実験遂行のための方法と技術習得ができること。(3) 結果の解析・評価法、考察評価のあり方について学び、論文の書式についても理解すること。								
評価方法	到達目標1～3の成果による評価(30%)に加え、論文の抄録発表やレポートによる評価(20%)、実験の遂行による成果(50%)などを総合的に考慮して評価する。								
履修条件・注意事項	植物病理学分野に選考分属した学生を対象とする。								
自己学習	演習課題に関連する書籍や論文、教員より受けた説明内容などを1日あたり概ね2時間程度復習し、必要に応じて予習も心がける。								
オフィスアワー	個人研究室にて、通常は月曜日から木曜日までの午前中。ただし、アポイントを取ることが望ましい。								

春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
				1. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介① 2. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介② 3. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介③ 4. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介④ 5. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑤ 6. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑥ 7. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑦ 8. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑧ 9. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑨ 10. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑩ 11. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑪ 12. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑫ 13. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑬ 14. 教員による研究紹介① 15. 教員による研究紹介②	AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野 相野
教科書 1	植物病理学 著者:眞山滋志・難波成任(編) 出版社:文永堂出版					
教科書 2	植物医科学 著者:難波成任 出版社:養賢堂					
参考書 1	植物防疫 出版社:日本植物防疫協会					
参考書 2	Phytopathology, Plant Disease ほか 出版社:米国植物病理学会					

授業科目名	地域創成農学演習Ⅳ					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	村上 二郎						NO.	AG-AR-4-606	
配当学科	地域創成農					年次	4		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	植物病理学の基礎および応用分野における解決すべき研究課題について、国内外の学術論文・雑誌の輪読を基に相互ディスカッションを通じて、理解を深める。また、淡路島特産の農作物であるタマネギやレタスをはじめ野菜、イネ、花卉、果樹などに発生する病害の診断を行うとともに、発生状況の実態把握を行う。さらに、地元の農業関係試験研究機関や普及組織、農協等から情報収集を行い、より安全で低環境負荷を指向した病害防除法の開発に繋がる研究課題を取り上げる。以上を踏まえ、次の3項目を達成することを目標とする。(1)各自が解決したい研究課題を選択決定できること。(2)それを追求するための実験計画の立案(目的、実験材料及び方法、結果の評価法など)、実験遂行のための方法と技術習得ができること。(3) 結果の解析・評価法、考察評価のあり方について学び、論文の書式についても理解すること。								
概要	植物病理学の基礎および応用分野における解決すべき研究課題について、国内外の学術論文・雑誌の輪読を基に相互ディスカッションを通じて、理解を深める。また、淡路島特産の農作物であるタマネギやレタスをはじめ野菜、イネ、花卉、果樹などに発生する病害の診断を行うとともに、発生状況の実態把握を行う。さらに、地元の農業関係試験研究機関や普及組織、農協等から情報収集を行い、より安全で低環境負荷を指向した病害防除法の開発に繋がる研究課題を取り上げる。以上を踏まえ、次の3項目を達成することを目標とする。(1)各自が解決したい研究課題を選択決定できること。(2)それを追求するための実験計画の立案(目的、実験材料及び方法、結果の評価法など)、実験遂行のための方法と技術習得ができること。(3) 結果の解析・評価法、考察評価のあり方について学び、論文の書式についても理解すること。								
評価方法	到達目標1～3の成果による評価(30%)に加え、論文の抄録発表やレポートによる評価(20%)、実験の遂行による成果(50%)などを総合的に考慮して評価する。								
履修条件・注意事項	植物病理学分野に選考分属した学生を対象とする。								
自己学習	演習課題に関連する書籍や論文、教員より受けた説明内容などを1日あたり概ね2時間程度復習し、必要に応じて予習も心がける。								
オフィスアワー	個人研究室にて、通常は月曜日から木曜日までの午前中。ただし、アポイントを取ることが望ましい。								

春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
				1. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介①	AL	村上
				2. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介②	AL	村上
				3. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介③	AL	村上
				4. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介④	AL	村上
				5. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑤	AL	村上
				6. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑥	AL	村上
				7. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑦	AL	村上
				8. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑧	AL	村上
				9. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑨	AL	村上
				10. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑩	AL	村上
				11. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑪	AL	村上
				12. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑫	AL	村上
				13. 学生による卒業論文研究のまとめの紹介⑬	AL	村上
				14. 教員による研究紹介①	AL	村上
				15. 教員による研究紹介②	AL	村上
教科書 1	植物病理学 著者:眞山滋志・難波成任(編) 出版社:文永堂出版					
教科書 2	植物医科学 著者:難波成任 出版社:養賢堂					
参考書 1	植物防疫 出版社:日本植物防疫協会					
参考書 2	Phytopathology, Plant Disease ほか 出版社:米国植物病理学会					



授業科目名	地域創成農学演習Ⅳ					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	濱島 敦博						NO.	AR-AR-4-517	
配当学科	地域創成農					年次	4		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	自ら設定した課題について、データ・史資料を収集、分析し、卒業論文をまとめ上げることを目標とする。								
概要	中間発表、個別指導を重ねて、卒業論文を完成させる。								
評価方法	課題提出(50%)及び発表(50%)によって評価する。								
履修条件・注意事項	欠席、遅刻をする場合は、前もって連絡すること。無断欠席及び遅刻は減点の対象とする。また、各講義内容を必ず復習すること。								
自己学習	文献の読みこみを積極的に自ら行う。								
オフィスアワー	火曜日4限、木曜日2限。A402号室。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1.オリエンテーション 2.研究発表(進捗状況の報告) 3.収集データの分析 4.収集史資料の分析 5.分析結果の検討(データ) 6.分析結果の検討(史資料) 7.中間報告 8.補足調査の計画 9.補足調査の実施 10.補足調査の整理 11.結果のまとめ 12.結果の妥当性の検証 13.論文の作成①(文章の校正) 14.論文の作成②(図表の整理) 15.研究発表			AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL AL	濱島敦博 濱島敦博 濱島敦博 濱島敦博 濱島敦博 濱島敦博 濱島敦博 濱島敦博 濱島敦博 濱島敦博 濱島敦博 濱島敦博 濱島敦博 濱島敦博 濱島敦博
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									



授業科目名	地域創成農学演習Ⅳ					履修期	2021年度 秋学期		
担当者	森野 真理						NO.	AG-AR-4-606	
配当学科	地域創成農					年次	4		
必修・選択		単位数	2	時間数	30	授業形態			
テーマと到達目標									
概要									
評価方法									
履修条件・注意事項									
自己学習									
オフィスワ-									
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

0577000012

授業科目名				地域創成農学演習Ⅳ				履修期		2021年度 秋学期									
担当者				平井 順						NO.		AG-AR-4-606							
配当学科				地域創成農				年次		4									
必修・選択				必修		単位数		2		時間数		30		授業形態		演習			
テーマと到達目標				本演習は演習Ⅲと同様に、文献および先行研究の検索・収集を行うとともに、研究テーマをより明確化することを到達目標とする。															
概要				各自の研究テーマとこれまで収集した文献および先行研究との関連を整理する。															
評価方法				課題レポート(50%)および発表(50%)を総合的に評価する。															
履修条件・注意事項				欠席、遅刻する場合は、必ず事前に連絡すること。															
自己学習				授業計画にそって、各個別指導による予習・復習をおこなうこと。															
オフィスアワー				毎週水曜日2限目(11:10-12:40)をオフィスアワーの時間とする。ただし第3水曜日を除く。															
春学期授業計画						授業方法		担当者		秋学期授業計画						授業方法		担当者	
										01 オリエンテーション 02 先行研究の検索・収集(1) 03 先行研究の検索・収集(2) 04 先行研究の整理(1) 05 先行研究の整理(2) 06 研究テーマの検討(1) 07 研究テーマの検討(2) 08 研究テーマの設定 09 グループディスカッション(1) 10 グループディスカッション(2) 11 発表準備(1) 12 発表準備(2) 13 発表会(1) 14 発表会(2) 15 まとめ						演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習		平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井	
教科書 1				適宜指定する。															
教科書 2																			
参考書 1				適宜指定する。															
参考書 2																			



授業科目名	課題研究				履修期	2021年度 春学期～秋学期		
担当者	谷坂 隆俊					NO.	AG-AR-4-607	
配当学科	地域創成農				年次	4		
必修・選択		単位数	10	時間数	150	授業形態		
テーマと到達目標								
概要								
評価方法								
履修条件・注意事項								
自己学習								
オフィスワ-								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
教科書 1								
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								



授業科目名	課題研究					履修期	2021年度 春学期～秋学期		
担当者	平井 順					NO.		AG-AR-4-607	
配当学科	地域創成農					年次	4		
必修・選択	必修	単位数	10	時間数	150	授業形態	演習		
テーマと到達目標	卒業論文の執筆を通じて、論理的思考の養成を到達目標とする。								
概要	卒業論文は専門的に高度なレベルのものでなければならない。文献や資料の精査、適切な章節構成、論理的な論理展開、表紙の一貫性などの総合力を求められる。前期から執筆に取りかかり、数回の推敲をおこない、高度なレベルの卒業論文完成にむけて指導する。								
評価方法	卒業論文(100%)								
履修条件・注意事項	自分の能力を最大限に発揮し、自主的に執筆を進めること。								
自己学習	個別指導をもとに予習・復習すること。								
オフィスアワー	毎週水曜日2限目(11:10-12:40)をオフィスアワーの時間とする。ただし第3水曜日を除く。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
01. 前期オリエンテーション 02. 卒業論文執筆方法(1)ー基本事項 03. 卒業論文執筆方法(2)ー詳細事項 04. 卒論構想発表(1)ー構想 05. 卒論構想発表(2)ーレジュメ 06. 卒論構想発表(3)ー発表 07. 初校執筆(1)ー取りかかり 08. 初校執筆(2)ー書き上げ 09. 個別質問(1)ー資料収集 10. 個別質問(2)ー構想 11. 個別質問(3)ー執筆 12. 個別質問(4)ー推敲 13. 個別質問(5)ー注・文献 14. 個別質問(6)ー図表作成 15. まとめ			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井	16. 後期オリエンテーション 17. 初校提出 18. 初校修正指示(1)ー全体指示 19. 初校修正指示(2)ー個別指示 20. 第二校執筆(1)ー取りかかり 21. 第二校執筆(2)ー書き上げ 22. 第二校提出 23. 第二校修正指示(1)ー全体指示 24. 第二校修正指示(2)ー個別指示 25. 最終校執筆(1)ー取りかかり 26. 最終校執筆(2)ー書き上げ 27. 最終校提出 28. 卒業論文振り返り(1)ー個別 29. 卒業論文振り返り(2)ー全体 30. まとめ			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井 平井
教科書 1	適宜指定する。								
教科書 2									
参考書 1	適宜指定する。								
参考書 2									













授業科目名	課題研究					履修期	2021年度 春学期～秋学期		
担当者	金沢 功						NO.	AG-AR-4-607	
配当学科	地域創成農					年次	4		
必修・選択	必修	単位数	10	時間数	150	授業形態	演習		
テーマと到達目標	3年次までに様々な講義から学んだ知識と、フィールド実習や化学実験などで習得した技術を駆使して、美味しく、安全で、機能性に富んだ新規食品の創作製造を試みる。そしてこの時に、学生が個々の独創性を発揮して新規な加工食品を考案し、それを創成することを試みることで、学生自身に創造力を培うことを、本卒業論文の目標とする。								
概要	学生の希望に合わせて、研究対象とする作物あるいは食素材を選択する。選んだ食素材を、学生の独創的発想を生かして、それを新規加工食品に創作する手法について議論を重ねる。その後は、学生が3年次の地域創成農学演習で身につけた技術を駆使して、試料の分析を、解析に値するデータが集積されるまで繰り返す。得られた解析データは、十分な議論と検討を加えたのちに、それを体系的にまとめてみる。そして、不足データを再度集積して、論文としてまとめる。その論文の内容を仲間の学生や教員に評価してもらい、その評価意見を加えて論文を修正し、まとめ直す。さらに指導教員の十分な検討を受けたのちに、卒業論文として創作食品とともに公開発表する。 *実務経験のある教員による授業科目 本講義の食品化学、食品加工学分野、金沢は民間企業在籍時において日常的に実施していた項目であり、十分な実績を有している。								
評価方法	卒業論文の内容と創作食品を、複数の教員が審査して評価する(100%)。								
履修条件・注意事項	卒業論文のための研究は、一年を通じて可能な時間帯に時間制限なく行う。一年を通して研究するので、他の授業との時間配分を考えて、十分に詳細な計画を立てて、無理しないように持続的に研究を遂行する。								
自己学習	卒業論文はこれまでに誰も試みなかった新しい研究でなければならない。そのため、常に新しい研究情報を入手する努力を怠らないように努力する。余裕が有る時間帯を見つけて、週に3時間ほどPubMedで情報検索するように心がける。								
オフィスアワー	カリキュラムに記載されている卒業論文の時間帯に、実験室で自由な議論をする。								
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
1. 卒業論文研究テーマの決定		講義	金沢	1. 目的とする研究テーマに合った成分の分析			実験	金沢	
2. 研究計画の確立		演習		2. その成分と味との関係を分析			実験		
3. 実験の準備		実験		3. 味と成分の劣化などの変化との関係を解析			実験		
4. 試料作物あるいは食素材の処理前分析		実験		4. その成分のテクスチャーの関連性の分析			実験		
5. 試料作物あるいは食素材の前処理		実験		5. 成分変化にともなうテクスチャーの変化を解析			実験		
6. 前処理後の成分分析		実験		6. ガス・マス分析法の習得			実験		
7. 処理時間の経過に伴う成分変化の分析		実験		7. 成分の化学的变化を分析するための前処理			実験		
8. 処理方法による成分変化の分析		実験		8. 成分の化学構造変化をガス・マスで分析			実験		
9. 分析結果の解析		実験		9. 分析結果の解析			実験		
10. 解析結果の議論		実験		10. 不足データの再収集			演習		
11. 再現性のための分析データの取り直し		実験		11. 全データのまとめ			実験		
12. 不足データの収集		実験		12. データの意味を議論			実験		
13. 解析結果の再検討		講義		13. 研究報告のまとめ			演習		
14. 分析結果のまとめと結果報告の作成		講義		14. 卒業論文の作成			演習		
15. 中間発表と今後の検討課題を議論		演習		15. 卒業論文発表の準備			演習		
				16. 卒業論文発表会			講義		
教科書 1	なし								
教科書 2									
参考書 1	その都度配布								
参考書 2									

授業科目名		課題研究				履修期		2021年度 春学期～秋学期					
担当者		濱島 敦博						NO.	AR-AR-4-518				
配当学科		地域創成農				年次		4					
必修・選択		必修	単位数	10	時間数	60		授業形態		演習			
テーマと到達目標		本学部の専門教育課程の集大成として卒業論文を作成することを目指す。											
概要		演習Ⅲ及び演習Ⅳで学んだスキル・知識を用いながら、同演習の受講を通じて卒業論文を完成させる。											
評価方法		課題提出(50%)及び発表(50%)によって評価する。											
履修条件・注意事項													
自己学習		関連文献を積極的に自ら読み込むこと。											
オフィスアワー		火曜日4限、木曜日2限。A402号室(濱島)。											
春学期授業計画			授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
1.オリエンテーション			AL		濱島		1.オリエンテーション			AL		濱島	
2.研究計画の発表(課題設定)			AL		濱島		2.研究発表(進捗状況の報告)			AL		濱島	
3.研究計画の発表(実証方法)			AL		濱島		3.収集データの分析			AL		濱島	
4・データの集め方			AL		濱島		4.収集史資料の分析			AL		濱島	
5.史資料の集め方			AL		濱島		5.分析結果の検討(データ)			AL		濱島	
6.データの計量的処理の仕方			AL		濱島		6.分析結果の検討(史資料)			AL		濱島	
7.史資料の読み方			AL		濱島		7.中間報告			AL		濱島	
8.研究計画の発表(.課題設定の再検討)			AL		濱島		8.補足調査の計画			AL		濱島	
9.研究計画の発表(実証方法の再検討)			AL		濱島		9.補足調査の実施			AL		濱島	
10.データ収集調査			AL		濱島		10.補足調査の整理			AL		濱島	
11.史資料収集調査			AL		濱島		11.結果のまとめ			AL		濱島	
12.収集データの検討			AL		濱島		12.結果の妥当性の検証			AL		濱島	
13.収集史資料の検討			AL		濱島		13.論文の作成①'(文章の校正)			AL		濱島	
14.研究の方向性の確認			AL		濱島		14.論文の作成②(図表の整理)			AL		濱島	
15.総括			AL		濱島		15.研究発表			AL		濱島	
教科書 1													
教科書 2													
参考書 1													
参考書 2													

授業科目名		課題研究				履修期		2021年度 春学期～秋学期						
担当者		末吉 秀二						NO.	AR-AR-4-518					
配当学科		地域創成農				年次		4						
必修・選択		必修	単位数	10	時間数	60		授業形態		演習				
テーマと到達目標		実証的な論文が書けるようになる。												
概要		地域創生農学演習ⅢⅣとともに他の時間を利用して卒業論文を書き進める。												
評価方法		到達目標を計るため、授業での積極性(20%)、論文の内容(80%)により総合的に評価する。												
履修条件・注意事項		欠席、遅刻をする場合は、前もって連絡すること。												
自己学習		個別指導をもとに予習・復習すること。												
オフィスアワー		月曜日・金曜日(3限、5限)												
春学期授業計画				授業方法		担当者		秋学期授業計画			授業方法		担当者	
1 オリエンテーション 2 研究計画の発表(課題設定) 3 研究計画の発表(実証方法) 4 データの集め方 5 2次資料の集め方 6 データの計量的処理の仕方 7 2次資料の読み方 8 研究計画の発表(課題設定の再検討) 9 研究計画の発表(実証方法の再検討) 10 データ収集調査 11 2次資料収集調査 12 データの検討 13 2次資料の検討 14 研究の方向性の確認				演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習		末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉		1 オリエンテーション 2 研究発表(進捗状況の報告) 3 収集データの分析 4 収集2次資料の分析 5 分析結果の検討(データ) 6 分析結果の検討(2次資料) 7 中間報告 8 補足調査の計画 9 補足調査の実施 10 補足調査の整理 11 結果のまとめ 12 結果の妥当性の検討 13 論文の作成(文章の校正) 14 論文の作成(図表の校正) 15 研究発表			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習		末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉 末吉	
教科書 1														
教科書 2														
参考書 1														
参考書 2														